り。三年前佛伊兩國の製糸の競爭あるに當り。互に器械職工を精選し時間を之を考へて十分力を盡したりしかは。勝敗未た決せざりしに終に伊の勝利に歸するに至りし所以のものを考ふるに。從來職工には其食として「パン」と肉とを與へたりも故。晝餐一時間休憩の後にあらざれば職に就かしむると能はざりしが。伊は終に之に代ふるに「パン」と肉とを以てするに至りたるために職工をして休憩三十分にして就職せしむるとを得るに及び。此三十分の實に勝利の原因となりしなり。僅少の人數の上には三十分の時間多しとなさゞれども二万三万の頭上には非常に莫大のものなるとを須ざるなり。而して職工に米を與へたりしが爲めに敢て職工の衰弱せるを見ず。「パン」と同樣にして兩かゝる時間の經濟をなし得たりしは其利決して尠少にあらざりしや知るべしされば我國の工業國として立つ以上に於ても米食によりて斯る効能を現はすものとすれば。宜しく水田を奬勵して之を上運せしむるとは目下の急務なりとす。且つ我國にては農事の盛なるに從て米價廉直なるへく。之と同時に職工の生活容易なるか故亦其賃銀の低下を致も工費の少きを得。進て競爭上勝利を占むるの資となすに足るへし。之れにつきては我農事を亦改良を加ふべき點少きにあらず。例へは九州は

農作の點進めるも肥料使用の方法未だ不十分なり。富山縣は最も農事に長ず又北海に濱する國を見るに早稻は已に九月の末に之を刈り取るも雖も。秋田の如きに至りては晩熟にして降雪後始めて之を刈るが如き有樣なり。玆に一笑すべきは日本國中他に之れなく熊本人程不良米を食ふものは他に之れなし。即ち熊本は不良の米を食ふて不良の米を輸出するも。秋田は良米を食ふて良米を輸出するものなり。廣島の如きに至りては自國の惡米を出して山口の良米を入れ之れを食ふに至る。これ國風習慣にまるものなるべきも。亦秋田米は一概に不良なるにあらざるを知るべし。然れども秋田米の不良なる所以のものは。他に主要の原因なくんばあらず。即ち人口の不足是なり。人口不足なるときは自ら地主と小作人との關係不十分にして。小作人は其一家族を以て耕すに堪へざる程多くの地面を地主より借り受くるが故に。植付の時收穫の時も滿足に手を盡す方法なく。終に或は降雪後之を刈り或は乾かせしものを再び濕ちす等種々不都合の事ありて秋田米の惡評を得るに至りしなり。全躰より觀るときは東北地方はなほ未だ人口甚だ僅少なるが故。兩國人民を此地に移すとも工業

對外策に欠くべからざる事なりとす。又北海道の開墾の如きも此地より大に小麥其他穀物を出すべくんば。西比利亞地方に需用多きは疑を容れず。されど若し我工業の盛果して此に至らんには。或は食物の不足を告げてピルマ地方より所謂南京米を入るゝの必要を感するに至るべし。されど余は飽くまでも肥料種子等を改良して農業を盛大にし此等米の輸入を防かんとを希ふなり。且つ此に一言すべきは。凡そ工業國としての一國の工業地は決して左程數の多きを要するものにあらず。故に其工業地と定りぬる處の外は之を農地として。農業を盛にするの策を盡すは寧ろ得策なりとせざるべからず。

若し斯の如くにして改良し而して我國現今の田地を二百七十五萬二千〇七十三町歩とし一反歩に付五十錢宛收穫を增加するとも實に一千三百萬圓の國財を饒すべき也

又此工業用の原品の類は到底之を我國内に求むべからざるは明なり。東方策第一編に論じて曰く。日本國の面積は將來日本が爲さんとする商業の隆盛に應すべき製造物の原質を生ずるに足らず。故に製造原質物の產出者として任す可からざるを以て。

應に製造國を以て任すべきの國なること將來必す英國の如くならん。

今英國に於ける製造の概況を調査するに主なるものは左の如し。

製造原品綿輸入一ヶ年高三億二千四百万〇〇〇〇圓(64⅘millions sterling)

製造綿糸及金巾輸出高四億六千二百万〇〇〇〇二圓(77½millions sterling)

差引一億三千八百万圓

製造原品羊毛輸入高一億一千四百万〇〇〇〇三圓(19.4 millions sterling)

製造毛織物輸出高一億八千六百万圓(31 millions sterling)

差引七千二百万圓

飜て我國を顧みるに今年上半季間に於ける綿花需用總高五百七十九万五千七百十七貫なり而して自國の綿を使用するは實に僅少のものにて只其絲に白色を添ゆる爲め加味するに過ぎず將來工業益す盛大に赴き金巾羅紗等種種の織物を製出するに至らは從て多く原品を他方に仰がさるを得す然らは我國何處に向て買求すべきか。余惟ふに紡績糸の原料は之を支那印度か請ふ之を論せん

我國製造原品之を何處に向て買求すべきか。余惟ふに紡績糸の原料は之を支那印度

に取ることを得べしと雖然れども我の商敵たる英國に對せんとせば二途に向はざるへからず即ち一は印度のボムベーに對するとにして二は英のマンチエスターに對すると也而してボムベーに抗せんとするには支那印度の綿を用ゐて勝算十分ありと雖も若し其マンチエスターと相抗するに於ては支那綿印度綿にまるときは四十手以上の細糸を製することは能はされば必ず其原品は之を米國に仰かざる以上は勝算なかるべし我國今日之を米國に需めんとするには運賃高くして堪ゆべきにあらず然れ共ニカラグア運河成就の後は直ちに米國北緯三十九度以南の棉花地即ちアラバマ、ヂオロヂア、ミスシッピー、ルイヂアナ及其他西南州より輸入して英と決戰すると敢て難きにあらず即ち米國よりマンチエスターに至りて製造され更にニカラグア運河を過て東洋に出つると我國に米國綿を取りて製造輸出するとは恰も大西洋を往返するだけ我國は距離上の勝たらさるへからず又羊毛の如きは濠州及び「カリホルニヤ」を以て其の最良なるものとすべく現に英國は之を該地に取れるが彼の亦濠州より一たびマンチエスターに至りて更に東洋に出たすに比すれば我國は彼の濠州より本國に達する丈の距離を經濟するを得べく何れにしても我の英

に勝たざるへからざるは明なり且つ我國は北部支那より羊駱駝の毛を入るべく又繰綿の原料の如きは我國の越後其他之を產するの地多しと雖も吾糸た之を借せず假すに之を見ずして歐洲或は其他の國より取るさせん事勢我製造所は之を九州に置くの益已むべからざるを知るなり（東方策第二編第八千六百參照）

今日本紡績器械所の盛衰の歷史を閱みずるに大に糸の說を確かむるに足るものあり即ち日本の此歷史の第二は日本製造業の愈對外策に向ひたるを證し漸く製造業の基礎此に成らんとするの運に到着せるを明にするものゝ如し昔て神戶商法會議所に於て演べて曰く先つ第一期には其の紡績場を立つるや我國綿花の產地を選びて之を起し以て外國より輸入する所の綿糸に當りて之を防がんとしたり而して其製造綿絲は十六番以下の太き綿絲に止まり之を內國一部の需用に充てゝ和紡績絲と稱す明治十二年頃より十四五年の間に起りたるものは愛知紡績所大和紡績會社岡山紡績會社下村紡績所島田紡績所大坂紡績會社廣島綿糸紡績會社等なり然るに日本の此綿花を以て紡出せしものは二十番以上なるホムベーマンチエスター絲と競爭する能はざるを知り且此頃恰も金利低平にして紡績事業大に起り固定資本の如きも

一千万圓以上に至れり。第二期には支那印度の綿を輸入して糸を製し以て輸入を防かんとし。即ち我工業上の思想はなほ未た内地的にてありき。然れども第一期の如き必ずしも製造場を以て綿の産地に立てずして大都府の近傍に之を起したり。即ち浪華紡績會社、堂島紡績所、泉州紡績會社、鐘淵紡績會社、東京紡績會社、和歌山紡績株式會社等なり。これ我製造場の資本主たるものは多く大都府に住し。而して實業會の腐敗せる信用成立せざるかため資本者は皆其居を離れて製造場を造るとに安心せず。且つ製糸の資捌に近きの地を選びて立てたるによるものなり。而して日本現今紡績の傾向を示せるものなり。第三期とは所謂製造場の漸く石炭産出地の近傍に建てらるゝ時にして今年に至つて三萬八千留米の紡績所は此に立てらるゝに至りしは亦其徴候を見るべし。今や已に第一期の製造所は其跡を絶たんとし第二期亦全く衰へ。第三期の盛なるに至りて。我國工業對外策の基礎始めて十分なりとゆふを得べし。尤も内國に需求する物品を製造するの必要あるが故。今日の第三期の紡績所は幾分か獲利すべきは明なり。されば工業對外策上、東洋の大勢上より見るときは。某第三期に我國

の東洋に對する工業對外策初めて確立すべし。

余一昨年來我製綿糸の東洋にて英國と競爭して勝ち得るや否やを調査せしに。其勝つ能はざる所以のもの三あり。第一、製造所にて石炭の價高く第二は綿花輸入運賃貴きにより。第三は職工賃銀の高きとを是なり。こは別に國民の教育論に詳述すべきにより客して言はず。而して製造場を九州に建つるときは能く此三を除くとを得へく石炭産出物にして市場、製造原質産出地遠からずして賃銀廉し。

我國工業中心點撰擇の方法は嘸か已に論述し盡せしに此に新に一考を要すへきは昨年余の京都に至れるや。藤井紡績會社を評して曰ひけるは大阪まてさへ筑前炭を携へ來るときは其の價高きに堪へず。然るに紡績所を京都に建つるか如きは不得策も亦甚たしからずや。何となれは筑前炭の大阪に達するとと大阪より之れを京都に送るとは運賃殆んと等しけれはなり。然るに今年再ひ往て之を見しに。此紡績會社は石炭なしに石を運轉し居るを見たり。此一點これが實に我工業社會の一大問題なるべし。何者やこは京都疏水工事を利用して電氣を起し針線を以て之を通じ三十馬力の力を以て之が器械を運轉せり。我國にありて水を利用して電氣を起せるもの唯實

に此紡績會社と箱根の電燈會社とを以て瞎矢となす。左に京都疏水運河電氣利用の一班を擧ぐ。

疏水運河に據り琵琶湖より引用する水量は一秒時間三百個なり此內電氣を起す爲め用ゆる水量は貳百個にして之を電氣の馬力數に換算せば貳千馬力に有之併小馬力の製造所は分配する時は殆貳千四百馬力は得るの目的にして目下使用する馬力及工場の巨離は左の如し

使用所　距離　馬力

インクライン　三百五十間　五拾馬力

上ヨリ落ス

工場川端東入　四町半　三拾馬力

藤井紡績所

富小路二條上ル　二千五百間　五馬力

時計製造會社

自下機械据付中の分

川原町四條上ル　凡二哩半　九十馬力

京都電燈會社

西洋にありては河流一般に靜穩なれとも我國にありては其地勢中央に山脈を横斷し河流東西に奔馳す故に其流れ多くは急激なり故に余の京都を發して北陸東北の

地方に向ふや諸河流に就きて一々果して電氣を起すに適するや否やを檢せしに富山縣の河流は五三を除くの外は必す出來得へしと雖も又北陸の河流は多くは段をなして流るゝが如き狀態あり特に能代川の如きは鷹巢の近傍に「トメ」と稱するものありて十段高低を爲し恰も瀧の如し此に電氣を起すことは至て容易に行はるへし此電氣を起す所に水器械所を置き之より針金を三里若しくは四里の便利よき所に持ち來りて器械類製造所を建つへし尤も里數の隔たるに從て電氣の力も減ずるが故に幾里數迄は之を引くことを得へきやは理學上の問題に屬すと雖も二三里までは確かに差支なかるへし得へくんば北陸地方の如き石炭なき地なるほど器械製造所を起すを得るの便あらん況んや之を石炭を費やすに比すれは費用も亦頗る減するを得るあるをや今き能登の輪島岬以北は北海道の石炭を用ゐ其以南は筑前炭を用ひるも其價至て高く西比利亞に市場近しと雖も北陸が九州北海道と競爭しては更に見込立たず然るに電氣によりて器械を運轉するの日に至らは西比利亞に第二の新濠州米州を得たるの日北陸に於て完全なる工業場を起すと差て容易なるへし。これ實に我全國の工業上に取りて非常の利益にして影響の

至る所尠少にあらざるが故宜しく速かに國庫より調査費を出して專門理學者をしてこれが調査に從事せしむべし。これ工業對外策上急要の一事たり。

此の如く夫れ工業の中心點を論じ來らは。人必ず言はん北海道は如何と。余謂ふ夫れ北海道は九州に次ぐ工業地たるに相違なし。曠原沃野山海連環。且つ西比利亞加奈陀に近く。太平洋に於ける諸航路を控制し。又石炭に富む。故に石炭を賣りて以て之を製造原品に代へ。若しくは其土に生ずる原物を採りて製造せは。其利益たる決して少小にあらず。唯惜む北海道は今日新開の地たるを以て。諸物價總て高貴にして賃銀の如き特に廉ならず。されは今日此に製造所を置くとも不便多くして。九州の如き製造地と到底競爭すること能はさるべし。余は又更にいふ中國小野田地方より。內海一帶の地は內國に對する工業地と定めなは。最か恰當なるべしと。

今日我國か最も急にせさるへからさる工業の種類は。第一紡績、第二金巾、第三毛織、第四ドックを造る事等なり。我國現今紡績所三十五ヶ所ありて錘數は三十七八万本あり。之を往時に比すれは盛んならさるに非れとも。工業對外策的の眼中より視れは實に寂寥微稀の感なき能はず。試みに左の錘數を見よ。

英國	四千貳百萬本
歐洲大陸	貳千貳百萬本
米國	千貳百萬本
亞細亞諸國其他諸國	四百萬本

我將來東洋の市場に於て英國を敵とし競爭せんと思はゝ。現今の錘數に猶は四千百六十餘萬本を增加するも何そ多しとなさんや。以で僅に英國と比肩すべき數に過きず。第二の金巾製造所は現今只一ヶ所に過きず。然れとも是れ、紡績にて輸出せんよりは。最も見込みある事業にして。我國か東洋に對する工業上必ず此業を奬勵して前者を駢驪するを勉むへし。第三の毛織は濠洲支那地方より製造原品を輸入して種々の織物を製す。是亦將來必然起さゝる可らさる事業にして利益少なきにあらさるべし。第四のドックは長崎、神戸、横須賀等には兎も角設けありと雖も。西大門なる敦賀の浦底及び函館には之なきなり。ドックは我國か東洋に對し世界に對して。問屋たる上に就て最必要の機關にして最も速かに着手せさるへからず。若し夫れ完全無缺のドックを敦賀若くは函館に造り置かんか。函館は加那陀桑港尼加剌瓦等より西比利亞に

往復する通路なれば。此等の船舶は皆此ドックに入るべく。又東洋艦隊等の暑を此處に避け來るもの。亦此ドックに入る。而して船舶は荷物を積みしまゝドックに入る能はざるを以て悉く荷を下して而る後ドックに入り修繕をなすを以て自から物貨集散の地となり。彼是其港々へ金銀を撒することと決し少許と謂ふべからず。呉に於てさへ一のドックありと雖も。是れ諸船の入るを許すや否や亦一の問題なり。若しドックならば。此間は濠州、尼加剌瓦、桑港、加那陀等より。西比利亞に至る航路にして百船集湊する場所なるを以て。則ち馬關海峽の近傍にドックを設く可きなり。以上六大航路の衝點なる横濱、函館、敦賀、長崎、呉、神戸、横須賀等には必ずドックを設け。先つ東洋に於ける一大問屋たる地歩を作るは缺くべからざる急務也。就中新設を要すべきものは敦賀、函館、横濱あり。

余は石炭につき聞ふ所少しく述ふる所あらん。凡そ我國にて現に年々産出する石炭は六億四千九百萬貫餘にして內國にて消費するは僅かに百十六萬噸に過ぎず。其他は香海、上海、シンガポール、マニラ、西貢等に輸出す。而して競爭者たるものは濠州、東京の石炭是れあり。然るに我國の石炭は今や既に其市場閉塞して大に困難を極むるの狀

あり。縱令西比利亞の內地にて木を燒くとなく石炭を用ゐるとなるも。彼の地も亦已に炭山を有するが故。未た日本石炭の新市場と見做す能はず。亦之を太平洋岸に送る歸路船に積むべき物品なきが故に利益を見ると能はず。故に九州石炭今日の有樣は濫出の弊甚たしく。石炭に從事するものは其損失を顧慮せず之を賣り出すを常となり。九州にては一昨年濠州に於て職工の同盟罷工ありしに際し。石炭相場一噸三十圓內外に騰貴したりしかば從來に反して。資本家の金銀を擲て炭山の業に從事する者を見るに至りしが。其後損失に拘らず尙ほ能く之を支へ續々輸出するを以て。大に香港上海にては我石炭の既有の聲價を減損したり。是れ決して我國策上良方法を得たるものとなすべからず。蓋し石炭の如きは羊毛若しくは農產物の類の如く年々之を產出するものと異なり。之を掘出すに從て減少し去るの外なきものなれば。石炭坑は一箇の井泉の如く決して無盡藏視すべきものにはあらず。殊に如き、所より之を始むべく且つ坑も未た淺きが故に之を發堀するや最初は必ず便利宜き所を堀出すに費用も自ら多くして。石炭の價も低廉なるを得ると雖も。其坑を漸く深く運送の濱々不便なるに至り從て石炭の價格高直となるは動かすべからざる定則にして

余自ら三池炭坑を踏檢して知る所也然り而して今日の如く石炭を濫堀するに於ては數月を重ね年を過き我東洋に對する工業中心點を九州に確定せる曉には早已に石炭の價は騰貴したる時にして恐らくは此策も途に無用に屬することなきか是れ余の杞憂する所なり故に速かに工業對外策を確立し器械的工業を石炭の産出地に立て而して石炭を使用して且つ濫堀の弊を矯め即ち石炭堀採總額の三分の二を內國の消費に充て其餘の一を海外市場に輸出する域に至るを要する也英國の其石炭を歐洲大陸バルカン半島に出すも決してかゝる價格を破るか如き事をなさゝるは全く其堀出せる石炭の多分は內國にて消費し唯殘餘を以て外國市場に賣出すを以て也今日石炭濫出の弊を防止するとは實に我工業對外策上必須の要策なり。

第七　國民教育——商業學校——工業學校——航海學校

商業對外策並びに工業對外策の兩面より立策すへき事あり第一に日本今日過誤の思想は製造所若しくは銀行會社の類を作れは其機械を以て人類を動かすへしと思惟し政府にして法律憲法を作れは法律にて能く人を動かすへしと思惟す即ち人間は器械に使動せらるゝと思ふなり然れども之を動かすものは人にあり人なくんば憲法あり國會ありとも却て國家的事業の進歩を促かすとは珍らしからず銀行會社あるも人にしてなければ無用の長物たるに過きず故に商工業上の機關を動かすものは唯人にありて其他にあらず是れ則ち人間は万物の靈たる所以にして歐人稱して人は商業世界の主人公と云ふ(Man is the master of the mercantile world)然らは則ち商工業の對外策は人にありて始めて確立するを得るものにして此點より見る時は世界及東洋問屋の主人番頭丁稚たるに適當の人を要す然れども見よ長崎商人の如きは此地古來の唯一の貿易獨占なるか和蘭人は時日を限りて來港せしかば其間に利潤を占めて他は全く遊樂に其日を送るの習慣を生じ神戸の商人は多少有爲の氣なきにあらずと雖も惜むらくは資本を有するものなきが爲め自立の精神薄弱にして大坂商人に其利を制せらるゝの觀あり新潟に至りては北海道を控へて一攫千金を得るの慣をなし箱館は海産物を支那に出すか故に或は特に支那等に至りて之を視察し來るものもなきにあらずと雖も亦甚た商人の風を全ふせりとせす橫濱商人の事は天下の知る所亦敢て言はざ

るべし。我店まきの番頭即ち貿易商人は、既に斯の如し。商業の活氣を知らず、信用薄く、貨物を丁重にせず、華主に厚からず、毎日居眠りを欠伸とに日を送る如何に世界の門戸を立て、店さきを飾るとも、何を以てか其繁盛を望むべけん。此風を矯めざる以上は、我商業對外策は決して立つに由なきなり。此に於て商業教育の必要起る。

我國に高等商業學校其他之に關する教育場少しとなさず。然れども此等の教育ありよるときは到底東洋及び世界に對する主人番頭を作るとは望み得べからず。所謂我國の商人なるものを作らんと欲せば、教育法は之を別途に求めざるべからず。其別途の教育法とは如何。見よ大阪の如きにありては兒童幼年の比ひより既に店さきの小事に機敏なる實に驚くべきものあるも、販路の思考に疎き驚に堪へたり。又近江商人に至りては之に反して其第一着に眼孔をつくる所は販路の如何にあり。故に北海道其他谷地に至るに其出張支店を見ること多きは實に滋賀縣の商人にあり。高等商業學校等にて教育されたる所のものは學理に於ては固より其所長なるべしと雖も、毫も商人となすの資格を有せず。其卒業後は銀行會社の書記となり簿記かゝりとなるには極めて適當なるを見る。未た丁稚奉公の階級を經ざるか故に人情に通せず人の上に立て之を統御するの力に乏し。故に却て此等の人は我實業界を破壞し去るの傾なきにあらず。例へは今此一會社に於て十ヶ月五十圓を得る實際的修練を經たる一役員あり。然るに高等商業學校の卒業生なりとて此頃新たに五十五圓以上にて、此會社に入り來れるに、實際的修練を經し役員は却て卒業生より數等優るも。唯一方の卒業生なる名義に對して增給することは漸く落膽して如何に力めて勉强するときは、さるときは。到底彼の卒業生と同額の給料を受る見込なしと斷念し。實際上の仕事には練熟して常に彼れの上にありと雖も、終に自屈自放するの已むを得ざるに至るべく從て該會社の活氣は衰へ實業社會の頽勢に趣くを見るに至る。されは大阪商人の如き。近江商人の如き。若しくは現今の商業教育の如き。共に曾一方に偏倚するものたるを免れざるの觀なきにあらず。故に余の所謂商業教育は。此等三種の長所を集めて一の商業學校を組織せんとするにあるなり。此學校にては書籍を讀ましむるなし。即ち我國人中一般に存する書籍を讀ましむれは書籍に讀まるゝの通弊を避けしめ。其卒業は次凡一年乃至二ヶ年とも。課目は曾書籍によらしめずして。銀行の事は銀行の頭取爲替の事は爲替方之を日頭にて教ゆるが如く。其他商法會議所會頭役員の如

き實業家經驗家中一種の重きを持するの人。專ら之に任じて其大本其活用を敎授すべし。且つ市場の事に至りては日本の商業地理。外國の地圖を開きて直接に之を敎ゆべく。其他受取の書方の如き又は算術及び臺張簿記の付方等を習はしめ。特に商業道德は理想的道德學等には一切よるべからず。一市中に身に重を持するの實業老成家の自己の經驗談をなし。かゝる時は余の失敗の時なりし。かゝる場合は余の勝利の場合なりしと。一々來歷につきて說き開かしむるとは。商業道德として最良の方法なるべし。

斯くて該學校の學生は讀書は爲さいるも學問は爲したるものなり。既に其商業學大本を捕へたるか故に。宜しく之を實際に活用せしむる樣の方向を取らしめ。なほ下稚小僧となりて他人の使役する所となり。人情の甘酸をも辨まへ實際理地兩ながら習得して始めて販路の考より統御の才までも全ふするを得るに至るべし故に此主意に依りて熊本に設立せられたる學校規則書に自ら筆を把て審頭丁稚にして實際に商業に從事するものにあらされは。入校を許さずと書き入れたり。

されはかゝる商業學校を設立するとは。實に我國に取りて必要なる所にして。余昨年大坂に今年各地に之を說けるや。大に之を賛するものあり。現に熊本の實業家懇親會席上に於ては直ちに之れか設立を議決したりしが既に開校せられ大に隆盛に趣くとの報に接せり。余は該學校の將來に向て大に樂しむ所あるなり。廣島其他の各地に於ても其實業家か之れか設立を余に謀られたるものありたれども。余は熊本の結果を見て然る後に之を創立するも後にあらずとて之れを止めし位なり。他日は此の商業學校を全國に設立するの覺悟なり兎に角かゝる敎育を受けたる人にして。讀書に依らすとも學理を頭裏に備へ商業上の觀察をもなし。原品取調べに從事し販路競爭の如何をも考へ商工業上に力を盡すの日に至らんとは。實業界のために必要の事たるは疑なかるべし。

次には工業敎育の事に及はざるへからず。昨年十二月大坂に於て演へて曰く我實業家のなさゝるへからさるは工業學校の敎育を世に普くすべきことこれも。而して余の云ふ所のものは卑近單純なる工業敎育なり今日我國工業上英のマンチエスター印度のボンベイと競爭して勝つ能はざるは第一に職工の未熟より來るもの最も多きに居る若し夫れ賃銀の低廉なるは實に世界無比にして一人一日十二錢より三十

錢の間にして平均十五錢に過きず最も熟練すと稱するものゝなほ三十錢四十錢以內にして婦人の如きは十錢より十四錢小兒に至りては二日僅かに四錢を出でず故に表面上に於ては甚だ低廉なるが如く見ゆるも其製造の出來上りし結果に於いて之を檢する時は却て高價のものとなる先年ボストンにてクッカソンの紡績事業の實績を比較せるによるに印度人五人に對して英人一人の割合なりしも今日は印度人三人半にして英人一人と匹敵するに至れり又マンチエスターにては三萬針のものは百八十の手にてなしたるも日本人は五萬六千針のものに二千七百人を使用し英職工二人に對する日本職工四人六分の二なる狀態なれば印度の職工にも及ばず賃銀の低廉なるにも關はらず其結果を比するに上り高の高價なるを見る斯の如き所以のものは實に唯此職工の熟練の足らざるに歸す果して然らば奇くも世界の工業國として東洋に表立せんとする以上は十分に工業教育を盛ならしめ以て此等職工の手術を進歩せしめざるべからず。曾て漫遊中金澤の職工學校を視るに萬事稍々整頓せり然れども亦是れ高尙の傾向にして實際的工業社會に充分の利益を與ふる能はず因て余は理事者に向て實際工業に利益を與へんとならば學問と實業社會との障礙を除きて彼と是とを通ずる橋を架せよ即ち簡易實務の學生を養成せよと云ひたりき。

我工業對外策上より視るときは將來の工業區及ひ工業主府たるへき地に各々國庫補助の工業學校を興して以て工業の基礎を建つへし往昔英國エリザベス女皇の創業時代には大に良工を養成せんと勤め今日歐洲大陸及ひ米國と競爭せんとする時代に於ても亦大に工業教育を奬勵しあるなり而して其學校は我國今日の東京職工學校の如き學理に偏傾せる學校にあらずして實近單純の職工學校なり其生徒の秀群なるものは之を外國に遣はして練習せしめ又は工業參考室は器械を備へて實地の練習をなさしむへし若し我國に工業教育の考起らずんば日本人は文明の利器を手にしながら十分に之を活用すると能はざるに至るへし。

次に日本が商工業對外策上航海權を掌握するの必要は既に深く之を論じたりしか之れつきては亦航海教育を盛にせざるへからず余の義勇艦隊の設立之かために出づるなり政治對外策海軍編參照我國には商船學校なるもの東京箱館大阪等にありと雖も皆な諸港に之を創立して愈盛大ならしむへく而して海軍的教育も之に從て

進歩追作せしめざるべからず。

以上三種の教育を全ふして國民的精神（ナショナルスピリット）を商工業に教成するときは國家方般の事皆此腦中より割り出すことを得べし。我國人にして歐米に遊ふるの皆彼の鐵道電信造船の盛なる家屋市街の宏壯なるを見て之か源基をなす所以の國民的精神の如何に其眼を着ずるものなきは慨す可の至りも也。苟くも國家百年の大計を立てんとするものは此に考慮する所なくして可ならんや。而して此百年の大計は皆人腕によりて以て畫策さるゝものなるを思はゝ其大策偉計を四方八面に運轉すべき活人を養成修化するは國家先進たるものゝ重任也。

第七章　政治對外策——覇權の勢を制せされば其實擧らず——

ふ——政治對外策の大勢を論して東洋の大勢に及ぶ——歐洲の大勢の大本

按ずるに實と勢とは雲の龍に於けるか如く風の虎に從ふか如し。蓋し實と勢とは兩相關繋し實なければ勢を制すること難し。余前章に於て商工的對外策を論述して以て我日本か將來東洋に覇權の實を占握する國策を献立せりと雖も未た覇權的勢威を控制すへき政治的對外策に論及せず。是れ恰も貨物を船舶に滿載し而して猶未た錨を抜き石炭に火せさるに同じ。船舶たるもの其能く快走疾馳せんや。是を以て余は毫を轉して政治對外策に就入せんと欲す。是れ如何に實的對外策即ち商工對外策を精畫すると雖も勢的對外策即ち政治對外策を確立するにあらさる以上は不動的なる實を活躍せしむる能はさるを知れはなり。且つ覇權の勢を制するときは其實も亦之に從て來ると無しとあさず。然らは政治的我國對外策は之を如何にすへきか。複言すれば東洋に覇權的勢威を控制せんと欲さは其計圖如何に規畫せさるへからさるか。我大日本國民か果して此希望を達すへき旅程に上らんとならは。請ふ先つ東洋に於ける大局面の形勢を看破悟了せんには必つ先つ其本源なる歐洲大陸の形勢時趨を達觀達察するを要す。蓋し現世紀に於ける東洋の波瀾は皆歐洲列國形勢の刺衝搖動する所なるを以て也。請ふ余をして歐洲列國の形勢に眼光を注がしめよ。

蓋し歐洲の本土は今や獨逸澳太利伊太利の三國同盟其中央に盤桓し之を兩邊に挾んで露佛二國互に相連衡し英國は上方に卓立して以て之か權衡を制し隱然大勢の

鈎軸を把握する者たり。現時の大勢は實に此の如し。將來は果して如何。之を諒めんには。先つ既往の歷史に遡りて以て今日に至るの次第を知り。終に之を將來に推すの地を成さゝる可からず。

抑三國同盟は元伯林に於ける一千八百七十八年の列國會議の結果たり。當時歐洲各國の豪傑が伯林の一堂に相會し。俾斯麥其會長席に就きて決了したる最後の現象は。即ち此三國同盟たりし也。蓋し先是。同年露國は土耳古と難を構へ。百萬の大軍を遣つてバルカン半島に下り。進んでコンスタンチノープル君府の關門に及ひ。土の亡滅旦夕に迫り。土は舊都小亞細亞のブルッサに却くか。或は平和の條約を露國に結ぶか二途其一を取らさる可らさるに至り。結局第二の策に出て。所謂サンスタファノの條約を結ぶに至れり。該條約たる固より土の窖窟に乘して露の恣に要求せし所なるを以て。露は十分の目的を之れに加へたり。而して是れ實に外交上の雄傑として聲名歐洲に轟ける陸軍中將イグナチーフが僅々二十四時間にして自ら草する所なりしと云ふ。露の目的とせる所は土耳古を三分して中央にバルカンの國を建て因て以てヤヒアテヤと土耳古本國との中央を斷ち。エヂアン海に出で。且恩を人種宗教を同ふするバルガリヤに加へ之を

根據として終にバルカン半嶋を全奪せんと欲するにあり。然れども露國が斯の如くにして地中海の一端エヂアン海に出でバルカン半島を全領するときは。是と正反對の利害を有する者は。乃ち英國なり。若し露にしてオツトー一世が統及を占領して英國印度を絕ちたりし政略を。露國の再演するに外ならず。英國たるもの豈に終に默々として已まんや。當時英國の宰相ビーコンスフイールドは急に英本國の兵を出さんがため六百万磅を國會に要求し。猶印度の土兵をマルタに出だして地中海の艦隊をマーモラ海に派遣し以て露國新勝の勢を挫き。終に宣言して曰く。サンスタファノの條約は無効なり。何となれば一千八百五十六年巴里條約に於て。東歐羅巴に對する問題は該條約に調印せる諸國の承諾を經ざるものは無効なるものと定めしものみならず。一千八百七十一年の龍動會議に於て再び之を確證せり。然らば今日露國が土國との間に結びたるサンスタファノの條約は巴里條約調印の諸國が承認したる所にあらず。又龍動條約に違反する所たり其無効たる固より明なるの事にあらず。耶露國にして果して之を有効なりと主張せば。我英國は策の出づる所唯兵あるのみと。されどサンスタファノの條約を無効とするときは。露國の瑕屑なりざれ

ばとてバルカン半島に於て英兵を受け之と相戰はんは百戰の餘兵力既に竭きたるを奈何せん露進退稍困むの際澳太利は之が停講を試みんと欲し巴里會議及び龍動會議の例に倣ひ歐洲各國の會議を伯林に開きて此問題を決せんとしたり英露は輒ち之に贊し乃ち所謂伯林會議を開くに及べり然るに一旦會議の開かるゝや英國は勿論亜反對の地位に立ちて此條約案を破らんと試みたりしのみならず佛國も亦其共和國たるの故を以て國躰上バルカン國を專制國なる露政の下に附するを欲せず且以太利の如きも建國以來始めて歐洲各國の會議に列席するとを容されたる者なるが故に一たび武を觀せんと欲して露國に反對し壎國も亦力を極めて露國南下の勢を殺がんとせり此に於て露の唯恃む所のものは獨り俾公が己れを助くるの一點に歸せり然るに俾公は其會長席より立て嘲りて曰く露國の全權大使は各國大使のために詰る所となる恰も鹿が狩犬に追はるゝが如しと此に至りて露國は終に全く失敗し百万の兵を以て勝を土耳古に制しながら國際的戰爭に於ては大に敗を取りしに引換へ英國は一兵を動かさずして全く大勝利を占むることを得たり蓋し露國が伯林會議に列席したりしは其大なる過誤にして且つ獨逸を恃みしは更に大なる失策といふべかりしなり されど當時露國の外務卿ゴールドチャコフ中將イグナチーフ伯の如き何故にかゝる失敗を招くに至りしかを考るに露が獨の助けを恃みしも亦必ずしも愚痴の妄想と稱す可からさる者あり何を以て之を謂ふ曰く千八百五十三年より一千八百五十六年に至る露英佛土三國の連合軍に對しセバストポールに相戰ひ終に大敗を取れるに當りてや露國は思らく英土兩國の軍に對しては露は決して應に敗を取る可からず而して終に此結果を見るに至りしは畢竟佛軍の之に加はりしによるのみと是に於て露國はセバストポールの敗辱を以て全く佛國の與ふる所となし且つ佛國とは小亞細亞に於て露國と正反對の利害を有するを以て露の佛を憎むや一朝にあらす又露國の常に英佛の間を離間せんと試み現にクリミヤ戰爭の劈頭に當りて小亞細亞の問題を以て此策を行はんとしたりしも英佛は地中海に於て利害を相同したるを以て機略効なく却て兩國の同盟を見るに至りたるために露國に報せんとするの念益し濃厚にあらす斯くの敗を取るに至りしものなれば其佛國に對して恨を報いんと欲して機を窺ひ時を俟つの際恰かも一千八百七十年佛國と獨逸との間に西班牙王位繼續の問題より千

戈を交ゆるに至りしかば。露國は見て以て大に喜び。好機會を得たりとなし。密に俾公に告げて曰く。此際露國は決して獨の背後を衝くとなかるべし。宜しく後を慮らずして全力を盡し佛國を挫くべし。但し他日露の東歐羅巴に事あるの時。獨國は亦必ず異議を挾むとなかれと。俾公輩ち之を諾し秘密條約は此に成り。普佛戰端を開くや。獨は露のために六月にしてセダンの戰爭より巴里城下の盟を致さしめ。莫大の償金を收めアルサス、ロートレンの二州を取り。大勝利を得るに至りたり。事情既に斯の如きを以て。露國は自ら思へらく。獨の此勝を得たる所以のものは。全く露の陰然力を加へたるによるのみ。若し露國にして獨の背後に患あらしめんか。獨豈に此勝を專らにするとを得んや。而し獨は決して露國の此恩を忘るゝと無く。必ずや之に報するの時あるべしと。此に於てか普佛兩國の平和成るや。露は先づ東歐羅巴の問題に手を着け。其宰相ゴルトチャコフは歐洲各國に宣言して一千八百五十六年に巴里會議に於て決したる黑海に關する條項は無効なり。我天皇陛下は最早之に從ひ玉ふまじ何となれば該條約たる唯當時歐洲の形勢に應じて提出せられたるものにして。形勢既に一變せる今日にありては。復之を守るの義務あるべき理由なければなりと。蓋し當時にありては歐洲の勢既に露國に對して各國同盟を結ぶに由なく特に獨逸は普佛戰爭以來露國が佛國と同盟せんことを恐れて之れに反對すると能はざりしかば。巴里の條約は終に一片の通牒書によりて破却し去られたり。故に余常に曰くビスマルクは三軍を擧して佛國を破りナポレオン三世を擒にするを得たりしも。露國の宰相ゴルトチャコフ一片の書を以て英佛獨墺の四大國を破れりと。セーキスピヤ語あり「ペンの力は劍よりも強し」と豈此謂にあらずや。

獨は斯の如くにして既に一たび露のために其恩に報じたりき。然れども露國の政治家は俾公が尙ほ伯林會議に於ても亦露國を助けんとを豫期したり。是れ其露國政治家が談會議に出席したる所以なりしも。憐む可し露國は曾に歐洲各國のために反對を受けしに止まらず亦俾公の冷笑を享け終に彼の敗北の恥辱を蒙るに及びしかば。露の敗北は獨の與ふる所なり。獨は恩を知らさるものなり俾斯麥は人を售る者なり。一劍最も此恨を酬ゆるの時無からむ耶とは。中に起がし所なりき。露國は斯く機を見て獨を東方より突かんとし。一方には佛國が其敗北の結果として奪はれたるアルサス、ロートレン二州を復せんと欲し。獨逸は恰か

も其中間に立ちて前後敵を受くるの場合となれり。特に佛人の二州を得んとするの念慮の如きに至りては其深きと實に驚くべきものありて。現に佛國の小學校に於て。六才の小兒を集めて教師は其地圖を披き。特に太き赤線を以て分劃したるアルサス、ローレン二州を指し視て曰く。此二州は一千八百七十年我軍獨軍のために破る所となり。其結果として獨領に歸したる所なり。若し再び之を我に取らずんば。汝等祖先に對して何の面目あるやと。佛人が二州に關する一念の深き所以のもの偶然にあらざるを知るべし。故に佛にありては如何に時久しく人變ずるとも二州を復するの深念常に消滅することなし。余故に以爲へらく我國の地圖も亦た樺太五十度の地に赤線を加へて特に小學の生徒に授くるあらば其利少なからざるものあらんかと

飜手爲雲飜手雨。反覆表裏。只利害の變に因る外交上の事特に甚しと爲す。露國政治家の慧眼なる普佛平和條約の報土耳古に達するや否や。露の土耳古駐在全權大使たるイグナチエフは車馬を驅りて獨逸公使に抵て之れを賀し。且つ曰く露國は宿に大に之を賀するのみにあらず。又同時に深く貴國に謝せざるべからざる者あり何となれば獨逸のアルサス、ローレン二州を佛國より占領せるは露國に歐洲大勢上大好機會を與へたるものにして。佛人の之を復せんとするの志望を露國は歐洲形勢上に利用するの便を得可ければなりと。果せる哉露國は終にセバストポールの恨を飜して却て之を利用し露佛の同盟は此に成るとを得たり。

露佛同盟既に成り獨は敵を前後兩面に受く。一方にはアルサス、ローレン二州を取らんとし。東西より迫り來るを以て俾斯麥亦東手應過する能はず。終に一千八百七十九年九月澳太利維納に入りて宰相アンドリッセ伯と相議し露國にして歐洲の中原に突進するの日有らんが。獨墺兩國は宜しく同盟せざるべからずと。斯くて二國の同盟此に成就せしが。獨之に對するものは佛以露の三國なり。特に以太利は羅典人種にして佛國と相同きが故に。此二國西に一致するときは。到底二國の力能く之と對すべからず。俾公乃ち策を立て。佛以兩國を離間し。以太利をして獨墺兩國の同盟に加入せしめんと欲せり。俾公は何の問題を以て此離間策を實行せしや。云ふに是よりさき伯林會議の際。英國は露がコーガシの地峽を經て地中海に出でんとするの恐あるがため。之に對して地中海の東なるサイプラス嶋を占領したり。ビーコンスフヒールド曰へらく露國は他日必ず意想外の地より地中

海に出でなんと。蓋し亜細亜土耳古を指せしなり。是を以て英國は速かに之を占領したりしが。之に異議を容れたるものは佛國なり。蓋し英國にもて之を占領せば。佛は小亜細亜に對して拿破翁及び路易十四世の施したる歴史上の政畧を妨げらるればなり。然るに英は佛と密約して曰く。若し佛國にして、英のサイプラス、嗎占領を默諾せば。他日佛國が亜非利加北岸のチユニスを占領するの時に當り英は決して喙を容るゝことなるべしと。偉公素より此秘密條約を知れるを以て。佛以兩國離間の材となさんとて試みたり。偉公は先づ密かに以國に告げて曰く。英と佛とは既に云々の秘密條約を締結せり。若し果して佛にしてチユニスを占領するの日あらんか地中海に於ける以國の勢力は爲めに其大半を失せんとす。貴國何ぞ速かに先づ之を占領せざると。當時以國の宰相カレヲライは之を以て偉公の佛、以を離間せんとするものなることを知り。ために佛國人心の自國に反するを欲せざるか故に。單に偉公の厚意を謝して。敢てチユニスを占領するに及ばざりき。此に於て偉公の策は破れたりしかば偉公は更に轉じて佛國に告げらく。以太利は夙に彼の細々利め對岸チユニスを占領せんとせり。貴國何ぞ先んせざると。チユニス若し以に奪はれなば。佛國二百年來の地中海に於ける

勢力は俄然地に墜るや必せりと。佛は終に偉公の計謀に陷り一千八百八十一年其占領を爲したりしかば。以國人心皆佛國を恨み。偉公の策此に全く成就するを得たり。是に於て偉公更に以に告て曰く。歐洲の南端に於て以太利の小國を以て一個孤立を保持せんとするは。豈亦危殆ならずや。盍ぞ來りて我か獨澳三國の同盟に與みせざるや と。以國固より自から佛國と相離れて單行獨立すると能はざるを知るが故に。終に已むなく偉公の言に從ふに至れり。獨墺以の連合是に於て成る。所謂中央三國同盟是れなり。

三國同盟と三國同盟との次第斯の如し。英國は果して如何にして局外中立を守るや。此は是れ東洋の大勢上最も緊切の關係を有する所なり。請ふ其由來を述べん。

抑英國は歐洲中の一島國に過きずと雖も其海軍は非常に強盛にして且つ全世界商業工業の中心點を其手中に入れ。世界の覇權を掌握する最有力の一國なるが故に。若し此二國にして彼の同盟の一に加はらんか歐洲の大勢は忽ち此に一變せんとす。而して英國は却て此等同盟の外に在りて此兩同盟を制し。歐洲大勢の覇權を左右するの策を取れり。然るに昨年に至りては最早中央なる三國同盟の期限滿ちたりしかば。

露佛の政事家は皆思へらく若し三國の同盟にして愈此に解くるを得んか。以太利は其宰相クリスピー既に其職を去りたる後なるのみならず其羅典人種たるの故を以て假令一度分離したりとも亦必ず來りて佛國に合するの時あるべし。斯くてこそ露佛の兩國は大に其志を得て歐洲の大勢を動かすを得可けれと。然るに時恰かも當年の夏時に當り。英國は將さに意を三國同盟に加へんとするの傾向を示せり。獨の皇帝陛下は英に臨幸せられ。龍動府民は厚く之を待遇し。加之獨帝は自ら英國總理大臣兼外務大臣たるサリスベリー侯の私宅ハートフヒトルに行幸し。終に其邀御の後。獨國からバークに於て三國同盟を六年間繼續するの旨を世に公にされたり。加之英は獨と其宗教の種を同ふするのみならず獨帝は英の女王陛下の孫たるの好緣あり。且つ其れ以太利は地中海に於て英と其利害を同ふし。殊に最初に以の獨立を唱道したる者はるゝに當りても。龍動府民は厚く之を待遇し。英國なり。亦以國皇太子の英に漫遊せらるゝに當りても。龍動府民は厚く之を待遇し。且つ皇太子もサリスベリー侯の私宅に臨まれたり。次に澳太利は拿破翁一世以來歐洲連合には常に英國と其方向を同ふするの關係あるより。終に露佛の爲に英は三國同盟に與みすべき旨せらるゝに至れり。若し英にして果して此三國同盟に加入すとす

れば。三國同盟は到底之に對して共勢を維持すべからざるが故に。此に一策を案し。佛國は露の首都聖彼得斯堡に堅固の艦隊を送りて之を歐洲全土に披露し。露佛兩國は今後防禦的同盟より一歩を進めて攻撃的同盟を結ぶの勢を觀し以て歐洲の大勢殊に英國の擧動如何を見んと欲したり。然るに英國は佛に通告すらく。佛國の艦隊若し露より却かば。歸國の途次英國海峽を過くるの際請ふ我軍港ポートマウスに寄航せよと。佛國乃ち此機を以て英の決心を試驗せんと欲せしが。其艦隊のポートマウスに着するや。府民は無上の厚意を表し。女王陛下は特に親ら龍動より來りて該艦隊を見舞ひ。加之其軍港の造船所其他の秘密所に至るまで。皆之を示したりしかば。露佛の政治家は始めて英が彼の三國同盟に與みしたりと思惟したるの謬見たりしを悟り。案外にも英は其軍事の秘密までも佛に明せしを見て。却て今は之を以て吾友邦なりも考ふるに至り。之と同時に獨帝は其失望の餘歐洲の平和將に破れんとす。而れども予は自ら其責に任するとなしとの演說をすら爲すに至れり。英國の擧動斯の如く。變幻自在にして其何れの同盟に加はらんと欲する者なる乎殆んど端睨す可らざるの時に當り。其總理大臣兼外務大臣たるサリスベリーは龍動府廳に於て演說して曰く。

今東方問題を觀るに東歐羅巴に於て勃爾俄利亞及び埃及の非常の進歩によりて。此難問題も亦漸く解けんとするものゝ如し今埃及には賢王上にあり。其内政財政漸く整理し。勃國人民の進行は著しく。勇氣に富み義務を盡すの念強く。政事家としてスタンブルフ氏のあるあり。彼の小兒國は一飛尋常の高度に達し。智識經驗注意共に至れるが故に以て露の南下を防ぐに足る。東方問題も漸く此に解くべし。且つ夫れ歐洲今日の大勢を見るに。平和は愈進み。獨帝の龍動に行幸ある以太利太子の來遊の如き。曾以て和親を厚ふするに足る而して近來世人の囂々する所の所謂歐洲の同盟でふとは蓋し甚しく意を致すに足らざるものゝ如し。幸に此十九世紀宇内の狀態に在て唯一片紙に調印せるに過ぎざる者。將た何の情む所ぞ。唯願む處は利害得失の存する所に從て聯合を形成するあるのみ。露佛の同盟も三國の同盟も其に重を置くに足らず。英國の同盟國は三國にあらず。露佛にあらず。現狀境土の配布を維持し。戰爭を止め。平和を維持し。好意を保つもめは。皆我同盟國なり云々。斯の如く歐洲の大勢を論じ去れば。唯一片の紙面に墨汁を點じ。同盟を稱し。敵國を造るが如きは。抑も大勢に通ぜざる一兒戲に過ぎずと論じ。三國同盟三國同盟皆共に之を排し。而して兩同盟をして却て其鼻息を窺ふにあらざるよりは。對外策を施す能はざるの地位を占むるに至れり。英國の地位既に斯の如し。稱して以て歐洲大勢の覇權を掌握すと云ふ。亦可ならず耶。

英國が歐洲の覇權を掌握せるの一事は。更に轉じ來りて東方問題となり。太平洋の大勢を作るの問題となる。蓋し露佛の政治家は皆以爲らく英をして長く歐洲の大權を握らしむべからず。而して之をおすの策。英の注意と勢力とを諸方に分に如くはなし。乃ち第一着に東歐羅巴即ちバルカン半島に向て其手を伸ばし。露國軍艦をしてダーダネル海峽を通行し得んとするの請求を土耳古に出し。此問題を以て露は佛に說て曰く。若し露にして此條件の成就すると能はすんば。効力ある二國の同盟は終に成立すべからずと。以て巴里條約を破りて英國の注意を此に惹かんと試みたり。其他或はモンテネグロに軍艦を送り。或は勃爾俄利亞ルーマニヤ等に力を盡して英の注意を呼び。其勢力を分たんとしたりしかど。皆目的を達する能はざりしかば。轉ち方向を轉じて拿破翁の遺策にして佛國の歷史上の政畧なる英本國と印度ある富源との間を埃及に於て斷絶せんとし。土耳古を煽動して英の軍隊を埃及より撤せんとを英國に

請求せしめ。次に紅海の沿岸アビシニヤは以太利の保護國なりしに。大尉マンシャコフをして遠征隊を出さしめたるも。亦其目的とする所。英の亞非利加に於ける利益を妨害せんとしたるに外ならず。而して此兩問題に關しては佛國も亦大に力を致したりしと雖も。其結果尙ほ十分なること能はざりしかば。本年の初に及びては。終に中央亞細亞のパミルに其猿臂を伸すに至れり。而して英國はボルチック海、黒海、小亞細亞、中央亞細亞、太平洋の各所に於て露國と相對すと雖も。露國は既に鐵道を架設して此地を突くに十分の準備ありて。英のために最弱點とする所は實に此中央亞細亞にあり。是に於て英國は昨年より既に露が此弱點を突かんとするの念あるを知り。二十艘の軍艦を備へ。三千有餘の陸兵を整ひ。且つ今年よりは印度土兵一大隊を增し。香港を以て中央となし。露國の弱點とする所の太平洋岸浦鹽斯德及びニコライスクを擣かんとしたり。露國か英國と境を接し尤も弱點とする所は實に此太平洋に在り。此に於てか露も亦之に對して策を立てざるべからず。これ先年より西比利亞鐵道の工事を迅速にし其援兵兵粮兵器を浦鹽斯德に出すの道を講ずる所以にして。露國は昨年其國議院に於て各高等官相會して之を議決し。年々三千万ルーブルスの費を給し東西兩

端より其工を創め七年間にして之を終へんとするの敕諭を出すに至れる也。該工事にして果して成就するを得たらん曉には。露は最早英に對して弱點の存するなきが故に。更に進て香港其他の諸殖民地を突き尙ほ加拿太を突んと計畫せり。斯くして該鐵道工事の益進みて成就期の漸く近づき來るに從て。終に果して露の豫想の如く東洋の覇權は全く彼の手中に歸するに至るべき耶。否此經行の正中に扨は一の難事とも出で來にけれ。難事とは何ぞや。曰く今露國にして能く其粮食兵器援兵を以て遠く浦鹽斯德に送り得たりとするも。更に之を以て太平洋より加拿太に出で。若しくは南支那海に出でゝ香港に至らんとするには。必ずや津輕及び馬關若しくば對州の海峽を通過せざるべからず。抑も我國の地勢たる北は千島北海道を以てオコック海を包み津輕、馬關及び對州の海峽にて日本海を扼す。若し浦鹽斯德より僅かに一歩を進めんとするも。我國にして一たび頭を擡かさば。宛然これ嚢中の物のみ。此に始めて嘗て露國政治家の腦中に考へざりし日本てふ獨立國の觀念を生するに至れり。即ち日本の觀念を措いて。其對外策を布かんとするも。到底得べからざるを諒むるに至りたり。然らは英國は如何に英國は露の西比利亞大鐵道に對しては大に覺悟する所ありて。

兵を香港に增し。且つ加拿太鐵道の成就を急ぎ。四年間にして其功を告げ。一旦東洋に事あるに當りては。電信によりて命令を發し。バンクーバーに送り。義勇兵を以て其跡を守らしめ。バンクーバーより運送日にしてハリハックス府に在る二三千の兵を四五船を以て援兵を東洋に出すを得るの計畫あり。然れども此援兵をして浦鹽斯德に至らしめんか。我津輕海峽を通過せざるべからず。巨文島の方向にむかひ。北支那朝鮮に至らしめんか。馬關の海峽を通過せしめざるべからず。南支那海香港に至らしめんか。鹿兒嶋と大島との間を過ぎざる可からず。故に我國にして津輕馬關及び鹿兒島大島の間を固めて之を俟たば。英の運送船は自由の通行を得さる可し。是れ實に日本は英國に對して此策の成否を左右する力ある所以とす。若しまた英國にして既成の鐵道なる緬甸に於ける北マンデレーに至れる者を延長して。支那に入りて楊子江に結びて支那と同盟を爲し。平時は之を商業上に用ゐ。戰時は之に由りて印度の土兵を送り出さんとするの第二策を行はんか。更に此兵の浦鹽斯德に至らんとする者は我佐世保又は對馬の海峽にて之を抑ゆるとを得べし。次に第三策として香港を中央とし。浦鹽斯德を擣かんとするも。亦佐世保對州にて之を止むることを得べし。

之を以て英國が東洋に施さんとする三策の成立すると否とは。全く我國の向背如何に因て定るものたり。此に於てか英國の政治家も日本は將來の大勢上忽視すべからざるとを諒得し。亦日本を度外に措き以て對外策を布く能はざる所以を覺知するに至りぬ。

以上述べ來る所決して余の空談臆說にあらず。昔て英國に留學せる際。東方策原書を出版し。之を歐洲の各大政治家に送ると四百部に及び。新聞社に寄せたるもの百五六十部以て世の公評を請へり。全世界の大政治家にして之に對して謝狀を與へ。之を批評し。若くは其秘密をさへ書き與へたるもの二百五六十八に至る。就中英の殖民大臣男爵ナッフォールド氏は手簡を寄せて實に左の如くいへり。

將來の歷史上に日本國が働らくべき肝要なる箇所を推考するに。過去の歷史ク ッミヤの戰爭ピット及びカンニングの政畧を顧省して爲すあると日本國の得策ならん。余一己人に於ては。日本國の遽々進みて繁榮を來すを眞心より喜びつゝ居るなり。余は太平洋に起らざるを得ざる多くの大問題に關して我等(日英)の間に最も親密なる同盟を結ふことを得べしと信ず。

立憲國內閣員の一人たる責任ある殖民大臣たる其人にして。余は太平洋に起らざるを得ざる多くの大問題に關して日英の間に最も親密なる同盟を結ふことを得べしと云ふは言外暗に太平洋東洋に於ける問題に對しては英國は當さに貴國と同盟を締結すべし英國の政治家は日本の觀念ないにしの意を有すると明ならずや。飜て佛國の政治家は如何に思惟すると云ふに。彼亦露國と同盟せる點よりするも。又其東京を有する點よりするも。東洋の大勢上日本の觀念なくして對外策を布く能はざるや明けし。

露佛に反對せる三國。獨墺以も亦た同盟上の關係上より其對外策を布かんがために、は日本の觀念なかるべからず。されば以上の論之を一括し來れば。全歐土の政治家は皆日本の觀念なしには其對外策を布くと能はずといふにあり。

次に轉じて米國の如何を察するに。北米合衆國は英の商工業を仆して其中心點を奪はんとするものなり。故に南亞米利加と相連合して以て英の加拿太ニユーフォルランドニユージーランド濠洲等殖民地の連合軟と相對し。兩々其力均齊して少しく一方に強度を加ふるときは。忽ち一方の失敗を見んとするの勢あり。されば兩國は僅かに太

平洋中に於ける布哇の小島すら之を爭はんとするの狀を示せり。其れ若し一層を穿ちて太平洋を看取せば遙かに日本てふ一國の在るあり。日本にして米國に同盟せんか若くは英に同盟せるものたるを免れず。英の永く世界の覇王たるも。米か二十世紀に於て覇權を手にするも。皆日本の向背如何によるのみ。これ英に取りては少事にあらず。米に取りては尚ほ必死の大事にあらずや。現に英國が今日まて正反對なりし我國條約改正の事も今は却て彼より促かし來り。米も亦同一の事あるは。畢竟兩國商戰の結果にあらずといふべからず。米國政治家が日本の觀念なしに對外策を布くべからずと思想ある亦疑を容れざるなり。

因是觀是全世界の政治家は皆日本の觀念なくして對外策を施すべからずとするは明瞭にして。語を換へて之を言へば。日本は全世界政治家注目の焦點に据へられたるなり。日本は今正に全世界の政治家を看客としざるの地位に立てるなり。脚色果して何物ぞ。此は是れ尋常一樣妻妾の事にあらず。實に一躍東洋の覇權を攫了して世界に雄飛するの事即ち是れなり。

去年余の對外策を演して始めて天下の志士仁人に告くるや。或人問て曰く。足下の策は英と連合同盟して露を烏剌潮斯德若しくは尼古來斯克に擊破して以て。彼れ強露をして再ひ東洋に脚立の地なからしめんと欲する乎と。又一人曰く。支那英國と相同盟提携して以て。彼強露を推き。克利彌耶戰爭の第二齣を黒海の濱に見ずして。太平洋岸に見せしめんと欲する乎と。一人又曰く。露と連衡合縱して以て陸路に軍を合し。滿州に侵擾し朝鮮を略奪し。更に海軍を以て天津上海を降し。北京に突入して大清國を覆滅せんと欲するかと。一人又曰く。露と同盟結托し南香港及ひ進んて濠州を擊破し。又東は加奈陀を略し彼驕英をして再ひ東洋に頭を擡くる能はさらしめんと欲するかと。一人又曰く。獨支の兩國と連合して以て朝鮮を保護し。獨をして歐の境界に魯を摧かしめ。我は東西比利亞を蹂躙し去らんと欲するかと。一人又曰く。支那と合同して亞米利加を太平洋西岸に擊破して。其の地を分取せんと欲するかと。余此等の人々に答へて曰く。余の所謂對外策なるものは日本の外國に對する百年の長計を畫せんと。するにあるものの即ち他に依頼して自國を立てんとするが如き自身自屈的の策にはあらざるなり。連合なるものゝ意味を咀嚼するときは畢竟

賴他的精神にして是唯對外策の大本を確立する一手段として行ふことあるへきも。連合を目的として立策すへきものにあらず。故に連合は時の形勢に從て遷變するものにして。百年若しくは五十年と其連合年限を始めより定め得るものにあらず。現に露佛二國の同盟を見よ。彼の二國は一千八百五十三年より一千八百五十六年に至るまではセバストポールにて正反對に立ちて相戰ひたるものにあらすや。亦獨澳二國は三國中央同盟の主動者なりと雖も。一千八百六十六年には西國正反對に立て干戈を交へ今日伯林に至るときは其公園の中央には當時獨逸の澳國を破りたりし紀念碑の立つあるを見るにあらずや。又現今英と露とは實に正反對の地に立つと雖も那破翁の盛時にありては小匹德の露英連合策成りしにあらずや。三國同盟二國同盟何れも皆時の形勢國利的得失に依て合離變更し去るものにあらざるはなし。然れば今日の友國は明日敵國となり。昨日の敵國は今日の友國となる已に夫れ斯の如くなるを知らは到底連合を目的として對外策は確立し得らるへきものにはあらす。試みに現世紀の連合を評せば彼株券組織の會社の如きものにして。株券を多く所持するものは其利益配當も多かるへしと雖も。株券少なきものは利益する最も薄し。我國今日

未だ株券をも有せずして漫りに同盟連合を說くは一時酒間の空論放談に過きずして恰も素寒の一書生か一大會社を組織せんと欲するの類にして到底行はるへきことにあらず然らは此連合上の株券とは如何なるものなるか土地の廣狹にあらず人口の多少にあらず唯自國の獨立要素是なり若し夫れ土地の廣狹よりいはんか印度若しくは亞非利加の如き決して大ならずといふべからざるも其宇内の形勢上に重きを有する能はずして却て他屬國隷地となれるにあらずや人口の多少より得るも亦然り而して土地小に人口少き伊澳の諸國は寧ろ世界に重大の位地を占むるなりされば我國の自立にして不抜の地にあらんには連合上の株券を多く所持する何の難かあらん只國家人心の隆替如何に因りて存亡(敎育の大本參照)夫れ人心興起し實力充滿し自國立脚の基礎にして大磐石の如くならんには其時に於て國利上の形勢により或は英と同盟して露を烏剌潮斯德若しくは尼古來斯克に擊破して以て强露をして再び東洋に脚立の地なからしむるも或は英支と連合して露を擯克利彌耶戰爭の第二齣を黑海の濱に見ずして太平洋岸に見せしむるも或は露と合同して陸路に軍を合し滿州に侵擊し朝鮮を侵略し更に海軍を以て天津上海を降し北京に突入して大淸國を覆滅するも或は露と結托して南香港及ひ進んで濠州を擊ち又東は加那陀を略し以て彼の驕英をして再ひ頭を東洋に擡けしめさるも或は獨支兩國と連合して以て朝鮮を保護し獨をして歐の境界に露を摧かしめ我は東西比利亞を蹂躙するも或は支那と同合して亞米利加を太平洋西岸に破りて其地を分取するも皆我欲する所のみ

故に曰く我國全世界に對して取るへき政治對外策の大本は同盟連合策におらず局外中立策にあらずして不羈自在の位地を平生保有するにあり於是乎万邦皆隣友たらさるはなし

且つ我國は他國に比して常に株券を出すこと多からずんば露と連合して英に對するにも英と連合して露に對するにも我に得る所の利益少かるべきは當然の理にして英は株券會社組織に於て多くの株券を有するものは多くの利益を得ると一般なるへし則ち我國は常に英露の上に一歩を加へざるべからず然るに日本人普通の觀念は曾我は決して彼の上に歩を占むるの力あることなしと斷定す然れども其比較の方法を察するに或は英國全躰につき若しくは露國全躰につき英の軍艦は三百七

十餘彼の陸兵は此の如し露の陸軍は三百万なり佛の軍艦は斯くなりとされど我と彼とを比するに於ては決して此の如き比較は未た當を得たりとなさず英國は英國全躰を見ずして東洋の英國を見ざるべからず東洋の英獨佛露を見るとは何ぞや則ち一朝東洋に事あるに及はゝ彼等は歐州の均勢を破らざるの度に於て幾何の軍兵軍器を送り來ることを得へきやを見ると是なり歐州今日の大勢は實に精細なる秤量の上にあり若し一たび一方に重量を減ずるときは全躰の均勢忽ち破却して拾集すべからざるに至らんとす然れば此均勢を維持したるの餘力は之を東洋に出すべき實力なりとす此餘力を呼て東洋英國若しくは東洋佛獨露とはいふなり然らば我國着々國策の歩を進めなは此等の餘力に抗對して我は實に東洋に於ては第一位に坐を占むべきこと明にして大に我意を強ふするに足るものあり即ち東洋に事あらんとするや株券組織會社を組立つるにも我の出す所の株券は常に多くして從て得る所の利益亦多からざるべからず實に我國は大有望邦なり我國人たるもの奮興勃起して勉めざるべけんや。

第八章　政治對外策上に於ける國策

余は既に前章に於て政治對外策の大本を說了し。又曾て東方策第一篇に於て東洋の傾向趨勢を反覆縷述せり曰く

我日本は實に未來の競爭者の中間に立つものなり。日本にして英國に與みせん乎。魯國之を如何ともする能はず。日本にして魯國に與みせん乎。英國亦之を何如ともするに能はさるなり。我日本は英魯二國の死命を制するの位置に立つものに非ずして何ぞ。且つ夫れ我日本は英米商戰勝敗の主權を握るの國運を有する者なり。(次章を見よ)苟も我國民にして。上下共同一國統合して。以て外國に對するの策略を講せば。將來宇內の大勢を一掌裏に弄すること。敢て爲し難きに非さるなり。

然れとも其方向を指示して而して其實を說かされは猶ほ是れ空論放談たるを免れす故に更に歩一歩を進めて政治對外策上に於ける。今日の國策に及ひ着々立說せんと欲す。

第一　海軍——海軍大礎確立策——海軍々制論——海軍上に於ける地勢——海軍養實策

我日本か東洋に於て覇たらんと欲し。而して其覇權の勢を制せんとならは。地利の勝

に據て以て航路を制するに若くはなき也。即ち南北太平洋間に於ける航路は之を大島鹿兒島に於て頑然抑制するを要す。馬關津輕海峽宗谷海峽對州海峽の如きは何れと雖も彼の航路を抑制するに於て必要の地勝なり。而して此中馬關の如きは砲臺を以て抗對嚴制すべしと雖も。其他の數處は皆海軍を以て之を制せざるべからず。況んや我國將來六大航路の衝に當り。世界に對する問屋となりて其實を擧げ。又東洋及ひ其他各國に支店を設けて盛大に貿易事業をなさんと欲するに於てをや。且つ將來若し英露兩國の衝突するあらば。英は必す巨文島若しくは大島に據て以て立脚の地となすべく。露は烏刺潮斯德を以て海軍運動の據點となし來るべし。我豈一日も忽にすべけんや。歐人は日本海を稱して東洋の地中海といふ所以のもの。決して偶然にあらず。

露國參謀士官曰く

歐米諸國と東洋に於て戰端を開くに於ては。日本海を以て敵國に對する運動の一大局面とせざるべからずと。

之に由て之を觀るも將來雲蒸龍騰の大破機は日本海北支那海の間にあるは明々白々の事とす。我國此間に處して英露の跳梁を制する海軍に依るの外なき也。又我日本

か島國なりといふ以上は國防上に於て海軍の必急要なるは三尺の乳童といへども能く知るところ。殊に條約改正問題の如き一時の外交問題を解くに於ても海軍は最要なるは已に此の如し。然るに我國盲目政治家の許多ある。僅か二三隻の軍艦を製造するも勢力を有す。以上東洋の大勢上より按するも我國地形上より觀るも。海軍擴張の急せんと欲するも猶ほ且つ非議して容れず。此等は實に日本國家的の希望を有せざるものゝ謬妄迷誤にして。我國家の爲め惜焉とせざるべからず。此如きは國家的大事件にして決して私意を挿むべきものにあらず。然るに把て以て黨略的問題となす如きは。余斷々として其國家に不信切を責る也。

我等の四圍環瀛國に在りては。護國上海軍の必要なる所以は余屢々之を論じ。世人亦已に知る所なり。然らば如何なる方法を以て海軍を擴張すべきか。余熟ら現時我國人の海軍に於けるたらしむべき大基礎は之を如何に建立すべきか。余熟ら現時我國人の海軍に於ける立案を考ふるに。未た其輕浮の觀を免るゝ能はず。例せは英國海軍卿ハミルトンか擴張案を提出して。我英の海軍は凡そ二國に匹敵する底の軍艦を備ふれは足れりといふを聞きて把て以て直ちに之を我日本海軍擴張の標目となし。則ち曰く。我國海軍は

支那（六万九千噸）英國（三万六千九百四十三噸）兩國の連合艦隊に匹敵すべき軍艦即ち十三万噸の軍艦を整備するを以て足れりとすと。何そ其淺慮の甚しきや。是れ決して海軍擴張の大礎を建立せりと謂ふべからざる也。何となれは我國十三万噸の艦を製するときは他國亦十三万噸以上を具備すべければ也。現に一千八百八十九年一月に於ける英國の艦數は三百七十三艘にして。其噸數六十五百一艘百十二万七千四十九噸に增加せん計畫なり。斯の如く一方に增加すれは又一方にも增加す。故に現在の力を計りて策を立つる如きは決して智慮にあらず。且つ我國をして海軍國たらしむるの基礎は。軍艦の堅脆多少よりは寧ろ國民に海軍的思想ありや。なしやに關係せるなり。英國の如きは政府敢て海軍擴張を唱說せざるも。人民自ら之を催促するなり。二三年前海軍擴張は商法會議所之を建白せるなり。我國民の海軍に於ける思想斯の如く發達せさる可からさる也。次に須要なる海軍々人なり。夫れ軍艦は幾百艘にても金あれは直ちに作るを得へしと雖も。精錬勇往の良軍人は小年月を以て造り得へきものにあらす。是れ余か憂慮する所以の一也。

今日我日本か海軍を擴張して東洋に覇權を掌握せんとするも。顧て顧みるに許す可らさるは費途の一點也。試に思へ我國今日の收入は八千万圓に過きさるにあらずや。而して英國の海軍費は實に八千六百万圓也。由て按するに貴國に於ける海軍擴張事業の難きこと實に難しと謂ふべし。假令一時血氣の餘勢を以て成就するあるへしと雖も。是れ永久を保持する能はさるのみならず。終に一國の富源を枯渇するに至らん。然れとも二方には是非を論せず。富の程度外に擴張せさる可からさる必要あるなり。今や海軍擴張策は實に大困難に遭遇せりと謂ふへし。然れとも人死地に入りて而して活路を得。軍勝して而して明智出づ。於是余は茲に一策を按じ前海軍大臣樺山子に建白せしことあり。而して此策たるや。余英にありし日之を按出して英國某海軍中將に示せしに。中將曰く。是れ世界に於て未曾て見聞せさる新策なり。之を我英國の如き海軍秩序の定立せし國に施さんとするとは。容易の業にあらずと雖も。貴國の如き新立國に施さんには眞計策なり。且や今日各國相競爭して海軍擴張をなすと雖も。皆其多費に困却せざるはなし。我英國の如きは八千六百万圓。佛は五千万圓。獨は二千六百万圓。伊は五千万圓。露は三千四百万圓。而して今後更に益〻增費せんとする勢なり。故に貴按の如き少費なる海軍策に。我等歐羅巴諸國も終に則らさるへからさるに至るへしと。

而して此策たる余歐洲各地漫遊中。凡そ貧小國の鎭守府等は。皆之を精察して參照し。以て建立せる也乃ち左に之を掲ぐ。

樺山資紀子閣下。某熟ら惟みるに。我日本帝國鎖港孤立の昔に在ては。單に內治の得失を島界に較するも可なりと雖とも。今や列國競爭の間に進んで。世界の一國と爲りたる以上は。天地自ら昔日に異り。必ずや日本國民各自我こそ日本人なれと云ふの觀念精神を以て。日本國全躰一致の主義を執り。一定の方嚮を取り。四千萬兄弟が外國に對する日本帝國の運命を以て任せざる可からざる也。

數年前より對外方策の必要を感し。頗る通般の觀念精神を發揮する所無きに非らずと雖とも。猶未た微弱偏小を免れず。今日は更に一步を進めて。六十餘州東端より。西隅まで。南隅より北陬まで。有らゆる日本人が飽迄列國に對する日本人たる覺悟と實行とを精神の最奧より揮はさる可からざるなり。

而して今日の日本人は未た局內の管見を免れず。互に外に對するの主義方嚮を究めずして。日本其者の中に彷徨逡巡し。外交政策なる者は日本の外交政策に非ずして。日本內の政府或は政黨或は一個人の外交政策に過ぎず。是れ豈に活機日に動い

て列國を起仆せしむる鐵火世界の長計ならむや。

故に日本帝國今日の計は。先つ外國に對する日本人てふ觀念精神を確立するに在り。此精神既に立たば。第一外國に對する遠大の政策即ち將來幾十年に亘る方略を一定せざる可からず。今日條約改正の如き一時の問題を以て。日本の對外策之に盡きたりと爲す如き朝野の情狀なるは。甚不可也。第二日本の外國に對する商業上の方策を定めざる可からず。今日內地の工業盡く不振の域に沈淪する者は。對外の方針立たざるより起るや必せり。第三日本の外國に對する國防の方針を立てざる可らず。時として陸軍を偏重し。又た急に海軍擴張を謀り。爲に失費と奔命とを致すが如きは甚不可也とす。

第一第二の計に就ては。某大躰の鄙見を有すと雖も。今は乃ち單に第三國防上の意見を述べて。朝野の明敎を仰かんと欲す。

抑現今の東洋は。東洋の東洋に非らずして。歐洲列國の東洋也。東洋の將來は多事多端。測る可からざらんとす。東洋に國する者は。今や正に政治上商業上。至烈至激繁極忙極の力鬪必戰場に向て。一戰本として發踵する者なり。

夫れ歐洲列國の政事的爭點は、中央歐羅巴より東歐羅巴に移り、又中央亞細亞に轉し、今東漸して今や支那日本朝鮮北太平洋に遷れり。而して世界の商業工業の中心は如何にと云ふに、古代埃及に起り、西漸して希臘羅馬に至り、地中海の海岸に沿ふて西班牙葡萄牙に進み、更に轉して和蘭に歸り、遂に英國に遷り、今や亞米利加に傾き、將來は東洋に移さんと欲す。否東洋は現在誠に商業工業の中心を惹きつゝ有る者なり（此事に就きては來月二號以下數回の論説に詳細の論説ふ所あるを以て茲には略す）形勢斯くの如し。此北太平洋即ち日本の在在する東洋地方の將來多事なるや固より明々瞭々のみ。此時に當て日本が太平洋航海の全權を掌握して英露の上に覇せんと欲せば、海軍を盛大にせんことと勞頭の大必要たるは、識者を待つて後ち知らざるなり。

故に日本は今日區々内地を護るの必要上、海軍の擴張を計る可きのみならず、誠に世界に對しても日本が將來東洋の大舞臺に其雄圖を策す可きの天分上、其盛大を要する者なり。而して其希望は消極的に非ずして積極的なり。其規模は一時局部墨守的の經營に非ずして雄大宏遠進取的の畫策に出でざる可からざる也。

斯くの如く海軍振興の規模は極て遠大を要すと雖とも、然れとも飜て我日本の國勢を察すれば、此事容易に談ず可らざる者有り。何ぞや曰く、一國財實の缺乏是也。唯貧一事實策を阻す。二年僅々八千萬圓許の歳入中の一小部分を以て、莫大の費用を要する海軍擴張を謀る。假令ひ一旦外患に遇ふて焦心激昂するも、雖も彼の英國の國會が一夜の會議忽ち堅艦七十餘艘の費途を定むる如き事は、曷ぞ我國に望むを得んや。單に國防すらも濟する能はざる現今の實情を以て、此進取的大規畫を立てんと欲する蓋亦難し。

然りと雖とも國は一の活物なり。須臾も一所に止まらざるは活物の常、進まざれは則ち退かん。寧ろ退て而して底止する處莫くんは、單純なる生存すらも期す可からざるは、活機活勢の已む能はざる處。今日機に墨守的國防に滿足して姑息の計に止まらば、時運の致す處國防の一事を睢とも遂くる能はざるに至るや必せり。故に攻守は二途に非ず。一國を墨守せんと欲するにも必ず先つ大に進取の形を張て進退先制の機を把握せざる可らざる者は、國策の理なり情なり必要なり。

故に今日海軍擴張の大規模は、貧を以て辭す可からず。難を以て廢す可からず。必ず

や深切に忠實に愼密に精剋に我日本の有ゆる精力有ゆる便宜を審察して手の及ぶ限り心の達する限り千策萬謀を盡して此大躰の主眼を貫くの道を講せざる可からず。財富餘り有て堅艦巨艦を作るは凡庸人と雖も能くする處。日本の今日は凡庸以外の手段を求めざる可らざるなり。

然らば則ち之を爲す道如何。曰く苟も海軍擴張の大主眼を此に定め。熱心熱意之を貫くの道を求めば。其方法多々有る可しと雖とも。某は今日實際に行ひ易ふして而かも其功効極めて大なるものは海軍義勇兵を組織する如き其一なる可しと信ずる也。

某は此事に就て深く研究する處有り。且つ軀身を以て任せんと欲する處有りと雖も。之を述ぶるに當て。先つ一言せざる可からざるは。某の述ふる所實に一歩千歩着々効を收むるに在り。決して成功を急にす可からざる一事也。徹意必ずしも一旦の慷慨に出たる畫策に非ず。希くは諒焉。

某の故郷なる平戸は日本の西端に在り。彼蒙古襲來の時には。第一に攻撃を受けたる處にして。今日も雖も日本が支那或は歐洲の或國と戰端を開く有らば。第一着に戰雲を望む可き形勢に坐する者なり。之を以て該地の人民は皆假令外面に顯はさゞるも心裡に外難の迫る可きを感せざるなし。而して土地の氣風亦頗る柔弱怯懦に流れ。國家の上に用ゐて海軍擴張の一便宜に資せんと欲す。乃ち某は先此氣風と感情とを一變して。海軍擴張の一便宜に乘るに足るの義勇兵を此地より募て。一の海軍義勇隊を創立せんと希ふ也。之を行ふに就ては海軍省より一の老艦を下附し。乘組の士官を此地に賜はるを得ば。某は同志と與に義勇兵と爲る人々を。一年中最閑暇多き時節を擇んで。一年の中に二ヶ月若しくは二ヶ月半の間海軍の練習を爲さもめんと欲す。

果して斯く爲すを得ば。今の常備艦隊に在て毎日練習を以て一二年間に海兵の資格を成し得可くば。此義勇兵は六年若しくは七年にして船艦を動かすの用に習ひ得可し。若し六七年にもて不可ならば。九年又は十年を要するも妨くる處に非ずと信ず。又次には我海軍には後來必ず非役の士官を生ぜん。該士官にして海軍省より此義勇艦所在の地に住居せしめらるゝを得ば。否二ヶ月半の外毎土曜日の午後或は大祭日の前日に。陸上に在て練習を爲さしむるを得ん。蓋し火夫の如きは他の水

失に比して特に熟練を要すれば。一の破朽せる瀛艇を据へ置き。以て練習せしむ可く。其他の技術をも練習し得るとせば。一年に二ヶ月或は二ヶ月半の艦上練習と云ふとも。實際は三ヶ月乃至四ヶ月練習の功を收得せんと必せり。茲に至れば士官下士官を作るとも勿論望む可らずとも。水夫に至ては疑無く業成するを得可しと信ず。勿論此事たる世界の奮闘未た其例を見ず。經驗の以て徵す可き無しと雖も。然れども某は海軍省にして此計畫に贊するの覺悟定らば。某は其敢て至難の業たらざるを信ずる也。某實に既に此計畫に就て故郷人士の一致贊成を得たり。某の過般郷に還るや。鄉の有志家を集めて此事を發議するに。擧て之に同意したれは。今一艦に乘るに足るの人數は必す募集し得る所なり。萬一得ざるも舊藩主松浦伯が獨有する中學校二百五十人の生徒あれば。其中に就て撰拔すれば。年齡躰格上共に適合せる者にして。一艦所要の人數を得ること必然也。而して該校の校長教員幹事等は無論此事に贊成を表し。且つ生徒は概ね寄宿舍に居る者故。此學校の夏期休業の二ヶ月間練習艦を碇泊せられば。二の故障なく義勇兵練習の目的を遂け得可し。又前に述る如く。海軍非役士官をして該地に在住も無月給若しくは少額の月給を以て該學校

の役員と爲し。而して休日の前日に練習を施し得ば。着々功を收むる事甚易きや知る可きなり。

此の如く實際に於ては。海軍省に於ても十分の奬勵を之に加へられんことを要す。乃ち此義勇艦の兵に與ふるに。今の陸軍親兵の如くするに非されば。皇族の該地に出張有て賜はる等。精神鼓舞の方法を要すること多かる可し。

面して某等に在ては。此維持方は充分研究も盡力も盡瘁も自任す可し。決して義勇兵の手數煩任して顧みさる等の事無かる可し。其方法には全鄉擧て之が責任に當るの策を立て。第一に組合を設け。資腹長幼を論せす。之に入らしめ。而して舊藩主の如きを會長に推し。鄉里に在て壯年者に對し。信用多き宿老を名譽副會長又は幹事となし。此等の組合を實際に兵と爲さゝるも。以て兵爲る人々の後援者監督者と爲すを可し。斯くの如くして十二年の間は。實際に試驗を爲し。其間は務めて盛名の世間に發露する者を避け。三四年の後愈實効の徵す可き者を得て。始めて他鄉の人士に龜鑑を示して之を勸むるを得可し。

事玆に至れば。福岡の如き鹿兒島の如き。佐賀の如き。豐後の如き。皆此事を創むるや必せり。然る時は某の籌算にては九州に在て六個の義勇艦を作るを欲す。並し九州は佐世保鎭守府管轄の下に在るを以て。該所に一の練習艦を置き以て各地に巡回して二ケ月宛一地方の義勇兵を練習せしめば。一年にして六艘の義勇兵を練習し了らん。玆に鎭守府の注意を要する一事は。福岡にあれ鹿兒島にあれ。双平戸にあれ。其土地に從て。或は耕作に或は漁獵に。一年中最多忙の季節有るを以て。能く各地の情況を調査して。民の時を奪はさるに留意せん事是れ也。某思ふに。斯くして深切に人民を奬勵し。賛助せば。萬事圓滑の經行を爲し。佐世保鎭守府に六隻より成立つの義勇艦隊を成就し得可し。而して現今省の希望する所は。全國を五鎭守府の管轄に分ちに在れは。則ち佐世保に於けるが如くに。呉に在ても。横須賀に在ても。五隻若くは六隻の義勇艦を造るの日は日本全國に三十艘乃至三十五六艘の義勇艦を致し。五箇の義勇艦隊を得可し。是れ固より五十年六十年を期して成就す可き事にも。朝一夕に望む可からすと雖も。國力民情の宜しきを制して。着々海軍を擴張するの道に於て。其効決して鈍歩ならざる可し。

之を以て某は堅く義勇艦隊養成の事を以て。目下の好望なる且必要なる計畫と信ず。信ずると同時に此練習艦の大ならんより寧ろ小ならんを望む。練習艦の大員既に整はゝ。更に一事を加へて此事を完全ならしめんと欲する望蜀の情無き能はず。何そや曰く。義勇艦一艘毎に水雷艇一艘を屬備し以て沿岸の各港灣に及ぼす可し。即ち三十艘以上三十五六艘の水雷艇を備ふるに至らん而して更に水雷を沿岸各處に敷き義勇兵を一港灣毎に十人計り練習せしむるを要す。是に於てか始めて一國海防の實擧れりと謂ふ可きなり。彼の西班牙希臘等の國防を見るに多くの水雷艇を敷設して以て非常の機に備ふるなり。以上の手段を實際に完成するを得る迄には。五十年乃至六十年を要す可きも。誰も。海軍振興の規模を大所に立つる以上は。決して一時の功を貪る可からず。必ずや歳月に關せず。一定の方針を取る可きなり。而して國民の增加と國民の奮起とに因ては。必ずしも斯る長日月を要せざるも測る可からず。畢竟至遠の慮を爲して至近の事始めて寧かる至難の事を企て僅かに至易の機に遇ふは世情の常なれば。要は堅志と確有とに在る可き乎。請ふ之より義勇艦隊より起る利益を述べん。

夫れ日本海軍が百艘の軍艦を作り得たると假定するに、之を悉皆平日に運轉せしむるは必ずしも要する所に非らず。百艘の内廿艘又は廿五艘を以て航行巡衞に充て、其餘は鎮守府又は軍港に豫備艦隊として繋ぎ、一朝事有るに及んで始めて戰地に一時間三週間にして、或は一週間にして、兵員を乘組ましむるの順序方法を定め置くを可とするならん。然るに前に云ふ如く、義勇艦の義勇兵を平生に練習し置けば、平日は各其職に就くも、事有れば轍ち起て應するを以て、海軍省只軍艦を選送すれば、立ろに兵員を收めて豫備艦隊を組成し得可し。之に反して若し百艘の軍艦あれば、百艘丈けの常備兵員を有すべくして、海軍費に於ける費用は實に莫大にして、月給其他の費途想像の及ぶ所に非ざる可し。而して我國の財政は到底之を支ふる能はさらん。蓋し歐洲の強國と雖とも、海軍擴張に要する費用の多きに困む者比々皆然り。然るを後進貧弱の日本を以て、先進富強の國の困む處を學ばんと欲す、其爲す可らさるや固より明かなり。

而して義勇兵を以て豫備員とすれば、平日此莫大の費用を投せずして、戰時には忽ち軍艦を動かし得るに至る。則ち海軍省の經費を國力の及ぶ限りに止めて、而かも能く擴張の目的を達し得る者に非ずや。是れ豈に國家經濟上軍政進暢の上に大効ある者に非ずや。之を第一の利益と爲す。

義勇兵を豫備員と爲す時は國家生産上に大益あり。何となれば兵役に出る年齢は一人生涯最要の時期にして、其一國生産力の本爲るや固より也。然るに軍艦百艘以上に要する兵員の生産力を奪ふは、一國經濟上非常の不利益なるに、義勇艦の組織を以てすれば、此不利益を救ひ得可し。之を第二の大効と爲す。

陸軍は海軍の類事なる陸軍と異なり、陸軍に在ては一部一局の訓練を以て、直に用を爲し難く、必ずや軍艦内の一躰となして、技術の熟練を要する也。故に、毫も常人夫を卒然として軍艦に乘組ましむるを得ず。聞く海軍省今日の政略は、尋常商船の海員を海軍の豫備とし、戰時に之を收め軍艦を動すの意なりと。嗚呼是豈席上の閑語に非ずや。況んや向後日本が外患に遇ふ時は、海軍のみに依賴せずして、海陸相合し、進攻退守を共にせさる可らず。獨り海軍の活くる有るも、陸軍にして死せば、此は是れ半身不隨の癘のみ。國防を全ふすると固より期す可らず。故に陸軍の兵糧及び陸兵を送る等。

萬端の運送には商船を使用せざる可らず。而して若し商船の海員を豫備艦隊に收用し去らば、運送船を動す者空しきに至る。是れ最見易きの事なるをや。故に現今海軍省の政策は實際に適當せずして。而して所謂義勇兵を養成すれば、戰時に於て運送艦と軍艦と各其本分を盡すを得可く、又平時に在ても海軍省の必要に應して義勇兵中より熟練の海員を選拔し得るの便宜ある可し。之を第三の利益と爲すべきに因て觀れば、義勇兵組織の事が實際的海軍擴張の大効有るや炳然明かなりと謂ふ可き也。

職ふに水雷船を使用する者は、必ず沿岸の地理及び海底の深淺等を詳にせざる可らず。故に重に其他方人民を採用するを可なりとす。聞く對馬に於ては概ね其島人を用ゆと。是實に其宜を得たりと云ふ可し。軍艦に於ては亦然り。水雷を使用する者は可成的其地方に於て平日より之を養成すると最も必要なりと信ずるなり。

聞く所に由れば、佛國に於ては沿海の人民をば悉く海軍々籍に編入し、以て海軍に從事せしむると云ふ。然るに我邦に於ては海軍兵は單に之を志願生に採り、徵兵令を以て募集する者甚だ少し。是豈に海軍擴張を策するの道ならんや。

宜しく佛國の如く沿海人民を以て海軍々籍に編入すべきなり。然れども大凡事名有ありて實なくんば亦何の功かあらん。假令び沿海人民を以て海軍々籍に編入すると雖も、之が人民たる者にして海軍に適するの實なくんば、決して海軍擴張の効を擧る事を得ず。故に先つ此等人民を奮起せしめて義勇兵團體を作らしめ、數年乃至三年間實際の練習に從はしめ、水兵たるの資格備りて、玆に始めて之を軍籍に編入せざる可らず。若し然すんば漫に海軍の軍籍に入りて陸軍の兵役に從ふの義務を免るゝ者を生ずるが如きに至り、其弊害測る可らざる者あればなり。既に十個水兵たるの資格を備へて而して後ち之を採れば、沿海人民の强壯なる部分のみ軍籍に上るが故に、一般の効果を見る可し。然らば則ち佛國の如く其名あるのみに非ずして、名實共に擧る者と云ふ可きのみ。而して既に海軍軍籍に編入すと云へば、則ち陸軍徵兵の役を免せらるゝ事故、義勇兵は安んで從事す可きなり。

我邦に於ては陸軍は戎裝騎馬劍を閃かし、喇叭を鳴らし、到る處に演習し行軍するのみなるが、各鎭臺兵營等概ね人煙深き處に在り。殊に十年の役擾亂反正の効あり

しより。何人も能く陸軍の効あるを知り。陸軍の必ずしも海軍に至ては。之に反し常に萬里の中に泛び偶々軍港に寄航するに過ぎず。鎮守府の設けも又軍事上に出るを以て。概ね偏陬に僻在す。之を以て人民の海軍を見る。決して陸軍の比に非ず。隨て其効果如何を熟知せざるなり。人民能く海軍を知らず。之が擴張論の盛ならざる亦宜なりと云ふ可し。方今世上具眼の士。偶々海軍擴張を說く者なきにあらずと雖とも。要するに實際の必要を覺ること甚稀なり。夫れ海軍の事たる。至重至大一時漫海の考案を以て計量す可きに非ずして。而して又一に當局者の力を以て擴張し得可きに非ず。獨り能く活眼達識以て遠大長久の計を決せざる可らざるなり。而して目下之が基礎を定めんには。先つ人民を遍く海軍擴張の必要を感ぜしむるを以て急務とす。夫れ誰か行政の古維を以て敢の堅艦に當るを喜ばん。必ず堅牢無比の鐵艦を以て敢艦を粉碎するを希ふは人情の然らしむる所なりとす。故に此の人情を利用して海軍の必要を悟らしめざる可からず。今義勇艦隊を全國に組織せば。其人必ず言はん。「軍艦の平和を失し戰端を開くに至つて。軍艦に乘じて風濤を蹴り。進ん

で國民たるの義務を盡さいる可らず。然れども我國に現在するが如き軍艦を以て。後の堅艦に當る事實に容易ならざるを知るの日にして。政府擴張案を國會に提出して。騷噪的攻撃に苦むが如きなくして。速に人民をして之が擴張を叫ばしむるに至る可きなり。(二)又人民は前に述ぶるが如く。海軍の事に暗くして。水兵の愚む可きを知らず又士官の貴ぶ可きを知らざるなり。然れども義勇艦隊の成るの日は。人々實際に經驗して水兵の辛酸を知り。士官の重任を知り。漸次重きを海軍に置くに至る可し。(三)而して義勇艦隊の設は。是の三點の外亦別に航海奬勵の端緒を開くを得可し。何となれば沿海人民にして。航海に慣れ。遂に南洋に北海に航し或は釜山天津に航もし。或は台灣に航し。斯の如くならば數百年來鬱屈蟄伏せる島界的想念自然に融解して。漸く世界的形勢に注著するに至り。其結果として雄圖を海外に試みんと欲する者續出し。將來太平洋上航海の全權を我邦に掌握するも亦期す可きのみ。(四)更に進て之より起る所の間接の利あるを論せん。夫れ義勇艦隊にして。常に海軍の操習に從事するときは。自然敵愾の氣象を發揮し來りて。國防の事決して陸海軍に

一性じ玉碎さる可き者に非ず。苟も日本男子に生を稟くる以上は。各人各個皆其義務を盡さゞる可らずと感念を惹起するに至る可し。夫れ一朝砲煙海を掩ひ彈雨艦を碎くのは固より當りて勇將猛卒如何に奮戰すとも。後ろに國民國防上の感念が軍備の後援となるなくんば。軍氣次第に挫け。兵勢漸く退き。遂に擧國を城下に結び。耻を万世に遺すを免れざる也。若し之に反じて國防の感念非常に發達し。後に之を奬勵し之を慰撫するあれば。軍勢益々張り。兵勢愈々振ひ。衆寡敵に非るの兵と雖からざるなり。而して是一に國民國防上の感念の厚薄如何に在て存す。然るに義勇艦隊は間接に此感念を惹起す。是れ豈に鮮少の益あらんや。

方今義勇艦隊の設けは。獨り露國黒海にあり。然れども是唯平素商船に乘組み。運送の事に從ふ者にして。某が所謂る義勇艦隊とは。其編成運動全く相異なりと雖ども。之が實際の應用を爲し得る迄には。十二分の歳月を要す。固より一朝一夕に成就す可きの事業に非れば。急遽事に從ふ可き時非ずと雖ども。先ず念に之が實驗を試むるに着手せざる可からざるなり。何となれは今日迄か實際を試みざれは此機會を失するの恐れあればなり。何をか機會を失すと云ふ。曰く。目下當代は洋俗沈醉の餘弊を受け。風俗壞廢に屬し。人情浮薄に流れ。徒らに私利に趨き私慾に走る者滔々皆然り。而して其實際に忠愛の至誠を抱き。學に堅く。行は明白の新人民に少くして。幕府封建の下に教育せられたる者に尚ほ多きは。畢竟理見易き所とす。由之觀是風潮の趨く所。益國防上の感念に其薄弱を救ふも保す可らず。故に今に於て早く此等老年の存する間。即ち國防上の感念全く消磨せざる時に於て。之か計を爲さゞんば。恐らくは臨腐の悔あらん。是れ某が機會を失するの恐ありと云ふ所以なり。抑も某か此の愛を抱く所以の者は。決して二個の矢想を語る者にあらず。現に某が故山に歸り。此等の事を計りたるの日。奮然として勇を此に鼓舞せんことを誓ふ者は。總て交老の徒に多かりしを以てなり。故に今にもして此等交老を鼓舞し。從て其子弟を奮發せしむるを得ば。頽勢を挽きて以て此の義勇艦隊を成すに難からず。嗚機は得難く失ひ易し。此機會に於て此事を計らずんば。亦た如何ともすべからざるものあらん。

然れども此の義勇艦隊を設くるに就ては一難事あり。即ち練習船に用ゆ可き軍艦の

ものや否やも亦た問題たれなり。某曾て之を某將官に謀るに、五六年を經過せば、不用古艦を生ずる可しと。然れども我國は海軍擴張の勞頭に立つ者にもて、軍艦常に其少きを嘆ずるの際なれば、修繕又修繕張て古艦をも其用を爲さゞるを得ざる可らず。之を以て推すときは數年の後不用軍艦の生ずるは、某の信ずる能はざる所なり。然らば則ち如何せば可なるべき乎。他なし、全國四千萬同胞の腦裏に義勇艦隊練習の必要缺く可からざるを感じて上陸せしめ、以て練習に供す可きのみ。人或は難して曰はん、常備艦隊練習を休むは、海軍當局者の義務に於て缺くる所なき乎と。其れ或は然らん。然れども是れ區々たる見解にして、國家百年の長計となるの基礎たる義勇兵の實驗を試むるを妨げる能はざるを奈何せん。況んや之が用に供する數個の古艦は寧ろ現在に求めや之が得可きをや。之を要するに某か希望する所の者は眼前の小利害に關係する者に非ずして百年の長計を以て列國競爭の間に立ち國光を發揚し國權を伸張するの大基礎を爲すに在り。閣下希くは日本帝國が將來に負擔す可き東洋活劇場の大任を悟了して

日を消費せしめんよりは、義勇艦に乘じて遠洋航海をなし、西比利亞、朝鮮、支那等の地に至らしむれば、第一には、我國の六大航海路を占取する航海國たるべき思想を養はしめ、第二には、我國は小なり宜しく大陸にも足を踏み入れざるべからずとの有爲的氣象を發せしむるに足らん。此義勇艦隊につきては、熊本鹿兒島を初め全國到處此之を贊成し、既に數百本を所望し來りて之を購はんとの企あり。されば先づ余の故郷にて實驗し、其結果の如何を見て他に及ぼす事なれば、果して余が故郷にて其果を得ん。次て先つ九州にては鹿兒島熊本等六本所に過ぎざるべきも、各艦に水雷艇を備へ、水雷艇に乘るべき人を得べき兵を充艦の水雷艇に乘るべき人を得べし而して佐世保に練習艦一艘を置き、數十名の士官を巡廻練習するを得せしむべし。斯くして九州の根據地守備の士官を得べし。其は呉、横須賀其他の鎮守府管轄に乘るは常備艦隊は皆外に出でゝ戰ふことを得べし。及び特に北海道にも此法を行ひ、而して延て外國の城壁即ち島嶼、要塞ほし、三十五本の義勇艦を本國防禦の爲に備へ、日本沿岸周圍は悉く水雷を伏設して以て嚴守し若し一旦外患わらば我國民は國民の義務として日本の周圍を死守し、常備艦をして後を要

ふる迄なく戰を得せしむるに至るべし。尤も始めより此等の義勇艦を以て完全なる海軍隊なりとするよりは望むべきにあらず、國より其完全なる比如くはなかるべきも、雖も、現今の如き義勇艦の如くにても、四千万の大國は義務として此國家を守らざるべからずとの精神にまで發するまでは、此精神を所謂對外策の大基礎にもせざるべからず。此精神にまで國民一般國家のために忠義を盡し國威を發揚せんとするの一片對國的義務心なきも、對外策雖も皆此國民的精神なる磐石の土臺に立つるにあらざれば所謂眞對外策商策ありのは砂上の大廈にして小風雨に崩壊するの虞なしとなさず。英國が今日商工業の中心點を占め、覇權の實を掌握し從て政治上の覇王を稱せらるゝ所以のものは實に此にあるの外、余の英國にあるや曾て我士官に會す。余の義勇艦隊の說を聞きては實に此にあるの外、余の英國にあるや曾て我士官に會す。余の義勇艦隊の說を聞き尤もなりと曰へり。是下の如き軍事に關係なき人にしても軍事を論するは我軍制を破り、徴兵令を破る不屆の至りなりと、余は之に答へて曰はく、余の身分の如きは言はざるべきも、然れども是等は皆の質問あり。春初天氣麗かにして櫻花正さに開を呈するの時、東京

府民に四日間の休業を與へなば東京府民は如何に其日を消過すべきか。或は土野向嶋若しくは小金井に出でゝ花を賞するか。若しくは家にありて杯を傾くるもの多からん是下陸軍士官は如何なるやと。彼れ曰く「それは何人も同じきのみと余は乃ち曰く此の如き國民は到底世界の覇權を握り得べきものにあらず。現に英國に於ける春初エヘスターの休日は如何にぞやロンドンの府民は此前後四日間の休日に於てなす所は。彼の平日は敢かなる布團の上に坐する所の商人より貴族富豪の子弟に至るまで。普佛國の對岸なるドーバーに至りて毛布を敷き其上に起臥し。固きパンを嚙ち。兵服を着け露營して以て對抗運動をなし。而して愚正の愉快となせり。其數凡十万に過ぎずと雖唯ロンドン府近傍についていふのみ。なほ他の地方には三千五千と露營するもの。全國には三十六万二千六百十三人。此義勇兵の數は維令急ありとも。其國民の國家に盡さんとするの精神は彼此皆一なるにあらずや。英國の今日世界の覇を稱する者故なきにあらざるを知る。又彼のスヰツツルの首府ベルンの如きは日暮に至り日暮に乘じて散歩を試みんが。晝間市場なるもの夜は點燈すべきものは何故ぞ。漸く近けば汽車來まりなば腰しき拓衣破帽の殿工太砲二門を擔ぐ兵士二人を雇ふて其の射撃法を練習するを見る。此憐れなる殿工等は晝間其職に勞し。而して夜に乘じて大砲の使用を習ふ。其意は如何ぞ。蓋し佛國の、此に來るべきが當にはずでも。之を撃ちで國民たるの義務を盡さんとの精神なるや明けし。英國の今日ある當に惟ひに足らんや。

海軍を擴張せんと欲せば先つ彼の英國を民が對國家的義務を解知するを同意味にて。日本義勇艦隊を編制し。而して三十五六艘の義勇艦と。同數の水雷艇とを備へて日本諸港各要地に水雷を布設する兵を擴置す。已に其兵期く養成せらるゝと雖も船艦之れが爲に於て陸軍は動く能はず。於是乎我國始めて軍艦製造の問題に移らざるべからず。而して此軍艦製造問題たる。元來我國は小貧國なるを以て之を盛大ならしむる餘裕あるなしと斷言する人ありと雖も。余熟ら此點に就き各國の歲出入上より比較觀察するに。我國猶は軍艦製造の餘裕あるなり。然りと雖も今日內國に於ける農商業稅をはじめ。之が擴張を圖り且維持せんと欲する如き目算を立つるに於ては。到底十分なる擴張の目的を達することを能はず。故に之か方法は我國に海軍が保護すべき新事業の起興。英利益の維持擴張するの覺悟をなさゞるべからず。即ち商工業等無策

守府に繋き置き或は巡邏船を製造して航海會社に借し置くなり且我日本は地形上いよいよ是非とも戦艦と巡邏船との目的を定め分明に區別し豊かさる可らず即ち東洋に於て鹿児島大島の間に於けるか如く津輕海峽の如き將來の大市場間の航路を切りて敵國を困むるは我國の最も取らさるへからさる策略なり於是乎速力尤も多き巡邏船に善良の軍器を載て以て此航路を制し而して日本海沿岸は外敵を驅逐する如き則ち大なる甲鐵艦を要す是れ第一はすもて先の氣勢を養ほろしの恐あり第二は日本海沿岸は波濤高くして小艦なるときは發砲上に便利ならされはなり夫れ加此戦艦と巡邏艦とを分明に區別するは將來必要の一事也

斯の如く軍艦と兵士の基礎立ちて而して後始めて義勇艦隊を活動せしむることを得るなり義勇艦隊已に活動す此に至りて現役を除く外後備は總て之を義勇兵に負はしむるも可なり然るときは兵備後備の費額を減し去るに付其費額を以て併せて之を常備に費すも尚ほ餘然れとも尚未た以て各國の海軍に當り以て十分に勝を制するに足らす且つ各國日に增加するの艦數に應して

「我國亦從て製造增加せんことを決して貴途の許す所にあらず於是乎我國は又一策を講せさるを得ず即ち其策を何とかなす我國は地利の勝に據りて之を利用することを是也即ち天然の地勢を運用して軍艦の員數を減し軍艦實力を擧けて之に當つるの一事也嗚呼天幸にあたる我國を棄てず我國實に此地利の勝を占むる諸君之を記憶せよ

我日本は北緯三十四度に起りて五十一度に至り北は千島海峽を隔てゝ露領堪察加に接し南は琉球諸島を經て台灣近傍に及ぶ故に日本は亞細亞大陸の門前を包鎖するの形勢恰も太刀掛の如き位置に立て敵手を横さまに張り從來を遮るに似たり試に見よ若し台灣と樺太とを地形上連結一脈となして我國之を嚴守せば太平洋上の大は亞細亞大陸の大は歐羅巴洲と雖も決して我國の周圍を見るに琉球諸島及び大島五島對馬壹岐鹽飽佐渡太平洋上に出つる能はさるにあらずや而も千島蝦夷本土に於る天然の好障壁の如し若し此に據後備を設けて堅守隘塞の如し外寇窺賊の

輩は容易に現說し得んや。我邦の安危は實に此諸島を堅守するや否やに在り。今迄が外部を嚴守せざるべからざる所以を述ぶれば。東洋に事ある日に當り。我邦は局外中立を守らんか。歐米諸國は是等諸島の貸與を我に請ふや疑なし。既に繼續の前後數囘が頻りに我對州を欲望せしは其の一例とすべし。又我邦若し外國と戰端を開いて彼我我邦を攻撃せんには。死力を出して先づ必ず此の外郭を破らんとを務むるや知るべし。若し又英國我に敵する如きあらば。必ず香港を其本營として攻寄するや是れ實際に於て決して彼れの爲も得べからざる所なり。

[illegible]の由軍艦は營みは鯨の如しと蓋し鯨は海面に浮游を而もに潮を吹くべし軍艦も亦頗る之に類す。軍艦は石炭を積み數百噸石炭に依頼もし七八日間は運轉すべきも若し積める石炭盡くる時は動く能はざるを以て。必ず其の盡くるに垂んとするに際も之を積まんが爲に島或は大陸に寄航せざるべからず。而も又其航は多く積むを睹も亦た多く消費し。小艦は少しも消費すを睹も亦多く積載する能はず。故に七八日間は必ず石炭を積まざるべからず。現に香港運送船に依つて其之を運ぶるを練習せる程なり。英國軍艦が香港まで自本經來るに未も

「メルト」の速力を以てするも二日半の日子を要すなり。今七八日間を與ふべき石炭を積載し來つて戰ふも睹も。其往復日數を除いて餘す所僅に三五日に過ぎず。若し石炭盡くるときは軍艦は恰も死鯨の波上に浮べる如く之を破り之を擒にするに於て傳の難きあらん。故に英國が我日本と戰端を開かば。必ず彼太島の如き良港多き地を擇も。此處を據點とし立脚の地と定むべし。千八百八十五年彼れが巨文島を占領せしが如き。其の本目的は支那と同盟の存廢如何に拘らず。之を以て太平洋中殊に於て魯西亞と戰爭するの本據を爲すに在り。戰爭の初めて起るや。吾國の支那貿易を保護せんが爲め若くは我が殖民地を魯國が不意に襲撃し來るものを防止せんとするには。先つ清國海及び黒龍江の近傍に石炭貯藏所及び戰爭運動の本據を有すること。固より必要條件なるべきも。且つ魯西亞を太平洋に於て迎擊するに於ては。巨文島を以て常に加奈陀太平洋鐵道より起る貿易。即ち支那日本を加奈陀との貿易の首府となすは尤も今日に於て緊要なり云々。

とき。之を以て其本營となすは尤も今日に於て緊要なり云々。

又た英國海軍大佐「クラーク」氏我對馬島買收策を按じて曰く。我が英國は此處那に於て。艦船修繕の良港を。石炭貯藏の倉庫を所有す可きの必要を生ずべき備を

なれば英國にして難を他國に博ふるの日は、東洋諸國皆な局外中立を守り、其諸港を開鎖するを以て此戰闘中は已を得ず石炭等を香港及びルソン島に取る、且つ船舶修繕も亦同地に於てせざるべからず、而して此事たる實に不便困難を極むるものなれば左も日本海の暗礁に一島あり、對馬と云ふ、兵略上より考へれば、此島實に我船舶修繕及び石炭貯藏の用に供するに恰當するものなり、故に余の考案を以てすれば、必ず日本政廳に商議して之が讓與を請求せざるべからず、而して英政府は之れを實取しなる後、一個人と共に此島に赴さば、我英國の商賈上兵略上、共に太平洋上に向て絶大の利益權力を有するに至るべし、

聞で東洋に於ける戰爭の實例を見るに、千八百六十年に於る戰ひには、英佛同盟軍は大沽砲臺攻撃勝ちしが、此時英は香港を本營とし上海の河口舟山を砦堡となし、佛は勢海灣の入口大連灣と云へる所に據地を求め而して佛は西貢を本營として芝罘を砦堡となしたり、又千八百七十四年清佛戰爭の際には、佛は台灣と大陸との間にある澎湖島を占領し以て據戰の地となせり、然鑑遠からず、我邦外國の陣壘を堅牢にし新事の構を聞まざるを要す、而して此陣壘即ち外郭は決して一地方に於ける障壘にあら

ざるを以て一たび擊破せらるゝの不幸に遇はゞ、我日本全國は遂に支ふべからざるに至るべし、然るに現今我邦に於ては之を一地方に任擔せしめ復た顧慮せざるもの、如し豈危殆ならずや、蓋し日本全國を防衛する所以の陣壘たるを知らば、之を一地方の負擔として輕々看過するの理あらん、宜しく內務省の直轄として國庫の金を支出すべし、而して諸島に島守なる名譽役を置き、華族を以て之に任じ、又義勇艦現今の警備隊を此の諸島に置き、假令廢朽の軍艦にても常に備へ置き且つ其の樞要事を通知すべき電信を架設せざるべからず、以上の數件一日も忽諸に付すべからざる大事にして國家の安否に係る急務也、速に着手せよ、

歩を轉して日本沿海を軍に於ける地勢を說かんに、第一南を距る數里にして台灣島あり、余東方策第二編に於て之を論じて曰く、

臺灣島を本府とし、精銳の軍艦を以て太平洋中に立たば、何れの國たるを論せず、南北支那海上の大權及び香港より、澳州巴拿馬、尼加剌瓦、桑港、ペルー、日本上海に至る太平洋航海の全權を握ることを得べし、蓋し以上指名する所の航海は悉く臺灣島の近隣を經過し、特に香港より上海に至るの航行は必ず支那本部と臺灣島と

の間を通きさる可からず。

此重要なる臺灣島問題に付き公平の意見を得んと欲せば宜しく二三の事實を探究せさるへからす第一臺灣島は支那を侵掠するに當て最も形勝の地にして亦太平洋に於ける英國の權勢を殺くに於ても最も要衝の地なり何國たるを論せす玆に砲臺を築き海軍を以て警備を固くせは臺灣島は香港の一大競敵となるを得へく而して香港は商業上に軍略上に今日有する所の要害の價直其大半を失ふに至らん而かも況んや千八百八十二年佛の変趾占領に依り其樞要なる所以の幾分を減殺せられたるに於てをや

第二亞細亞に於て事あるに當ては英國は濠洲殖民地より若くは加奈太太平洋鎗道を經て來る所の援軍のヴアンコウヴルに到着して後に亞細亞に來らんとするや先つ日本及ひ臺灣島占領者の許諾を乞はさるへからす何となれは日本及ひ臺灣島占領者にして軍艦を以て之れが通路を塞かは英國亦如何ともする能はされはなり加之臺灣島占領者にして力を此處に振はゝニユヰヤンヤ占略の日耳曼政策も亦其の算を誤らるゝに至るや必せり何となれは則ち香港濠洲殖民地間の交通は爲めに截斷せらる可けれはなり

第三若し支那にして自ら全く臺灣島を棄て臺灣東部地方の土人は未だ曾て支那の主權を承認せす支那も亦臺灣全島を讓定し自國の政府の管轄の下に置くと能はす故に同地の佃護に之れ有り曰く三年

一千八百七十一年佛蘭西は同盟し日本は日本海の咽喉を對島に於て而して琉球諸島の主領者たる日本國を之を拘し支那は臺灣島に據りて南北支那海の全權を握らは英佛の富強を以てするも睥睨す可き能はさる

第四若し琉球諸島の主領者にして臺灣島を以て軍事上の基礎を建つる能はす英國は全く太平洋の全權を握るの主權者となるなり

一千八百七十三年日本琉球島の一船臺灣の東岸に漂泊し其水夫は蠻民の虐殺する所と爲る日本政府は乃ち遠征軍を臺灣に送りたり遠征軍の勇敢なる臺灣十八族を破りて遂に之を征服せり

且夫れ臺灣島近傍なる澎湖島の如きも亦其要害の値決して臺灣島に讓らず。能く之を自國の版圖に入るゝ者は必ず能く所謂三大航路の形勢を橫縱するを自在ならむ。

第五。英國にして香港臺灣の二島を以てせば。亦太平洋の主權を把るを得べし。

第六。日耳曼にして臺灣或は澎湖島を占領せば。濠洲亞細亞間英國の航路を截斷せんとするニユーギニア占有の政略を完成するを得るのみならず。北方太平洋上に日耳曼の新政策を創始するを得ん。

今日に在て。我日本が固く對馬を守りて。日本海の全權を握り。兼て支那海の全權を把る可きは。理の上にも事の上にも勢の上にも必要の上にも動かす可らざる主義國是に非ずして何ぞ。覺束に此に止まらむや。南琉球及び鹿兒島等海軍上の守備を嚴にし。斷然雄飛を南洋群島及ひ臺灣に伸ばし。以て太平洋面の航海及ひ海軍の全權を左右す可きは百世更ゆ可からざるの國計方畧にして。天の我日本國を世界の雄國たらしむる所以の數に異する者也。

次に琉球諸島及ひ大島の事を說ぶし。琉球諸島は最も警戒を加ふべき地なりと雖も。

惜むらくは此地は軍艦を碇泊すべきの良港なきを以て已を得ず之を海軍上の土地となすべからず。鹿兒島の近傍には大島あり是亦東方策第一編に論して曰く。

我鹿兒島逈傍大島の如きは其形勝逈に巨文島に勝れ。更に進んで臺灣の價直を奪ふに足るあり。此大島の位置は北太平洋の航路を遮得まさに最適當の地にして。將來大平洋の時期來らんか。亞細亞大陸より亞米利加加奈太厄加剌兒の航路は大島鹿兒島間を必通す。然歟は大島は東洋の大勢を控制するの急所たり。余は此點より之れを觀察して東洋の咽喉と謂はんと欲す。殊に大島には燒內、笠利、薩川、久慈の諸灣あり安全の碇泊港なり以て軍艦を繫き。將來太平洋に於て商勢繁盛なるに當り大島海峽を通過する所にして奈翁破れ千八百十五年セントヘレナの會策零なり就縛於て貿易大道遽晴の策創まり後年奈翁倒れ千八百十五年セントヘレナの會

臨まんとす。英國はアデンを占領し、喜望峰マルタヤスを署有し、其後香港新嘉坡アデン紅海のペリムを占領せり。今日英佛獨が太平洋の諸島を占領する其、我日本人は重に其の島嶼の產物に着眼すと思へども決して然らず。島嶼を占領して以て尼加剌瓦運河成就し且濠洲より東洋に新通すべき航路を制せんとするもの其の第一主眼たり。又敵對州の如きは事ある戰闘上の地位を占むるに雖も、余は對州より却つて大島の地の價れるを思ふなり。何となれば敵艦一度之を占居せば、以て據戰の地となし、直ちに我都の西部を擾き、或は東部に出て豐後海四國紀伊海に出沒輸戰するを得べし。彼れ若し大島を本營として對戰せば我卿は兵力を東部西部に幾分して之を拒かざるべからず。若し夫れ兵力を分割せんか、隨て其の力の微弱となるは必然の勢なりとす。之に反して我鹿兒島大島間を堅守すれば、南支那海より來るべき敵を此處に扼すべく、而して九州の佐多岬より東北の太平洋し、現んや英國か兵を加奈太より東洋に遣るものは、此處に於て扼し得べきに於てをや。

大島の必要上より言ふも鹿兒島の防衛の必要起る。鹿兒島は九州南端の要衝にして假

然大島を堅守するとも若し鹿兒島にして略奪せられなば、大島は其の効を奏す能はずして遂に不用の地となるべし。且又大島を略せられざるも、彼れ鹿兒島を本營として進擊せば、日本は之を防禦する能はずして、遂に覆滅の悲運を眼前にするに至らん。余浸潤せる鹿兒島に至りて觀察するに、露英想起せり。露の艦か常て英國か東洋に擧あるや、必ず大島占領に着手すべきに付き注意せよとのひたるを。

今日日本か對外策及び國防上より思考し、大島海峽を守るべき、艦隊及び其本營を此の近傍に設置するは必要の事なり。而して鹿兒島灣に佐世保鎭守府の分營を置き、速力最も多き巡航艦に常に大島と相往來し警衛し、又鹿兒島の門口には必ず砲臺を築くを要す。若し外交あるに於て斯る要處に砲臺を築かさるを見なば、大に其不用心に驚くあるべし。即ち對外策上より言へば、砲臺を築きて陸軍分營を置くか或は警備隊を常分に備へ、精勇艦をも置くの必要あり。此事たる我國目今の最急務也。夏に現今の海陸軍の狀況を見るに、此點に於て最も注意を欠るに似たり。海軍

は大島に僅に石炭の蓄積場を設置しあれとも之を保護するの警戒なきは甚た危し。
此れ國策上最も注意を要するの點なり。
佐世保は地理上最好位置を占め進ては亞細亞大陸に至るに宜しく退ては日本海太平洋北部に侵入する敵兵を防撃するを得るを以て最も必要の地なり且つ其管轄は筑前豐前國界より九州西海岸に沿ひ日向國南那珂南諸縣郡界に至るの海岸海面及ひ壹岐對馬沖繩諸島の海岸海面なり今其管轄内の諸島に就て論せんとす。
彼五島は支那海に最も附近し玉の浦と云ふ良港あるを以て若し事あらば此地を警堡として先の奪略せらるゝの患あり其他壹岐平戸の諸島の如きも敵國侵略の恐れあり特に平戸には古江と稱する軍艦の碇泊すへき港もあり往昔元寇の時には第一其侵害を蒙りも甚なり此等の諸島にも警備隊を置き五島平戸には義勇艦設立の許可を切望す抑も事是非必須の事にして平戸人等の如きは日々に義勇艦の事にし
歩進て之を見るに英國が南方より日本海に入んとする時には之を防くに先つ五島の沖にて一撃抗抑し再び對馬の海峽にて抗抑するを得るなり且又支那の芝罘若し
は天津に有事をするにも此の邊は地理上最好の進路なり就ては玆に巨文島の事

に就き少しく必要を述へんに巨文島は千八百八十五年英國之を占領せしが英は此を東洋北部の本營となして日本海を制海を北支那海の咽喉を扼するの目的なり然れとも我れ對州に於て之を日本海に抗抑するに於ては巨文島は日本海の咽喉を扼するに至るを以て英國に占領せらるゝ時は日本の物海に對するの勢は大に殺がるべし。これは我國か進て支那朝鮮に事あり又海戰を爲すに當り非常の妨害は免れざるべき事は支那より視るに巨文島占領一事は支那も亦國防上非常の殺勢を感せずんはあらず。兎も角支那は英に對して故障を入れ英をして巨文島占領を放棄せしめたり然るに日本は亞細亞大陸に於ける進行上事利益ある巨文島を占領せられもにも拘らず空しく默々に付せしは實に大なる不得策なりと云ふべし。(附錄第壹參照)況より對州に就て論せん。
對州は先にも述し如く日本海の南關門を占む敵に此に確乎として之を防禦するときは敵艦をして南より日本海に突進するを能はさらしむ可し又露が浦鹽斯德を本營としも支那海に進入するとも抗抑し得るなり若し我對州をもて敵國に占奪せられなは我邦和日本海及び北支那海に有する所の海軍の主權は忽ち地に墮つるに至る矣

く。且つ我が大陸に通ずる中道を絶たれ。我れ若し大陸に於て露國若しくは支那と連合軍を形成し或は一手の軍勢にて戰端を開くが如きとあらば。忽ち本國との連絡を遮斷せられ復た如何ともすべからず。殊に露人が日本海を稱して東洋の地中海となし。且つ露國參謀士官は日本海を以て敵軍に對する運動の一大局面となし。日本海を以て海軍の根據となし國勢を東洋に張べしと云ふ。英人は曰く抑英國が巨文島を占有もなる所以は。支那を同盟の存廢如何に拘らず。之を以て太平洋中に於て露西亞を攻撃するの本據とするに在りと。然らば將來東洋に於ける英露海軍の戰場は日本海支那海の間即ち我對馬の近傍なるべし。日本が露英支の一と同盟するも。又局外中立を嚴守するも此對島近傍に於て我海軍の威力を示さゞる可らず。又我郷よりも亞細亞大陸に進發せんにも此方面に依らざるべからず。是を以て其の之に備ふる所の軍艦は航路を遮斷する艦隊よりも寧ろ戰艦の種類ならざる可らず。且又義勇艦を設置せざる可からざるなり。[illegible] 陸奥の如きも。還て守る上に於ても。此等の島嶼假設の兩島を亦日本が進て事を爲す上に於ても。此等の島を敵國をして占領せしめば又如何ともする能はざるに至るべし。殊に日本の北海に濱

する海岸にては。陸奥の龍飛岬より越中に至るの海岸。丹後の經の岬より伯耆の下市に至るの海岸。出雲の多古の鼻より長門の高山岬迄の海岸には。船舶を容るゝの港なし。故に露は必ず佐渡隱岐を取りて其立脚地となし。機會を窺ひて日本海沿岸の要所數箇を進いて日本本島を中斷し。若しくは馬關を閉ぢ。九州と本島とを切斷するの軍略を出すことあるべし。於是乎東洋の大勢主として日本海に鎭守府を置くの必要を見る。鎭守府の地位は。東洋に對し最も須要の處なれば。還に舊に鎭守府を置き。其艦隊を馬關海峽の近傍山陰道に置ひて東洋將來の海戰の基本を創立するは最も必要の事ならずや。而して山陰北陸の諸港に艦艇を備へ。此より津輕海峽に赴て迎撃するも。又露をして一歩も太平洋に出さしめず。又露をして日本海に入るを得ざらしめんには。此の津輕海峽は最も必須の地にして。之が防禦は堅固ならざる可らず。又た室蘭鎭守府の設計は既に立ち居れども。港灣築造の如きは。此の津輕海峽に對する最好の軍港地なれば海軍省が一考を要すべきことゝおり。又宗谷の海峽に夏季の間は全しく注意を要する所なり。殊に露

の參謀官吉ていあり。東洋にい朝事あるい
と。宗谷海峽の守りを堅固にするは又必要の事なり。千島に就ては附錄第一に詳述せ
り。若し此の局面の守りを堅くせば露が千島と樺太とを交換せし當初の目的を達せ
く。當併とするが如し。此に一の海軍の分遣隊を置き。夏季に之を守らしめ。而して
一は常續艦を抑へ。一は露が此處を通りて太平洋に出るを防ぐことを得ん。更に東北
の海岸を見るに。箕房の南端より陸前の松島に至る海岸。陸奥の宮古より陸奥の尻矢
に至る海岸には軍艦を碇泊せしむるの港なきを以て敵軍侵撃の患痛なし。次に横須
賀鎮守府の管轄東京灣の防禦は尚ほ嚴重にせざる可らざるとは世人の許すところ
ろなり。小笠原島は將來太平洋上の商船の航路に當るを以て。此には海軍分遣隊を置
き警備隊を備ふるは。日本の最も急務と爲す處たり。又た馬關の海峽を堅守して英露
とを抑制すべし。若し此の要所を攻衝せざるが。九州を本島との連絡は忽ち斷絶せん
のみ。或ひは米國の海峽を經營後の海峽に出で。四國と中國と九州とを絶たんとする敵
艦あるべきが。英佛將來之連合軍は此處より侵襲せざるが。故に此海峽は堅固の備
へ無かるを可ら。尚ほ戰艦も通過船をを設備するを要す。四國の須崎を野見浦の一を

軍艦とし軍隊を置きて四國を守り。而して又一は紀州の海峽より日本の中腹なる水路を衝き紀洲を廻りて尾張を衝かんとする敵艦を。紀州沖にて防撃せざる可らず。以上數ヶ所の如く我國が國防上より殊に東洋の弱權を握らんと欲せば。海軍を盛にするは今日必須の事なり。而して海軍を盛大にするには多額の費用を要するを以て。先の他の費用を節するの策を講じ且つ余が所謂日本の地形を熟察して戰艦巡邏艦等の船種を區劃して大に實力を增進すべし。

次に述べ

動をなさば大に利あらん。此事たる嘗て英國海軍上の問題となりしなるも。我邦の外廓陣壁たる琉球臺灣佐渡等及ひ各要衝の岬に電信を架設し海軍演見所を設け以て海軍上の遠征運動に便にするは海軍擴張の一策なり此に於て軍艦と兵數を增加せずして以て其實勢を增大するを得べし。

海軍の擴張は徒らに軍艦を增加し鎭守府を增設するにあらずして其の實を擧ぐるに在り。其實力にして擧がらざれば是れ虛形のみ海軍の實は何ぞ。即ち其任務を盡すにあるなり。戰時の務は自國の航路は之を保護して敵國の航路を妨害し。又敵艦を戰ひ之を破り之を封鎖するに在り。平時の務は密輸船を警捕し或は密輸入を海岸に於て制捉し。或は新航路を創始し。或は島嶼を探檢する等に在り。現今我邦の海軍は此平時の務を以て最急に附す余實に之を惟ふ。彼の英の密輸船が歐の軍艦に追遁され逃れて橫濱沖に來るや。我軍艦は何故に之を逸に委せざりしや又外に對しては浦潮斯德米國等に軍艦を派遣して居留地人民を保護し彼輩をして安心其業に從事せしめ又殖民業にも力を用ゆるは皆海軍の務たるべし。殖民事業に關しては前は南洋諸島濠洲及ひ亞細亞大陸漫遊の後に於て意見を吐露する所あるべし。而して殖民局なるものを外務省に置かずして海軍省に屬すべきは余嘗て之を詳論せり。回く[illegible]

竝し今日萬國の交際間に於て最も吾人の注意すべきは。若し國際上其間に一事件の生ずるとありとせんに。其事件を惹起したるものと。及び其事件の正否を判斷辨護するものとは。自ら別部にわらざるべからざるなり。特に殖民事業につきては其事業を實行して。或は未開の土地を發見して我有に歸し。或は他の有せる所と雖も其境界の不明なる所。國勢の及はさる所は十分に踏込て之を略取し。且つ其事件の他國との國際問題となれる時に當り。其是非を判すべき者と之を爲したる者と相區別して相異る部分に存すること必要なり。何となれは今若し殖民事業の爲めに他の無所屬の地若くは境界不明の地と雖も。既に之を取りて我の所有となしたるや。英國は之に向て其不服を訴へ。サモアの一事件あれは其利害を感ずる實殊に獨ちんには。他の國即ち其ために利害を感する所の諸國は必ず議を其間に容れて終に一の國際問題となるに至ること疑なし。現に獨逸かニューギニヤの東方を占領するや。英國は之に向て其不服を訴へ。サモアの一事件あれは其利害を感ずる實殊に獨ちんには。他の國即ち其ために利害を感する所の諸國は互に相讓ちず會議を開きて其事件に干渉せり。今後と雖もアヒりや諸

島ボルネオ若くは南洋諸島濠洲南亞米利加等につきても日本のなしたる所業に對し彼等の喙を容れさると固より望むへからす。此時に當りて此等外國との間に起れる故障に關し之か判斷の位置に立ち事件の談判者たるへきものは即ち外務省なり。換言すれは外務省は即ち被告人の辨護人なりと云ふへし若し之に反して果して世人の傳ふる所の如く殖民局若くは殖民課を外務省に設置して自己か起したる事件を自ら判斷し自ら辨護人たるとは國際上大不利益にして直ちに殖民事業の伸縮に大關係を有するなり。今假りに外務省か此に殖民事業に着手したりき假定し其所業上に或る過失の生じたるとありて國のために言を容れられたるとありとせんに外務省は何を以て之に應せんとするか自ら其事業を過失ありと低頭平身罪を謝するが如きは政畧上殆となし難き所なり然れども若し其の所業者は直ちに外務省にあらずして他の部分にありたりとすれは外務省は其間に立ちて之を處理し得へきなり。

況んや殖民事業の上に於ては多少無理なるとを推して之を實行するの場合數ゝ起り來るへし此時に當り必ず事件を起したるものと辨護人と其部分を異にするが

如き國際上談判の際最も便利なりとす。若し果して予の說の如くんは殖民局を設くるの必要あるや。然るに余か此問題斯の如く言はんより人或は疑て言はん。然らは則ち之を農商務省に設くると最も適當なるへし何ぞ必ずしも之を海軍省に設くるの必要あるやと。然らず。其部分を外務省外にせさるへからず。

余が歐洲より歸り來りて最も其感情を奮起したるものは我海軍の不完全及び海軍事業の不活潑なるにあり。且つ夫れ我國の位置形勢幷に將來を考察するに日本は正に太平洋航海の全權を有すへき地位にあり。然るに我國海軍の不振此の如くなるは實に將來を慮らざるの政略ありとからふへし。今や海軍擴張の事たる恰かも我國の輿論となれるものゝ如し然れども未た其擴起の方策を立てたるものあるを見ず。余輩は此事に關して既に其意見を府に上申したれは今日に於て之を明言することを欲せされども他日必ず之を世に公にするの時あるを信ずるなり。

そは兎も角も今日我海軍の有樣を考ふるに其事業の殖民事業と一途に出つるとに

と最も必要なることにして今古來歐洲諸國の殖民事業の歷史を按ずるも殖民事業に關する海軍の力最も大なるものありしを見るべし。或は私立の殖民會社を立てゝ此事業に從事したるものもありしと雖も。其殖民地を發見し其土の風俗人情を察し若くは此に至るの航路を發見する等の事跡を察するに。概ね海軍の所業に屬するなり。今我國に於ても我軍艦の南洋に巡航することありとせんに其際に當り未た其所屬なき島嶼を見出したらんに直ちに我國權を掲てゝ我屬地となし更に其航路を發見するか如きは。決して外務省に於ける机上の討案に成るべきものにあらずして。海軍の最も其任に當るべき所のものなり。何となれば殖民は既に領事館を置きたるか如き所にて行はるべきものにあらずして。未た全く外務省の關せざる未開地に關する事業なるのみならず。其事極めて迅速を要し文吏の机上に畫策を立てゐ取調をなすが如き手ぬるき事業にあらざればなり。

彼の英國か紅海の入口なるペルム島を取りしときの例を見て能く之を知ることを得べし。最もこは英國か殖民地としてにはあらずして軍略上之を取りたるものの如きも。又は他の土地を略するの迅速を要するを見るに足るべし。もとペ

ペム島は英佛二國の互に目を屬したる所にして機會を窺ふて其海軍の要地とせんとしたる所なり。一日佛艦アデンに入り來りて石炭を積み込まんとするやアデンの知事は其軍艦のペルムに赴くものにあらざるかを疑ひ。其の艦長將校を招待して之を審應し。其際果して其行向のペルムにあることを聞き。知事は直ちに二箇の命令書を發し。一をアデン兵營の長官に他は之れを稅關吏に送り以て佛の軍艦に石炭を積むことを止め。且つ速かに商船なり若くは他の船艦を發して英國旗を同島に樹つべきを令したり。此に於て佛艦は後れて翌日同島に至れは英の大砲は既に備付られ英國旗は既に立てられ終に計を失して歸りたり。而して英國は今日なほ紅海上の咽喉を扼し居るなり蓋し未開地を略するの速かなるとを要するの如くならざるべからず。豈に外務省の案上にて其地の報告書を取り調べ殖民の方針を研究するの暇あるべけんや。これ余か殖民局を海軍省に置くときは其事機敏に行はれ國際上又甚だ便利なるべしといふ所以なり。

且つ夫れ我國今日に至る迄の海軍擴張の方法を案ずるに或は多くの軍艦を造ると又歐洲南洋諸國等を巡航して我海軍の狀態を示し以て其目的を達せんと欲

せる者の如し。吾輩固より之を非難することを欲せず然れども他に又更に大に着眼すべき者あるを知るなり。例へはパナマ。ニカラグアの運河の計畫我海軍省に達したらんには。其達すべき新航路を發見し。又サイベリア鐵道敷設の說を聞かば直ちに新潟敦賀若くは山陽地方の一港よりウラヂオストックに至るの新路を見出し。其航路の長短及び其他の精細の取調をなし。其他多くの未た世界航海圖又は其歷史上に記載せられざる航路を發見し。英米其他の諸國の船舶も其往來常に此路によるとゝなりたらんには。我海軍の名聲擧かるへく我海軍の名を世界航海の歷史に特書せしむへく。唯に我士官の英語を能くし軍事上英式を知れるてふ御披露にきされると萬々なるは疑なし。

或は人ありて新たに發見さるべき航海路は更にあるなしといはん乎。彼の太西洋は航海の最も盛なる所なるにも關はらず。現に昨年に於て英國より米國にかける最速航路を見出したるにあらずや。況んや我國よりフヒリピン諸島若くは濠洲其他南洋に至るの間には十分に其望を屬するに足るの餘地あるなり。此等のとは皆間接直接に我殖民事業に影響を及ぼすものにして唯これ海軍の演習のみにあら

ず其風土人情を察し取るべきは取り略すべきは略して我國旗を立て。若し其間に國際上の問題起りたらん時は外務省に於て其判斷辨護の勞を取る。此の如くにして始めて殖民事業は幾分か其手を伸ばすとを得べし。

第二　陸軍――國策的軍略――東洋將來の戰場――陸軍大礎確立策

我邦現今の海軍々人は海軍を以て國防の主眼とし。陸軍々人は陸軍を以て國防の主眼とし。而し兩者常に相張る。然れとも是兩なから其の正鵠を得たるものに非らず。今日我國海陸兩軍の偏執は畢竟するに國防なる意味を誤解し。即ち彼の鎖國攘夷時代の海防なる意味と英語のナショナルデフェンスの譯とを混同して其文字面に拘泥せるを以て。單に防禦的を意味して進取的を意味せさるなり。歐洲のナショナルデフェンスなる語は外交上に於ける一用語にして。若も他國を攻伐せん爲め兵を增加すといふときは軍事上の樞機を洩らし。且つ他國の惡感を惹くを以て。乃ち國防ナショナルデフェンスと云ふと雖も進戰攻伐の意味は十分言外に含有せさるなり。然るを我邦にては其語のみを察して直譯し。單に國防となして

文字以外を咀嚼せざりしを以て今日と雖も國防と云へば單に受太刀的內國防禦の
ことゝなし。之に拘泥し爲に太に眼識を害くせり。見よ海軍の如きも單に九州四國等
に於て防衛する事をのみ計り。却つて亞細亞大陸にて之を防ぎ又は濠洲若しくは加
奈太を控いて我が國防となすべき進取的軍略に想着せざるにあらずや。彼れ英國人
は一旦露西亞と戰端を開かば。露の東洋艦隊が加奈太若しくは濠洲を擾かんとを恐
れ自國を防守するには遠く自國を離れし地に於てすること即ち彼のチルソンがト
ラフォルガー及たオイル河口に於て佛軍を破りしか如し是れ之を英國人の國防な
り。我陸軍人の國防觀念も亦海軍人と同しく國防とは則ち日本の內地以外に一歩も
出でずして。內地を防ぐと云ふ思惟も頗る狹窄の觀に陷いれり。例へは東京を防守する
に丸の內にて防ぐと云ふ如し。既に丸の內に於て防がざるべからざるに至らば是れ
籠城なり。果して丸の內を防がんとせは何故に進んで函根の險に據らざるや。斯く始
めより亂の終に於て防禦する退歩的卑策を立てなば規模狹少勢威壯離到底嚴守の
實を擧ること能はずして篡城落日的の悲境に陷らんのみ。故に我陸軍將來の改むるべき
點は恰も東京を丸の內に據て防守せんとするを同一視して到底凱歌を奏する能はざる
べし。今日此等下策を斷止し進んで亞細亞大陸に於て之を防歷するは則ち困嶺の險に據りて防禦するの方針を取るに
同じ。英國が歐洲に對するの位置は。日本が亞細亞大陸に對すると均しく故に先ず例を
英國に徵せんに。英國が歐洲大陸の攻擊を受け之を其の本國に於て防禦せしはネバ
ーヌアーダの襲來の時のみ。其の他は皆歐大陸に於て防禦せり。
更らに之を歷史上に考ふるに。奈破翁が大軍を叱叱し路を白耳義に取りて英を征せ
しときに當り。英は之を自國に防戰せず勇進して大陸に渉り普露西と連合して之を
ウオータールーに破り。以て國防の實を擧けしにあらずや。又路易十四世が西班牙王位
繼續問題を名とし歐大陸を蹂躙し進んで英を征せんとせしときも。亦英は和蘭と連
合し兵を西班牙に遣りて之れを防歷し。遂に後のシヂラルタルの海峽をも占奪せり。
又た奈翁が葡萄牙を經て英を伐たんとするや英はウェルントンを大將として葡と
同盟し。佛軍を葡に破りたり。更にデューク オブ マールボローが歐洲連合軍の總督となり。
路易十四世と對戰せし際も亦和蘭に防ぎ進んでライン河邊に戰ひて之を破れり。彼
のウィルヘルム一世の佛國の襲撃を防ぐやプレデリック大王及濠太利露西亞と軍

用金を貸與して、佛の東北を撞かしめ以て自國を防衛するの策を執れり。又ウヰリヤムピットが米國を攻伐せんとするや、先づ歐洲大陸に於て戰たりピット曰く余は、獨逸の局面に亞米利加を征服せりと。

我邦も將來大陸より我を撞かんとする清露等の陸軍を防がんには、既に我内地に侵入せし曉に於て之を防禦せんとするは愚も猶且つ爲さゝる所なり。須からく進んで之を大陸に於て防がざるべからず。此の防禦線は浦潮斯德以南より朝鮮半島に於てすべきなり。且又東洋陸軍の戰場は必ず浦潮斯德以南朝鮮半島の間に在るを知るなり。

千八百六十年の北京條約に於て支那は西比利亞地方を露西亞に奪はれ、爲に滿州は海岸を失ひ、日本海へ出づるの口は閉塞せられ、之か爲め露は非常の幸なりと雖も、支那に取ては非常の不利益なりと謂はざるを得ず。コルフ男曰く將來若し清國か滿州を經て此海岸に達せんとし、壤土を爭ふの事あるときは決して彼に一歩も讓る可らざる所なり。並し近來支那政府に於ても既に大に見る所ありて、當方面に最も注目し、殊にクロパトキン紛議以來、特に滿州警備に於て最々として歩を進め各地兵備を增加し、新

道を開鑿し或は地方行政に改良を施す等、頗近著しき改良更張の實績を表したりと。殊に露の參謀士官の意見にもポーセット灣は、支那と雖も兵を交ゆるあらは其開戰場は北はニコリスク南はポーセット近傍にあるべし露人曰く烏蘇利全境は我最貴重なる要地にもて、又之に隣する清國より之を見るときは最も甘味を表示せる一臠の美肉なれば、同國が常に涎を流して之を併呑せんとする亦免る可らざるの勢にして、到底早晩兩國此に兵器を交へ雌雄を爭ふの事あるを免かれざるへきなりと。

露は實に此に鋭意警戒せり。清人は常に西比利亞の烏蘇里地方に架設せる鐵道を稱して將來支那の鐵道なりと云へり。ポーセットは露西亞にもて、支那は滿州より此に兵を出すに便宜なるの衝突をなすべきの所なり。故に露は常に其以南なる朝鮮を救ふの策を廻らし、之を支那に奪略せもめざるの政策を取るなり。若し此の朝鮮を他國の爲に略奪せられなば、滿潮斯德も亦た甚た危殆なればなり。

又日本の軍略上より朝鮮の位置を考ふるに。朝鮮半嶋と浦鹽斯徳以南の處に於て。露西亞と連合し支那へ進撃するにも。或は支那と連合して浦鹽斯徳を陸地より衝くにも最好地位を占め居るなり。朝鮮は日本より之を見るに。恰かも英國が白耳義に於けると同位置を占む。歐洲大陸の敵軍か英國を襲撃せんとするには。必ず此の白耳義を經て來る事と奈破翁か英國を征せしときにも此道に依りて軍馬を進めし也。又英國か大陸の敵軍を防ぐにも攻るにも此の方面より進行せざるを得ず。彼のウヰルヘルム戰爭の如き其適例なる無らん耶。又我國が大陸に於ける防敵上より見るも。朝鮮半島は最も適切の地なるのみならず進んで亞細亞大陸を衝かんとするにも此半島を經て兵を出さゝる可らず。或は露と連合して支那を撃つにも朝鮮と支那との境に合して然る後西に侵入するなり。又日英支三國連合隊を以て露を撃たんとせば。陸兵は先ず此朝鮮半島に屯備せしめ。然る後西比利亞に向はざる可らず。今日我國の兵略上より觀察を下さば。此朝鮮半島は大陸に侵進する衝路に當る。此を以て朝鮮問題たるや我國は一日も忽諸に付す可らざるの事なり。京城の變天津條約に於て海陸軍軍略上我國は干涉に付すべからざるものあり。今支那のみに兵を出すを得せしめ。我國は出

すことを能はず。即ち彼の天津條約を履行するに於ては。日本か東洋の覇權を掌握するなどは夢にだも見る能さる處なり。此を以て見れば朝鮮は大陸に渡る我の中道にして台灣は南道なり。而して大陸に侵入するの要路なり。殊に澎湖島の如きは海軍を陸上より觀察すれば。亞細亞大陸に對して支那を南北に切斷する最好地形を占むるものと云ふ可し。北道は即ち樺太にして露人も既に此點に就ては考慮する處あり。該國參謀士官曰く東洋に於て一朝事あるの曉には。此地を以て戰爭の一局面となさゝる可からずと。我國北海道より樺太に渡らは樺太と大陸との間なる海峽は。狹隘なるを以て多季には結氷鏡盤の如くなるゆえ。人馬共に徒歩にて渡るを得べきなり。夫れ樺太は決して露國が敵を拒禦し能はざる地なり何となれば道路は未開通なり兵士は未熟練なるのみならず處々に散在し且つ軍艦を出入する灣港さへあらざるを以て此地は到底防戰の地にあらずと露國士官曾て之を自白せり故に日本は北海道より樺太に渉り。是より露の西比利亞の烏蘇里地方に入るは國防上又必要の事とす。然らば政治對外策の大本により我國不羈自在の地位を保つて而して後露國或は支那と連合し所謂同盟的株券會社を組織するにせよ。露との連合に於ても支那との

連合に於ても戰爭の局面上に於ては其兵多く且つ速かに操縱運用するを要す然らざれば會社の利益即ち戰勝的利益を充分に得ること難かるべし軍器銃砲進歩の今日には戰爭の勝敗は開戰の際發動第一歩に在り余西比利亞鐵道論に論じて曰く我參謀本部及び陸軍省の考思を煩さゝるを得ざる所にて即ち僅少なる時間を以て軍事上商業上の運轉をなし迅速なる働をなすことゝなれば陸軍省は先つ西比利亞鐵道に於ける軍隊に就き其最も近きは何時間にして幾大隊を露國が送り來るべきか糧食は如何にすべきか等を明めてそれに對する兵策なかるべからざるなり然るに現今を以て之を考ふるに師團の所在地は廣島の如き大坂の如き名古屋の如き東京の如き仙臺の如き皆太平洋岸にあるものゝみにして唯一熊本のみ西部にあるのみ安ぞ知らん我敵の在る所は却て太平洋にあらずして日本海にあるを是れ余が我軍兵上の政略は常に多くは國防的にして進略的にあらずと云ふ所以にして我國にありては金澤新發田の二兵營の外日本海岸又他の兵營のあるなし若しされば敵て日本海に向て續けるものあるにあらず露國が西比利亞より突として來るや以て之に應するの備なく又我よりウラヂヲストックを突く

き用意なし我陸軍省は宜しく速かに金澤若しくは其他の日本海岸に師團を好配し軍略上の鐵道を布設し且つ露國の送兵送糧につき十分の準整をなし一朝事あらば之に對して全勝を期するの豫策なかるべからず而して是れ即ち平時勢戰上の最好政略也

即ち我國師團の配置上大陸に於ける我國々防及び連合上日本沿岸に一の師團を增設せざる可らざるは必須の事なりと考慮す次は北海道にして玆には一師團及はすとも一聯隊位の兵を北宗谷の近傍に置き且つ此地に砲臺を築くを要す某國公使曰く北海道の砲臺は何れの時に於て築成するやと余之を聞き只管赧然たり更に兵員數に及ばず況や此點に就ては第一章緒言に述べし如く西比利亞大陸漫遊後に非ざれば玆に斷言する能はずと雖も現今の常備兵にては足らざるなり又假令兵數を增加するも之を左右するの士官及び武器等に缺くるあらば其効なかるべし此れ大に注意を要すべき點なり殊に日本は東洋の大勢上より觀察すれば將來是非とも兵數を增加せざる可らず日本の兵員は四十萬を以て目途となし以て今日陸軍の制を設けられたるなり勿論此等の兵數は國防上要する處なれども斯く多數の兵員を

養ふことは到底我國費の許さゞる處なり。此を以て海軍を同く費用を要せずして兵士增加策を講ぜざる可らず。斯く言へば必ず義勇兵かと早推する人あるべしと雖も。余は其義勇兵たるの基礎を越ずと云ふに在るなり。彼の白耳義の義勇兵の如く。躰格性質に於て恰も彼國團々珍聞に掲げたる奇書の如き兵は。武器進歩せる今日の世界には少しも其用を爲す能はず。今日は兵の多數より寧ろ精兵を要するなり。義勇兵たるべき壯丁を養錬することそ。我邦の國策なれ。第一彼のナポレオン一世かオーストリーに敗れたるにあらずして。英の運動場に於の一戰に敗れて歸るや余はオーストリーに敗れたるにあらずして。實に英國義勇兵のこれあるは其運動場の養成宜しきを得たるによる。ラグビーフットボール、クリケットの遊戯か。幼童より年長者に至るまでの躰格を作り。次に規律を遵守する所のマイノットのデシプリインを養成するにあり。(教育の大本參照)故に英國の人民は何時之をも出すも想像を守るの性質と身躰の健康と所謂軍兵たるべき資格は常に之を備へたり。然るに我國は之に反して近來意躰格の下落するを見るは嘆すべからずやされば宜しく區洋の遊戯に則らずして。別に我國の少年より老壯の徒に至るまで一般に樂

むべき戸外運動を造りて。婦女子に至るまで其愉快を感せしめざる可らず。婦女の遊戯を見るとは古代希臘のオリンピヤ遊戯の如き英國今日の遊戯の如き皆然らざるなし。斯くて我遊戯を各地に盛にし或る團躰と他の團躰と競爭せしめ。終には廣めて九州と中國或は四國等より其精英なるものを撰接して競爭せしめ。更に關東關西の大競爭にも及ばしむるに至らば。其奬勵の方法によりて。躰格と規律を守るの性質とを自ら養成せしむるを得へし。既に斯くまで成就せる以上は第二は今日の文明の最銳軍器を使用するの方を知らしめざる可らず。之を實行するには英國の如く各縣に射的場を設けて砲術を練習せしむへし。現に余がケムブリッヂに在るの際ケムブリッヂ大學射的場にて度々射的を試みたることあり。斯くの如くすれば自ら兵となるの要素を養成し。後て躰格も充分に備はり。武器の如きも容易に運用するを得るに至るべし。而して全國に此の如き壯丁を養成し。以て全國皆兵の實を擧げ。一朝事あるの日には常備兵は勿論此の兵隊を以て攻戰。關伐防禦の用に供しなば陸軍の大礎此に定まり國家始めて金城鉄壁の實を空ふせざるべし。大凡兵事は必用上より起るものにして。彼のウヰルヘルト時代の時は歐洲强國を撃て英の對外策を確立する際なる

を以て多く金を費して兵士を養ふ能はさるを以て所謂民兵を增し奈破翁三世の時に於ては佛國に對する勢力を要するを以て義勇兵を組織し千八百七十八年露は海軍の勢力薄弱の爲め伯林會議に敗を取りしを以て始めて義勇艦隊を置きし如きは皆な必用上より起りしものなり我國に於て多額の金員を費さずして國に不相當の兵を增さんと欲せば先つ須からく戸外運動を盛んにし精兵銳卒たるべき原子を鍛錬修養せしめざるべからず何ぞ必ずしも獨佛の軍に摸擬して虛形のみを學ふへけん耶

第三　萬國公法——萬國公法上の日本——東洋の歐米に對する萬國公法上に於ける日本の責務——條約改正策

萬國公法とは何ぞや即文明國（シビライズド、ステーツ）が際上の關係及其の人民を取扱ふ行爲の是非を裁定する規則是れなり然りと雖萬國公法は立法者ありて制定せしものにおらず司法部ありて施行するものにあらず又法律の制裁に依りて強行し得るものにあらず故に萬國公法なるものは其の何れより成立せるものなるやを研究する是れ其必要の事なりとす。

由て其の如何なるものなるやを探究するに所謂萬國公法とは一朝外國の交渉あるに當り各國か會議を開きて議決せしもの又或る一二の國か規畫せし先例及しに出てさるもの是れなり故に或る一例か萬國公法となるとならさるとの境は唯各國か之を是認（レコグナイズ）するや否とに在るなり夫れ萬國公法の性質已に斯の如し予輩は是れより萬國公法上に於ける日本の位地は如何にやと云ふ問題を說かんと欲す是れ本論を草する所以の主眼なり。

予輩か所謂萬國公法上の日本國なるものは如何のものかと言はゝ第一新たに事項を作出して之を萬國公法中に加ふること第二萬國公法を改良すること及現に行れつゝある有害の公法を擊碎すること等の位地資格を有し居ることと是れなり已に前段に述へし如く萬國公法なるものは各國の是認を經たるものに相違なきも若夫れ一旦紛變あるに當りて之を修理に訴ふるの必要を感し又其の是認せらるへき事項を提出する時何等の位地にある邦國かと言はゝ即最强國に在らずして之か次等に位する邦國に在るあり。何故となれは强國は常に專恣多く條理よりも壓威壓を以て

事を處すること多きも小國は之に反して是非とも之を條理に訴て而是認を要す。故に強國或は英雄漢の如き者は萬國公法を作出すに非ずして萬國公法を粉碎蹂躙するものなるも小國若は小國の政治家及公法學者等は萬國公法を遵守するのみならず未た有らさる事項をも或場合に於て作出すものなり。今其の然る所以の實跡を詳知せんと欲せは萬國公法上の歷史を飜して探究するに如かず。因て一二其の例を擧くれは十六世紀の末阿蘭陀か西班牙に抗して簒められ且其の一方には歐洲大戰の爲大に窮迫し所謂弱肉强食の亂天地に在りて復た奈何ともする能はさるに際し一吼之を條理に訴へしものは彼のヒュゴーグロチアスにして即萬國公法を作出せる元祖なり。又彼の新舊兩宗敎の戰亂に際しても之を條理に訴へ萬國公法の俑を作りしものは蓋く新敎の弱國にして舊敎の大國にはあらさるなり。而假令少しにても萬國公法なるものゝ行はるゝに至りしは何れの時代なりしかを按するに彼の那破崙出て、龍驤虎騎疾風の勢を以て歐洲を席捲せしとき所謂現今の諸强國なるものは當時の弱國なりしを以て之か爲皆大に窘蹙し遂に條理を楯として抗せしときにして即千八百十五年「オートルロー」戰鬪の後歐洲中央諸國の協同政策成就したる時に在

るなり。

今我日本國の狀勢を察するに未た遽に萬國公法上の强國なりとは許すへからさるなり。去れは一朝露國にても英國にても佛國にても紛交ありしに際しては我日本は如何すへきか。予輩は兵力に訴ふるよりは之を條理に訴ふるを得策なりと信するなり。即是れ予輩か日本は萬國公法を作り出すの位地にありと唱說する所以なり。凡そ新立國なるものは萬國公法を改良增補する此の二點に於て最も力を有するものなり。何となれは是れまて萬國公法中に之あらさる箇條の多く出つるは新立國に在れはなり。彼の亞米利加大陸の發見せらるゝや既有の萬國公法に恰適せさる箇條續々出來り而西班牙は之か直接なる被響者なれは乃ちゼンチリス出て、新たに萬國公法の事項を增作し今に於て萬國公法の父と呼はるゝに至る。而現時と雖も亞米利加には萬國公法を研究するもの最多きを見る。畢竟是れ幾分か政躰上の關係なきにあらさるも何れにせよ萬國公法學者の多きは亞米利加を以て最とす。又伊太利の如きは古き國なるも今日の伊太利は新らしき國なり故に萬國公法の研究は頗盛にして往々新例を出すなり。我日本の如きは建國殆

と三千年固より新らしきにあらさるも萬國公法上の日本に至りては最新らしき國にして而南洋濠洲の如き北太平洋の如き孰れも未た其の成行き如何を知る能はさる境遇のものに圍繞されてある我日本のことなれは將來多く既存の萬國公法に恰當せさる事項のみ起り來るは瞭然として明白なり故に予輩は日本の位地は萬國公法の新例を作り新項を加ふるの位地を有すと謂ふなり。

余は已に我日本は萬國公法を改正すへき任務を有する國なり東洋に於て或る強國か公法正意を枉執する如き塲合あらは天に代りて匡正せさるへからさるの國なり。又新に公法を製作する位置に在る國なることを論じたり而して其原則を我邦は公法上に飽まても之を實行するの決心を要することを勿論なりとす若し彼の諸強國等が自ら其強を恃み東洋に於て恣まゝに跋扈跳梁し以て萬國公法を反古にせん擧動等あるに於ては我國は斷々乎として其非行を詰責して日本正義の國威を發揚すへき也例せは彼の英國が巨文島を占領せし如きは之を地理上に於ける利害得失より考ふるに我邦の不利を蒙ることを決して些少にあらさるのみならず之を萬國公法上に照らすに英國の所爲たる東洋の小弱國に對して不正の擧動をなせしものにして。

大に詰責すへき事件也然るに我國か之を不問に附せしは何れよりするも國威を損したるものにして此際我邦の執るへき政畧は朝鮮と英國の間に立ちて爲すへき一事なり朝鮮の獨立は萬國に對して我邦先つ之を助成したるなれは默して已む可らさるは當然にして怪むに足らず見よ支那の如きも此問題に容喙し遂に英國をして巨文島を捨てしむるの政略を取らしめたるにあらずや附錄第二參照看て我日本は東洋に於て未曾有の萬國公法を實行し大に我國の品位を高ふし國威を發揚せしとあり即ち副島伯が臺灣事件に際し全權大使として支那に行きしとき恰も歐羅巴諸國公使支那との間に調見の問題起りし時なりき何故に此問題起りしか先是支那の康熙帝は露西亞と約して曰く我清國の使節が露に到りしときは露の禮に從ふへきを以て貴國の使節我邦に來りし時亦我禮に從ふへしと故に其後露西亞其他の諸國より到りし使臣は清國の禮に從ひ階下より低頭平身して其國書を捧呈せざる可らず各國公使は大に此禮を嫌ひ國書を齎らしながら之を捧呈せず故に唯其の全權大使全權公使たると代理公使たるとを問はず赴任の前後を以て其の順次となせり時に副島伯全權大使として來り調見は萬國公法に則り大使の例を以てすへきを清政

府に通じ。且各國公使に告ぐるに全權大使に對する禮を盡すべきを以てせしに。各公使は之に答て曰く清政府にして之を承諾せば皆んとして之に從ふべしと。是に於て伯は清政府に向て此の談判を始め。若し調成せざるあらば日本の公使を露公使に托して歸國せんとまで嚴しく迫り。特に說くに彼れが最も尊崇せる聖賢の禮を以てせしかば。清政府は遂に之に抗する能はず。謁見を承諾するに至れり。副鳴伯は全權大使として特に各國公使の上席に坐して謁見を遂げ。後に各國公使は赴任の順次に依り謁見するを得たり。是れ實に歐米諸國に對して國威を發揮せしのみならず。亦東洋に於て萬國公法の行はれざるものをして實行せしめたるものなり。之に付き露國公使は本國政府に飛電して副島伯は牙を顯せりと報じ。英の公使も亦た万國公法が始めて支那に行はれしを報じ。米國公使の如きは其本國に飛報して。三百年間歐支の間に解けさりし問題今日始めて解くるを得たり。之より東洋の交際上に一新路を開けりと曰へり。斯の如く萬國公法にして實行せられざるの事あらば。我日本は此間に處して東洋の諸國に實行を催し。一方には巨文島事件の如き歐洲強國が專橫暴行を爲せしときは之を制止するの位置を確め。乃ち日本は正義を執つて動かざるべし。且公法は

前に述べしが如く。各國學者の說及ひ一時の實例が各國に承認されて行はるゝものなるが故に。我邦が正理正義に依て進行するときは。公法上に新たなる好箇條を作るを得べし。特に昨年哥老會事件にて支那人が歐洲人に暴行をなせし時に。歐洲諸國は之が罰金を請求せしのみならず。楊子江に船艦を自由に浮ぶると開港とを請求せり。抑も該損害要償は拂ふべきものなるに相違なしと雖も。其他貪婪不正の請求は日本之か間に能立して裁決し支那に向ては罰金を拂はしめ。歐米諸國に對しては他の不正要求を取消さしめ萬國公法上より大に之を論破調理すべし。此事に就ては東邦協會に於て詳述せしを以て之を附錄第二に參照すべし。

太平洋沿岸殊に亞細亞大陸に對しては。公法上我邦は常に此の位置を取るべき也。次には尼加剌瓦運河に就て萬國公法上に於ける我邦の位置にして。現今佛英兩國條約を結び。此地をば局外中立と定めしは公法上果して如何愈英國が此中立を維持し得べきか。東洋に利害得失を有するの國は此問題に就き萬國公法上凡ての會議に容喙するの權を有るなり。我日本は大に此の問題に注目し一朝若し好機會あらば乘じて以て踏臺となし。列國に對する我が位置を進興するの覺悟なかる可らず。次は海上に

於ける公法にして現今の公法は最も歐洲に行はれ延て米國に至りしものにして此海上に關する箇條は未た完からず殊に中立國の船舶を抑止すること及ひ船中の積載荷物に對する公法は甚だ不完全なり故に將來太平洋上に起るべき問題即ち此箇條は我日本正義に準據して以て之を創始し列國をして曾なる之に倣はしむべし其他英佛獨等の太平洋中に於ける諸島を占領すると否とは大に我邦の利害得失に關係せり彼の濠洲の航路或は尼加利瓦の航路に當れる島嶼を占領せんときは之に反對を唱へ以て自國の利益を占るにあり其他歐洲諸國が連合して小國の主權を侵害することあり請ふ之を論せん

予輩の曾て歐洲大陸を遊歷するやデンマルク ベルヂヤム スヰヂン グリース スパルカン半島等の小國或は新國を主として着眼巡視し以て精査の料となし而我日本を此等の諸小國と比較して萬國公法上より見るときは我日本は數等好位地に在るなり蓋歐洲の諸小國にありては殆と獨立の權なし獨立の權とは內治外交に論なく總て他國の干涉を受けずして自ら裁斷することにして即是れ獨立國の實なるも此の實權は歐洲唯た英佛濠獨露伊の六ケ國の掌中にありて此の六ケ國は實に之を握り居るなり今何故に此等の六國か主握する所となりしかを案するに中古羅馬法王の威權隆なるや諸國は悉く之に服從せしか其の勢炎漸く衰ふるに從ひ各國漸く乖形あり此の時彼のマキアヴエリーなる者出て、權謀を唱說せしより歐洲の形勢は崩然として支ふへからさりき是に於てグロチアス出て、天則に基き萬國公法を立て此の下に服從せしめしも其の後那破崙出て、此等萬國公法を微塵にして全歐を憎ませしより英澳露普の諸國千八百十四年シヤーモンに於て秘密條約を訂結し同年巴黎の條約に於て之を公けにし又ピアナの會議全歐の善後策を講せし等數次の會議即ち先着となり今日の如く此等六國か遂に其の權勢を主握するに至れり而以上に依て考ふるも此等各國は其の初自國を防衛せん爲斯く聯合議定せしものなるも今日に至りては一變して他の小國を制御率肘するの聯合幹となれり見よ千八百三十一年に蘭國より白耳義を割きて獨立國となせる又其の翌年希臘を獨立せしめたるベルヂヤムとスヰツルランドとの局外中立をなさせたる千八百七十八年の伯林會議に於て東歐羅巴の事を議決したる千八百七十六年バルガリヤとルウメリヤとを合併せる千八百七十六年土耳古の內政改良にまて干涉せるか如き其の例決して

鮮きにあらず斯の如く彼の協同政策は已に中央歐羅巴のみならず已に東歐羅巴に及ぼし又歐羅巴あらさる埃及に及ぼし遂に中央亞弗利加まてに及ほせり其の故は昨年英獨二國にて中央亞弗利加を處分したるを見るも證となすに足る唯亞米利加のみは之を避けつゝあるを以て現に其の政策を及ほさゝるなり

以上已に說く所の如し然らは我日本の建國する此の亞細亞洲は如何南洋は如何即ち彼の協同政策か亞細亞及南洋に對しては如何あるへきや請ふ之を主說せん南洋に於ける歐洲中央六ケ國の所謂協同政策は一昨年までは其の形跡を現はさゝりき即千八百八十年佛國かタヒテーヲハーの二島を掠略せし時の如きも英國かエリス島を占領せしときの如きも又獨逸かニウギニヤ島を占領せし時の如きも皆殆と無人島に入りて貨物を拾ふか如く各國各々其の意を恣まゝにせり去りながら濠洲と雖何時まて斯くあるへきにあらず漸々に相互に利害の關聯することゝなり最早一島地に手を下すものあるときは默視せず現に一昨年サモア事件に就て獨英米三國の會議を開きサモアをして復た口を開く能はさらしめたり是れ協同政策か南洋に其の形跡を見はせし端緒にして今後と雖益々其の勢を逞ふするや瞭々然たり

然らば北太平洋に於ては如何にと言ふに未た曾て此等政策の行はれしを見ず是れ東洋の爲め最大幸福にして欣賀せさるを得す然るに我日本政治家は誤て此等協同政策實施の勢を助成する如き方向を取りたり則ち曩に井上外務卿か條約談判を開くや外務省に於て各國公使の聯合會議を開きたり夫れ最惠國條款なるものは一國に許せし事柄は又他の一國にも許すへき筈なるも條約改正の談判に當りて各國公使の聯合會議を要すと云ふ故にあらず是を以て條約改正談判を開かんとならは國別に談判する固より至當の事とす然るに外務省に於て聯合會議を開ける如きは即彼の協同政策の實施を我より催促したるに異ならず當時予輩は英京龍動に在りしか會々某君に語りて現今日本に於ては條約改正に着手し居る筈なるも予輩の見る所は全く徒勞に過きず縱令條約面のみ欠點なく訂了し得るとするも決して其實を擧くる能はず故に條約改正を爲さんよりは寧歐洲聯合躰か將さに施さんとする協同政策の紛緒を一刀に快斷するこそ却て幾層の國利なるへしと云へり然るに其の後大隈伯條約改正に着手するや先つ第一着に彼の聯合躰を破り各國々別に談判を開きたり且し彼の大隈案も成就せさりしと雖各國を一の聯合躰として取らさり

しは我日本の爲將來東洋の政策上に大功ありしや疑ふへからさるなり。而其の後青木子か代りて外務大臣となるや各國公使を聯合躰として取りしにはあらさるも突然變して各居留地の各國商人の聯合躰となり而我條約案に反抗せり。予輩其の時も尚倫敦の客館に在りて之を聞き大に憂ふへき事なるを以て四方に斡旋し彼等の劍を以て彼等自らの腹を割かしむるの計策を建てたりき。(中略)東洋に於ける協同政策は斯の如し故に我當局者にして今後各國を一の聯合躰として取る如き拙策を愼まゝば彼の協同政策は日本近傍には施行さるゝの掛念あらさるなり是れ甚た欣賀すへき事とす。

然るに茲に崇歐の一政治家ありて彼の協同政策は將來の支那に於て施行さるゝの兆候あるを見る。果して其の日あり其の會議に列席するとせは我日本は此等聯合諸國の仲間入りをなしたりとせは我日本の大なる名譽にあらずやなとゝ得々として語るも這は東洋の大局及萬國公法上に於ける日本の位地を知らさる者の妄言に過きず。凡そ斯る時務を知らんと欲せは先つ東洋の大局に晒眼して詳にせさるへからさるは勿論幾多の小國か彼の協同政策の爲窘境に呻吟するの情態を察し而正義

に據りて之に照らさゝるへからず。今や我日本の位地は協同政策未施の東洋は勿論更に進んて西洋各國に行はれつゝある協同政策の弊害を一洗し彼の窘境に呻吟しある小弱國を扶けて獨立の國權を全ふせしむるを得るの位地を有するものなり。何となれは我日本は歐羅巴諸國の協同政策以外の境域に獨立する國にして此等の位地は彼の協同政策を打破粉碎するを得るの位地なり。今之を歷史上の事實に憑て證例せんに今の協同政策と其の名は異なるも其の實同樣の害をなせる神聖協同(ホーリーアライアンス)なるものを千八百十五年アレキサンダー一世の發起に依りて露澳普三國同盟をなせしか其の目的は初め革命的戰亂の餘波に備へん爲なりしも一變して專制的同盟となり同盟國は暫く措き關係なき他國にまて此の同盟を以て干渉を試みたり。即彼の伊太利に於て其の國民か自國の專制に抗せし時の如き澳國は露普二國の同意を得て兵を向け以て內亂に干渉せり。又西班牙の內亂の時の如きも兵隊を繰り込みて新制のコルッの憲法をさへ打破したり。又千八百廿二年伊太利ペロナに於て各國會議を開き更に西班牙を打付けて內治に深く干渉せんと試みたりしも英國は他國の內治に干渉すへからずとて遂に其の議席を退き且南米に於ける西班牙の屬地を獨立と

認めたり然れとも他の同盟國は此の獨立せし國を猶も西班牙に制服せしめんと企てしより米國當時の大統領モンロー氏は書を三國同盟に贈りて意思を明かにせり。其の書に曰く歐洲同盟に於ては合衆國の安寧を危殆ならしむる如く亞米利加大陸にまて同盟政策を施行さるゝに至りては我政府に於ても無關係の位地に默居する能はずと。此の書一たひ同盟國に達するや彼の同盟は片々に破碎せり此の時彼の英國の宰相カンニング氏は喜んて亞米利加は歐洲國勢の權衡を平均ならしむる國となれり云々と贊辭を放ちたり。又千八百五十六年の巴黎會議と千八百七十六年の伯林會議に於て土耳古帝の特許を得るにあらされは何れの軍艦もダーデネルスの海峽を通過する能はずと決議せしか米國軍艦茲を通過せんとて詰問を受けし時米國軍艦々長は答てそは歐洲諸國のみの議決にして我等米國の關かり知る所にあらずとて遂に通過せり。見るへし今日の同盟政策なるものは其の境域外に特立するの國にありては之に從ふを要せさるのみならず自由に之を破碎するを得るものなるを。我金剛比敵の兩艦の如きも土帝の許可云々に關せず石炭を焚き何に知らぬ顏して通過するを得へく又斯く通過するは後日に於て最も得策なりしなり。

夫れ協同政策なるものは其の成立せしより未た年時を多く經ず一定の先例習慣とてもなく且其の會議に列するものは果して彼の六國に限れるか或は限らさるか是れ亦不分明なるのみならず如何なる場合に其の會議を開設することとなるか是れ亦一定の規律あるにあらず而此の政策は六國相互の間に於て行ふを得ず彼の獨佛兩國の始末の如き澳國二國の始末の如き皆議決の容喙を待たすして自國一箇にて裁斷せり又此の政策は其の小國に對する一方の大國か同盟中の國なるときは之を施行する能はさるなり彼のポーランドの露國に抗せしときの如きナポレオン三世は彼の協議を以て處置せんと主張したりしも却て容れられさりき斯の如く協同政策は不定則にして且薄弱なるものなれは他の局外より一喙を觸るゝ時は片碎粉揉する敢て容易の事なりとす。茲に我金剛比敵の軍艦か無斷にダーデネルス海峽と通過して土國より砲發したりとせんか事此に至れは啻に土國と我邦との問題にあらずして最に伯林會議に議決したる各國間の問題となるへし。然るときは各國の意見皆必す一途に出ることなく或は日本の所爲を至當なりと言ひ或は土國の所爲を至當なりと認め皆區々にして容易に纏まるへきにあらず。故に日本にして此の時六國中

一の加擔者を得は此等協同政策を充分に削減し破碎し遂に歐洲有識の政治家をして日本國は歐洲の國勢の權衡を平均するの國なりと言はしむる敢て難きにあらず。夫れ斯の如くならは我國の位地を高貴ならしむることと果して如何ぞや。

近來米國人の所業を見るに萬國公法上實に不都合の所業あるを見る。彼が支那人に對し惡感情を抱き遂に支那人放逐の計策を廻らしたることは既に人の知る處なるが若し此の如く我日本人を放逐する場合あり又日本人排斥の議案を提出する如きあらば我國は彼をして萬國公法を實行さしむるの覺悟なかる可らず。若し彼れ日本人排斥の議案を通過せしめば日本は直に公使館を引き揚け而して同時に交際國たるの親を絕ち我國に在留する米人に對しては惡く治外法權を解き我國民同樣の取扱をなし若し我か處置に從はざるときは惡く之を其本國に追放するの策を取らは治外法權破滅の階梯ともなるべし。此の時に當り彼れ尙ほ我に不正を加ふることあらば清と連合して其に商戰を開き猶ほ進んで連合軍を發し太平洋中に砲聲を轟かすこともあるへし。然るとき米國の西岸には要害の守備なく太平洋軍艦は僅か老朽不可用の五艘に過きさるを以て其勝敗知るへき也。

万國公法上の正面より見るときは稅權及び法權は各互に其主權國に於て握有すへきは正當のことにして是れ万國公法の許す所なり。然るに此大權を他國に左右せらるゝ如きは万國公法に對し慚愧至極の事にあらずや。今や我邦は此問題に付き大に利害得失を感じ條約改正をなさんとせり是れ獨り我邦の爲のみならず公法上に對し東洋諸國に於ける治外法權を破却して万國公法上の實を擧けさるへからさるは我國の任務なれは我邦は宜しく卒先して之を打破せさる可らず。而して單に自國利益上より說くときは論據薄弱の嫌なきにあらさるを以て公法の公法たる實を擧る點よりして談判するは固より論を須たず。今や最惠國條款は二に分れ一は法權にして他は稅權なり之を回復せんには孰れを先にするも可なるへしと雖も其の難きものを先にするを得策とす。而して法權は余が在英中彼國外務省の責任者と熟話せし際彼は余に向つて曰へり治外法權は多くの金と手數を要するを以て本國に於ては却て之に困めり故に若し日本にして能く之をなさば何時と雖も法權は撤すへしと。然れとも稅權は極めて其國の利害得失上に關するが故に能く之を處せされは回復する能はさるへし。若し稅權にして回復する能はされは遂に是れ條約改正の實を擧

くる能はざるものなり。何となれば十九世紀今日の商戰は稅權を以て軍品となし商業上の戰爭を挑むを以て稅權にして回復せざるときは勝を制するの見込なきなり。

私かに按ずるに我邦條約改正を成就するに三法あり。

第一は長日月に渉りて之を爲す事にして。今日一躍歐米諸國と對等の位置を取らんとする所あらざるを以て先づ階を躋み漸々に對等の地位に至るにあり。其手段は先づ歐米諸國と對等條約を結びし諸國とは我邦も亦た治外法權の約を結べるの國には我も亦た治外法權の約を結ふべし。試みに之か所以を述れは彼の土耳古の如きは歐米諸國と治外法權の條約をなせる國なるに我若し此土耳古と對等の條約を結はゝ東洋の爲に公法上の氣燄を吐き得さるのみならず我國の品位すら大に下落退歩せる姿なれは是れ得策にあらず。而して土耳古の如きは。我日本と條約することを希望し居れり。斯の如にして小國を一段階とし。次に治外法權の國を一段階として。漸々に對等に至に在り。余がパルカン半島を漫遊し政治家と手を執り國事を談せしも其主眼とする所は實に茲に在りき。我國はパルカン半島の諸國と條約を結ひ公使館を置き以て東方問

題の起源を探り遷移を察し其波動に應して之に處するの策を準備するを要す希臘に至るや此國は歐洲諸國と對等條約を締結せる國なるが。彼の宰相トルクピー外務卿ドラグミース等と屢相會せしとき。余は我日本が對等の條約締結を申込まば貴國は之に應ずべきや否やを問ひしに。彼等は日本にして其民の保護を全ふせば何時なりとも雀躍して應ずべしと云へり。斯の如くにして歐洲小國が其大陸の諸強國と對等の條約を結ひ。其治外法權を約するものとは我邦も亦治外法權の約を結び。不知不識の間に段階を昇り遂に諸大國と對等條約を結ぶは條約改正の一策なりと雖も。這は多くの年月を要し且つ緩手段たるを免れず。

第二の策に至りては彼の歐洲諸國をして。利害得失上彼より條約改正を爲さしむるの手段なり。オックスフォルド大學理財教授ローソヤース氏は曾て日本條約改正の手段を余に語り曰く

今や日本人は國權蔑視云々を楯として我英國に條約改正を申込るも余の考ふる所に由れは甚た拙策たるのみ。日本人にして條約を改正せんとならば實際問題より して持込まざる可らず。即ち英國多數人民を動すに足る實證を持ち來りて說破せ

さる可らず實際問題とは何ぞ即ち少數の英國居留人民は特權を得つゝあるも條約を改正するにあらざれば日本人の感情を悪しくし且東洋に於ける全英人民商業上衰退を來たして大なる損失あるべし等のことを云ふなり多數人民動き初めて英政府動く

嗟呼是れ頗る英國人民當時の實情を穿ち得し切評にして今日にありて條約改正を成就せんと欲せば是非とも此點より働き入らざるへからず然るに日本に於ては猶ほ國權云々裁判權云々を以て而して楯據となし天晴れ條約改正を成就せんと欲す。英人此に由て豈動くものならんや又本篇第一章に述べし如く十九世紀の大勢は國利上の問題に非されば外交問題とはならざるべしと今日我特別輸出港を改正して特別輸出入となし日本人にして日本の船を用ゆるものは五港に限らず自由に出入を許すときは日本從來の貿易高には差異なきも五開港場に於ける貿易高は大に減少し從て五港の居留地に住する外國人は非常の損耗を招くに至るべし此に於てか彼より進んで必ず五港以外なる特別輸出入港をも開港せんと云ふに至ること明なり先に述べし如く凡そ港を開かんとせば先つ其の報酬なかる可らず若し我より

彼に不正の事ありて彼の不利益をなせし如きことあらば其報として我より無報酬に港を開くこともあるべしと雖も我より彼れに一點暴行なきも無報酬に開港する理由あるなし是の時に當り其報酬として我より稅權を返さんことを請求しなば彼れ一議にも及ばずして之に應ずへき也今之か適例を擧くれば彼の副島伯爵が外務の衝路に當りて國別政略を執りし際明治六年に伊太利より我國に於ける內地の旅行を自由ならしめば領事裁判の管轄外は我國の裁判に服從すべしとの趣旨を申込みしを以て歐米諸洲の外交官は大に驚き當時亞米利加の國務大臣は英獨佛は之に贊同し遂に伊太利をして此申込を取消しめたり而して伊國は何故に斯る事を申込みしか仔細に探究するに即ち國利的（ナショナル・インテレスト）の觀念其基となり居るなり當時我國の靈種を彼地に輸出せしに頗る好評を得て大に利を博したりしに由り彼の伊國商人等は居留地の小區域に居り仲買人の手を經て買占むるを利益薄しとなし深く內地に入て自ら買占め而して巨利を博するを得ば區々たる治外法權何にかせんとの實利主義（インテレスト）より此に及ひしなり。

第三策は先つ世界の大勢を諒め然る後條約改正を爲すに在り。例へは昨年冬歐洲大陸に於て各國稅權條約の年限切れ更に其談判を爲したりき。是時に當りて各國互に言を張りて其國利を維持せり。希臘の如き小國と雖も其の時機を失せんことを恐れて自國の稅權に就き速に談判を開きたり。然るに日本政治家の如き彼の日刊のタイムスをも一讀せしことと無く、歐洲大勢の何たるを知らざるが如きに至りては此等の時機を逸察して外交上の靈腕を揮ふ如きは到底なし能ふ所にあらず。今我外交家の大勢を知らずして條約改正談判上に失敗を取りし實例を擧けんに、一昨年英米の商戰其端緒を開くや、米は英國が今日掌握する全世界商工業の中心點を自國に取り、而して英の商工業を壓倒せん爲め保護貿易の方針を取りマックンレー海關稅則を議決して二割乃至三割以上の海關稅を課せり。是に於て英は全世界覇王の實權は全く米に歸し東洋の一方に於て露に破らるゝが如き小事のみにあらずして英國全躰の安危に關する一大事なるを以て英は必死の勢となり加奈陀、ニューヂーランド、ニューサウスウヱールス及び濠洲等を連合躰とし以て米に抗せり。米は此の稅則を出さば英を始とし歐洲各國とは爾來商賣を絶つの覺悟を以て、遂に南米と連合せり。此際に於て最も其利害得失を感せしは英國にして龍動の商法會議所に於ては秘密會議を開らき、マンチエスター、リバープール、グラスゴー、ブリストル、ハル、ダンデー、ベルフアスト、ヨーク、ランカシヤー州にはマ

るに其重勢（パワー・オブ・バランス）相均しく重心少しく一方に傾けは一方は遂に敵覆し忽ち或る一方の勝に歸すべく實に精密の期に迫れり故に此際に當り日本にして米に與みせんか英國は大敗なり日本にして英國に與みんか英國は大勝なり熟ら〳〵現今の機運を察するに日本は將に米國に與みせんとするの勢なり故に今に於て日本を我英國に與さしめんと欲せば日本の歡心を米國より奪はさるへからす如何にして日本の歡心を買ひ得へきかと言はゝ條約改正より好きはなし何となれば日本全國の民心は只管ら條約改正の中心に向て傾き居るなり而して我英國は毎に之に反對しぬ惟ふ是れ日本の歡心を得る上に就て得策にあらず區々たる千八百未滿の居留地民の利を保護して英國の大利を棄つるは國家經濟を知るものにあらず故に日本の歡心を求めんとの商戰に打勝たんと欲せは少數なる居留日本をして英國に與さしめ天晴れ米國との英民の利を犧牲に供し全英國の大計を成就せざる可らず故に日本より申込むを待たずして我より進んで改正談判を成就せしめ以て歡心を迎ふるの良策に若かずと遂に總理大臣兼外務大臣サリスベリー侯に建白書を呈せり外務卿之に答て曰く深く此意見書に對しては考ふる所あるべしと英國の如き立憲政躰國の政治家にして

深く考ふる所ありと明言せしは即ち之を採用す可しとの言と見て可なり英國外務卿は自筆を以て斯く〳〵の件にて條約改正を爲す如何と申込めり蓋しサリスベリー侯は彼の商法會議所の建白書を受取りたる時は既に條約改正を爲すの決心ありしも唯其居留地人民の利益を犧牲にするの度合を輕減するの策を考慮せるにあり然るに日本の政治家は思へらく彼の如く是迄屢々條約改正に反對せる英は必ず我れに連合せよと申込むへきなとゝ疑惑して此が返答に苦みたり於是ロード・サリスベリー侯は今年の初夏リバプール商法會議所質議に對して曰く

千八百九十年の夏英國政府より提出したる條件に對し日本政府は何等の回答もあさず又日本政府は何時同問題を再ひ講究するや不明也談談評は暫時中止すと又米國よりは左の如く申し來れりと云ふ

條約問題は舊條約のまゝにて放任し置くか若た又改正せんと欲するか若し改正せんとならは我米國は十分に助力すへしと。

斯くの如く大勢上より迫られて、幸にも英米二國より條約改正を申込みたりしに、日本の政治家の不明なる自から世界の大勢を看破するの見識なくして、是れ必ず他に意思の存するならんと疑心生暗鬼的の弱膽より遂に大機會を失したるは豈に千歳の恨とする所ならずや。我國人の常套として余輩少しく東洋及び世界の大勢を說くときは、之を目して空論なり實際行はる可き議論に非ずと言ふものあれども此れ必竟世界の大勢は如何程我國利に關係を及ぼすものなるやを知らざる議論にして我小刀細工政治家の常套語なり。蓋し彼等は律文の末に區々として萬里の外を看破するの見識なければ也。即ち世界の大勢に注目し玆に離乎たる見識を下す程の思慮なきを證するに外ならず。凡そ外交の事は其當局者人物の如何に因りて隆替す。譬へは露國か東洋に事あるに際しては其艦隊及び公使館に第一の人物を置きて諸事を理するか如く最も人傑を擇はさるへからず。而して能く人を擇ひて之に任せんとせは隨て多くの費を給せさるを得ず。即現今外交官の二倍以上を給して十分に運動せしむるを以て利とす。是を以て之を見れは世界の大勢及び東洋の大勢を說く人を誹謗するは却て己れの恥辱を洒ぐに異ならず。余は更に世界の大勢を見て外交上の一時

問題なる條約改正を日本の爲め東洋の爲め萬國公法に則りて決斷すへきを主張して已まさるもの也。

然りと雖も万國公法は確然たる制裁力あるにあらされは徹頭徹尾之に依りて條約改正を遂けんこと固より易きにあらず。又世界大勢上の好期は實に空漠のものにして再ひ來るは今後幾年の間にある可やを待つ能はず。故に最後の手段として我の把るへきは今日の條約を破棄して無効と宣告するにあり。蓋し舊條約の年限は夙に終りたれはなり。而して彼れ若し新に條約を結ばんと請はゝ此時我は對等の條約をなすべし。彼れ破棄の件に就き喧然として異議を容るゝいわらは我は則ち毅然として強硬の策を把り猶ほも已むなくんは兵力に訴ふるの決心を要す。故に我國今日の準備は對外的敵愾の膽魂を錬り兵力を鍛養し、剛然毅然として國家の神髓を鞏固にするに在る也。

第九章　結論

東方漸く白み太平洋面の時期は將さに曉けなんとす。起よ同胞今日東洋の爲め大日本の爲め堅確不抜の對外的國策を立つるは則ち第二十世紀界の大運命を制せんと

する所以也。

夫れ對外の權威は實と勢との二者より成る。故に實擧らざれば勢振はず。勢振はざれは實活動せず。即ち商工業は對外策の實にして政治は對外策の勢也。對外政治策なければ對外商工業策擧らず。對外商工業策振はざれは對外政治策亦振ふ能はず。是を以て我國東方に覇を稱して權威を宇内に示さんと願はゝ勢實共に採て政治商工の三大對外策の大本を建つるを要す。

已にして大本立つと雖も國策なるもののあらさるに於ては大本決して確立す可らず。故に余は毎對外策に必す國策を付論せり。斯くの如くして國策上の緩急を審考し着々大本の實勢を培植して以て今日覇たる力を備ふるときは他日我國は世界活動力（インターナショナルエナージー）の中心點となり。又世界的得失利害（インターナショナルイントレスト）の中心點となる。此二箇の中心點の緒絲を自國の掌中に握り率ゐ也。是を以て國家益ゝ富みて兵氣益ゝ強く我日本國は漠々たる乾坤に於ける世界的燈明臺となりて太陽光を東洋に放ち。遂て世界の道徳文學美術理學發明等の太實府たることを得ん。嗚呼然らは日本今日の境遇程希望の接近せる時代は宇内古今未曾有と謂はさるへからず。然るに此大有爲の國に居り大有望の時期に生れなから敢て自ら進取を屑とせず。嗚々暗々眼光蠅よりも小にして而も鼻頭に横はり來る東洋の大勢を察するに識なく徒らに彫蟲的政略を事とし空しく蝸牛角上の小爭を試む若し夫れ今にして睡眼一拭相警めて用意するにあらずんば。水潮き風生する一大破機に際會して倒戈倉皇ずとも復た何の益あらん。

蓋し我國今日の時代は禍福の相分るゝ境界也。死生の相觝るゝ時間也。而して已に眼前に切迫せり。余は切に望む。此際我國國民たるもの世界及東洋の大勢に直應して對外的經策の大本を磐石の上に建て之に至るの國策を實施し第二十世紀全世界に於ける凡百の政治家を觀客となし太平洋なる舞臺の上に一躍東洋の覇權を攫了する一大演劇を試みて以て驚くへき神技を示さんとを亦是快愉にあらすや。

東方策結論草案上　終

附錄

第一　柯太千島の東洋の大勢に於ける位置（一月十七日於東邦協會演說）

余曩既往の事實を穿鑿するは將來事變の起るに際し、瞻望逡巡するをなさず談笑の間に裁理せんと欲するに在り、特に柯太及ひ千島の問題の如きは直に之を適用し得るの事にもあれは最も深く之を研究し置かさる可からず、故に余は先つ千島及ひ柯太の地理、及ひ千島と柯太とを交換せし來歷より述へて、終に之が利害得失に論及せんと欲す。

夫れ此來歷を審かに講明するは後日東洋の外交上に一大參考を與ふるの事業なり。之に關し余は種々の書類に就きて講究せしが、其中最も余に利益を與へしは、村太交換事件に際し、其身露西亞に赴き、親しく談判をなしたる松平石見守に面晤して談酬したる事實、幷に副島伯が外務に在るの間、自ら執れる外交政略に就き質問したる伯の答話なり、其他に至りて大抵は書類も殘存せるか故に、一々之を擧くるを得、余は是等に由りて以て今日余の意見を述ふるの場合に至りたり、尚は一言す可きものあり。

本題たる頗る歴史上の問題に渉るか故に。隨て今日現存せる人々を引合人として出さいるを得す。然れとも余は決して其人を攻撃するの目的あるにあらす。又誹毀の意思あるにあらす。畢竟日本將來の東洋政略上。斯かる問題は如何せは可ならんかを決定せんと欲する一點の精神に外ならすして我國に於ては外交上の書類極めて乏きのみならす。當時に關係ありし人々の言も亦時として或は誤謬なきを必せす。故に其事蹟を擧述するは正を天下に得んと欲してなり。若し其れ反對の事實あらは。識者惜む勿れ。

我國が柯太と千島とを交換したる來歴に就き今將に述へんとする所は松平石見守今の松井子爵か此談判の爲め曾て露京に赴きたる直話なりとなす。余は先日子爵を其邸に訪ふて子の言に云く柯太交換前の問題は。北緯五十度の處に於て柯太を露西亞と日本の兩國に分たんと云ふが第一着の談判なりきと。余は乃ち何故に幕府は五十度と云ふを國境の目途には著けたるものなるや。之を著くるには何の事實何の憑據ありて而して然りしやと。質せしに子は之に答へて別に憑據ありしにには非す。

然るに同日副島伯を訪ひ座上偶ま。柯太全躰を一週せし人に會し前事を擧けて之を叩けば。五十度の處に於て人種其他皆其別を示せりといふ。而して之を五十度の處に於て劃定せんと先つ言出せしは幕府なり。幕府より先つ露西亞に言出したるは確實なりとす。其の故如何といふに初め露船の伊豆下田に入るや。一の世界地圖を幕府に獻上したり。其意蓋し日本には珍らしからんといふに在り。幕府會〻之れを披きしに柯太島の五十度の處に於て著色を異にし。五十度以北は青を用ゐ。五十度以南は日本本島と同色なるを見出せり。是に於て幕府は始めて考ふる所あり。此島は是れ果して日本の地に違ひあらさるを。已に是れ違ひあらされは今後我日本の北境は。北緯五十度に於て定むること。と適當なる可しと。幕府の五十度を境界に定めんと欲せしは則ち此に基きしなり。

其後嘉永六年七月に至り露西亞の使節プーチャチンは長崎に來り。柯太交換の談判を始めたり。是に於て我國より談判委員として長崎奉行筒井肥前守。川路左衞門尉二人を出し商議する所ありしが。我よりは何處までも五十度を以て日露の境界とす可きを主張して談判終に整はす。後ち箱館奉行村垣淡路守か幕府に建言し。今の如く柯太

を擧て抛却し置くときは終に之を失ふに至る可きを痛論したる中に。筒井肥前守川路左衞門尉が長崎に於て露西亞の使節に談判したる時。五十度を以て境界となさんと主張せしは。畢竟當時に於て北境の事閙昧に屬するの際。會〻世界の地圖上に五十度を以て著色を異にするものあるを見たりしに由れりとの意あり。然れは則ち此地圖は乃ち五十度を以て境界となせんと欲するの起元たるを證す可きなりと。

フーチャチンの來りし翌年。下田條約を結ふの際。日本は實に一著を誤りたりしなり。其故如何と尋ぬるに。下田條約第二條に。今の擇捉と此より先きの他の島に於て千島を二分することを約せしが。柯太境界の事は議論協はさりしを以て。從前の如く雜居のまゝになし置くことを定めたり。

其後ち露西亞の使節ムラビョウ江戸に來り幕府よりは若年寄遠藤但馬守酒井右京亮を談判委員とし。江戸に於て復た又柯太境界談判を開きしが。此時も幕府は依然五十度說を主張して談判も亦終に整はす。其間た諸國との條約成を告け。此に國交の端開くるに會ひしかは。此端は其後に於て柯太談判を今ま一度開く可きの機會を日本に與へたり。其機會は即ち修交の使節を我より送るに由りて來りたり。初め萬延年間

亞米利加へは修好使節を送りしも同時に之を歐羅巴に送らす是を以て國交を厚くするか爲めなりといふを名とし。一には大阪江戸新潟及ひ西海岸の一港開港延期の談判の爲め特使を發するの要を生したり。抑此四港開港の事たる下田條約に明記する所ろ。其期限早く明年といふに逼りたり。是を文久元年となす。然るに當時は士人皆長刀を帶し。盛に攘夷の說を唱へ。動もすれは西洋人を斬殺せんとするの際なれは。今後た此四港を開かん歟。事變測る可からすと幕府は思惟し爾後開港五年の延期を掛合はんと云ふが一ケ條。猶ほ其一は當時日本は世界の通慣に逆ひて銀貨の方却て金貨より其割合高かりしか爲め。西洋諸國との貿易上損失を來せしこと尠少ならす。是れを以て金位の基礎の建方を改正するの談判を兼ね。此次でを以て柯太交換の事を商定せしめんと欲し。帶はしむるに此三ケ條の談判委員を以てし。文久元年一月廿一日幕府は勘定奉行兼外國奉行竹内下野守を正使に。外國奉行兼神奈川奉行松平石見守(現今の松井子爵)御目附京極能登守を副使に任し。隨員三十七人と共に派遣の命を下したり。初め使節派遣の議あるや松平石見守は選中に在らす。當時江戸駐劄の各國公使は此議を聞きて皆之を不可として云く。現條約を變更して開港五ケ年の延期を

なすは本官等の同意し能はさる所なり。假令使節を本國へ送らるゝとも到底無用のみ。將た何にかせんと。中に英國公使アルコックあり。時の閣老安藤對馬守に謂て云く。此事實に其成を望む可からすと雖も若し萬一を僥倖せらるゝならは宜しく神奈川奉行松平石見守を差遣せらるへし。石見守は其器に當れりと。是に於て幕議頓に變し。石見守を擧けて副使となすに至りたり柯太談判の談は是れより將に與らんとす。

扨使節の一行は同年十二月廿二日江戸を發し。翌文久二年佛蘭西に到り。英吉利に到り。和蘭に到り。普魯西に到り。七月十四日露京セントピータースバーグに達し。第一に開港延期の事を談判せしに。是れより先き英吉利其他の各國に於ては皆之を承諾し。露西亞も容易く之に同意したり。是に於て貨幣の一件に及ひしに露國は拒んで之を容れす。而して是後に柯太境界の談判は乃ち開かれたり之に任せしは誰そ。日本の使節は即ち松平石見守にして。露國の委員は近時歐洲の外交家として名聲最も著しかりしセチヲル、イグナチーフなりき。石見守は先つ國命に由り。柯太境界の劃定を相議せんことを求めたるにイグナチーフは之を受けつけたにせず。柯太全島は固より露西亞の領地なり之に對して談判を開かんとは果して何の趣意なるぞと。是に於てか

松平石見守が外交の技術は則ち見はる。今ま其跡を尋ぬれは如何にして斯くまでにるほと巧妙にして幕府の當時に斯かる外交官あらんとは驚嘆に堪えさる所なり。松平石見守は其技術を見はしたるやを疑はしむるを見即ちイグナチーフに向ひ余は今日兩國の好を修めんか爲め使節として此に貴國に來りしが聞きしにも似ず貴國は甚た賤む可きの國に非すや。斯はかりの大國を有しなから我日本の如き小國の土地を蠶食するが如きは實に是れ義を重ずるを知らさるの國に非ずや。誠に是れ卑劣も亦極まれるの國と謂ふ可きあらずと。憚る所なく言ひ放ちたりイグナチーフ頭を掉て曰く否な決して然らさるなり。彼土は固より我露國の領地なり。露國奈何そ日本の土地を蠶食するをなさんや。石見守聽かすして曰く否々柯太は實に日本の領地なり。而るを貴國強て自國の有なりといふ。是れ蠶食に非ずして何そや。野卑なる哉卑劣なる哉と。頗る罵詈を極めたり。是に於てイグナチーフは憤然として激怒し。然れは柯太の五十度以南は日本の土地なりといふに就き如何の證據を有する歟。敢て問ふと。石見守之に應して曰く斯く曰貴國は果して何の證據かある。あらは則ち先つ之を擧けよ。曰くあり。柯太を始めて發見したるは則ち我

露西亞人となす。是れ則ち其證なり。曰く是れ何の言そ。若し今ま貴國の證據とせんか。我國には夙に間宮林三なる者あり。亦柯太全島を一週せり。然れは則ち其證據は正に五分五分の間に在り、斯くの如きものは以て眞確なる證據とするに足らすと。曰く然らは日本には何の證據ある歟。曰く有り。請ふ之を見よと。石見守は五六枚の地圖を出したり。其の地圖には英吉利語を以て記せしもあり、佛蘭西語を以て記せしもあり、和蘭語を以て記せしもあれは。獨逸語を以て記せしもあり。石見守之を指示して曰く。是等の各國の地圖五十度を以て日露兩國の境界となせること斯くの如し。是れ實に確證に非すや。イグナチーフ服せすして曰く。是れは此れ市場の賣品のみ。賣品は以て證據とするに足らず。我露西亞の地圖などには斯くの如きものある無し。曰く然らは今尚ほ一枚あり。之を貴覽に供す可しと。乃ち露西亞語を以て記したる一地圖を出せり。之を覽れは亦五十度を以て判然其色を別ちたり。イグナチーフは尚も笑て之を排斥して曰く。同しく是れ市場に利を射る者の作りし地圖なるのみ。奈何そ以て證とするに足らんや。若し之を以て證とせんと欲せは我政府に眞確なる地圖の在るあり。柯太全島は露西亞の領地たるを指示するに餘あり。曰く然らは請ふ其地圖を示せ。曰く

儲。明日必らす携へて再訪す可しと。是れに於て其日の談判は七分は我不利の觀を呈して了れり。

翌朝に至れはゼネラル、イグナチーフは乃ち一幅露西亞の地圖を携へて來れり。之を開けは柯太全島悉く青色なり。イグナチーフは乃ち曰く。請ふ之を覽よ。此地圖は即ち市場の射利的賣品に非すして眞正確實なる政府の地圖となす。即ち是れ彼島の我版圖たる可きの證據なり。如何と。是に於て石見守亦爭はす。感嘆の目を發して曰く。誠に立派なる大地圖なり。此地圖已に斯くの如くなれは亦如何ともす可からす。余復た之に對し抗辯する能はさる可し。去るにても貴國の周密誠に驚嘆に堪えさるなりと。イグナチーフは之を聞き頗る得色あり。是れ則ち石見守か外交上の一技術なりしなり。是時石見守は話頭を轉し從容イグナチーフに謂て曰く。開港延期の談判其他の事項を以て。余は英佛其他の條約國を通過し來りしか。到る處貴國には極て完全なる天文臺あるの風聞高し。現に英吉利にても貴國の天文臺に人を送りしと云ふ。佛蘭西にても亦然りと云ふ。其他歐羅巴の諸國より星學研究の爲め集れる者夥多なりといふ。知らす果して斯かる天文臺あるや否や。イグナチーフ直ちに應して曰く誠に然り。使

節の聞ける所の如し。此天文臺に於て考究し出せし所は毫も誤謬なく眞確にして據る可きものならさる無し。曰く然らは余は今ま君と共に同道して此の天文臺に登らんことを望むなり。曰く之に登りて何にかせんとする。曰く斯る大國に於ける斯る完備の天文臺と聞けは。是非に一覽し置きたしと思へはなり。今ま君の馬車繋して門前に待てり。請ふ之に同乘して以て之を覽んと頻りに之を求めたり。オクナチーフ頗る疑ふ所あり。強て其目的を問ふ。石見守乃ち謂て曰く。君は強て目的を問はるゝが。余にして其目的を語らは君は必らず余と同行す可きを諾する歟。然らは今ま之を語る可し。余は各國刊行の五十度境界圖を携へたるも。尚ほ之を貴國に證せんか爲め。余は此セントピータースバーグに達するや否や。先つ五十度を境界にせる貴國の地圖を買ひ。次に余が先つ訪ひたるは即ち今ま君に問ひし所の天文臺なりしなり。余の此天文臺に登るや先つ其地球儀を熟覽したり。此臺には實に三個の地球儀ありて何れも皆五十度を以て判然日露兩國の境界を劃するなり。抑此の天文臺は歐羅巴各國より留學生を送る所にして。君の稱して的確にして誤謬おく。眞正にして據る可しとする所なり。其天文臺の地球儀が實に一個のみならず。三個共に五十度を

境界と せるは果して如何。今ま君の携へ來りて示す所の地圖は僞物なり。昨夜中に製造せられしものなりと考ふなりと斷然として公言したり。是れ實に外交上の掛引にして。其妙を得たるの依備といふ可きなり。然るに之れを行ひて此に至らしむるまての石見守即ち松井子の用意は獨此處に見はれたるものゝみに止まらさるなり。是れ畢竟當時の士人は一たひ過たは腹を切らんとの覺悟ありて之を處するか故に。即ち滿腔の精神よりして爲したる所の事業なるか故に此に至りしものなる可し。即ち其國の地圖を買ひ。天文臺に行きしか如きも獨り露西亞のみならす。其使節として日本を發するの後ち。香港に著くや否や。先つ到りしは書林にして此に英語を以て記せし世界の地圖を買ひしなり。次に佛蘭西の里昂に於ても亦佛蘭西語を以て記せし地圖を買ひ。巴里に於ても亦一枚を贖ひしに何れも五十度を境界とせしものなりしと。其巴里に出つるや天文臺に登り。此にても地球儀上五十度の境界を認め。去て英吉利に渡り亦地圖を買ひ。夫の有名なる綠林威の天文臺を訪ひ。此にても其地球儀の矢張り五十度を境にしたるを確め得たりと。然れとも尚ほ以て不安心となし。和蘭に於て普魯西に於て同一の手段を以て之を調へ。而る後ちセントピータースバーグに著し。亦彼の

地圖を買ひ。彼の天文臺を訪ひ。此に始めて露西亞の外務省に照會を開きたりといふ。其手を盡せしこと實に至れりといふ可きなり。而して子の伎倆は此に止まらず人を殺して止めを刺すといふ處に及ひたり。乃ち五十度の眞確なる又イグナチーフ示せし地圖の僞作なる可きを公言せし上にて其僞作とせし地圖を余に賜へと求めたり。是ま於て流石のゼヲラル。イグナチーフも辭窮し理屈し且つ此地圖を日本使節に握られては一大失策を遺すを以て匆々畧みて懷裏に收め。容を改めて謂て曰く余は外交の衝に當りし以來未た使節の如き人と談判を試みたることあらず。其御用意。其御精神實に敬服に堪えざるなり。余は改めて之を我皇帝陛下に奏上し日本に對し特に松平石見守貴君に對し新に此談判を開くに至らんことの勞を致すべしと。始めて玆に五十度談判を承諾し。イグナチーフは直ちに奏上する所あり。露西亞皇帝陛下も亦深く敬服せられ。直ちにイグナチーフに命するに談判を開く可きを以てし玉ひたり。余は此に至り松井子か外交上の衝に巧みなりしを感せずんはあらさるなり。

斯くて露西亞は弱點を衝かれ劃界の談判を開くに至り。露西亞は亞細亞地方に關係

ある人物を集めて協議を盡せし上。五十度は山の頂上に當れは。是れより僅に南し。四十八度の處ならば。小山ありて且つ東と西とに河水の流るゝあり。此處を以て境界とせは後日永く境界上の煩論を絶つを得へし。是に同意を賜はらすや。と。是に於て石見守は即ち以爲へらく四十八度に於てするも尙ほ可なり。今にして之が境界を定めされば。他日に不測の禍を貽す可し。若し之に同意して讐責を彼らは腹を切て之に對へんのみと。然るに竹内下野守は執て之を可かすして曰く。余輩幕府より命を受けし時。五十度以南には一歩も讓る可からすと。而るを今ま之を私に讓るを得んや。石見守則ち之を爭ひ然れは已れ一人之に調印するは不可なかる可し。彼れよりも亦余一人にて調印するも可なりといへり。斯くの如くして若し讐責に遭はゝ余一人にして之を引受く可しとまでいへり。然れとも二人終に同意せず。是に於て大體に於て五十度を以て境界を劃定することゝなし。是を以て條約を交換し。其界線は條約書上に特記せす。雙法より委員立會ひの上山川の形狀に由りて之を定む可しとなし。彼我之に調印せしは文久二年八月十九日なりき。其條約書の寫は松井子今ま尙ほ之を藏すと語れり。

斯くて一行は同年十二月十一日歸朝せしに此間幕府の執政には大變革ありて松平春嶽總裁職となり諸侯は各其の藩地に下ると云ふか如き內治の在樣なりき是を以て柯太談判の事の如きは殆と談柄ともならず一行か歸りて春嶽侯に會せし時侯は一行に問ふに如何の爲めに歐羅巴へは使せしといふを以て曰く今や內地の狀況は此危殆に迫り諸侯は各封土に就くの最中なり此際獨り柯太の境界を慮るに遑あらんやとて終に委員を簡派して談判するの運びに到らず之に反して露西亞よりは委員を出して三年間待ち居しも日本の委員の到底來らざるを見怒りて此を去りしといふ後に至り小出大和守を露國に遣し今回は其境界を我より四十八度にて劃定するも宜しとの談判を試みしかとも露西亞は已に我國情を洞見して之を容れず其結局雜居の在樣にて幕府の世を終り其儘之を明治政府に遺したり副島伯か外務卿となるや當時尙ほ我は五十度境界論を棄てさるも露西亞は已に我領地なりと主張し其中に露西亞は駸々乎として南進し來り將來の事實に言ふ可からさるの有樣とはなれり是に於でか副島伯の柯太に對する外交政略は則ち

出てたり知らす目今の外交家中にも亦伯の如き大畧を有する者あるや否や

扨夫の雜居の結果は爭擾紛議續起して絕ゆることあらす是に於て露西亞より我國に向ひ善後策を商議せんことを申込めり是時會〻露西亞は合衆國に向ひベーリング海峽の北北亞米利加西端の領地を賣渡の擧あり副島伯則ち以爲らく柯太全島を買取りて以て純然たる我版圖となすに如かすと即ち之を買取るに要する金を擔ふと能ふ可きや否やを大隈伯に議らるれは大隈伯は斷然能ふと答ふ因て副島伯は露西亞政府に照會して曰く貴國の面積の廣大より觀れは柯太は彈丸黑子の地に過きす貴國何そ斯かる小島に意を勞することをなすや宜しく此全島を日本に買取らしめらるへしと伯か此照會を開くや一日佛蘭西公使は來りて伯に謂て曰く聞く所に據れは露西亞政府は將に貴國の請求を容れんとすと是れ深く貴國の爲めに賀する所なりと是に由りて之を觀れは其談判の成らんとするや日ありしなり抑此難局か斯く容易に成らんとするに至りしものは別に一大原因の存するあり此時伯の東洋政策其政策は外交秘密に屬すれは此に公言せす此時此政策は新に此露西亞との條約面に書き見はされんとし之に引合はしたる柯太談判なれは頑梗彼の如き露西亞も

亦之を承諾せんとするの運には至りしなり。然に一日今の自由黨の總理なる板垣伯は息を切て副島伯の許に到り。知るや否や。頃る某氏建議して。柯太全島を露西亞に致す可き旨を論じ。廟議之が爲に動き。今日既に其議に內決したり。復た奈何ともするなきなりと。副島伯之を聞きて深く嘆息して曰く露西亞の公使之を聞かされは善いがと。蓋し副島伯は尙ほ其間に爲さんと欲せし心算ありしならん。蓋し當時伯の知らざる間に廟議の此に及びしものは伯は專任の外務卿にもて參議に非さりしが故なり。居ること四五日にして露西亞公使は果して副島伯の許に至り。柯太買取の議は。外務卿閣下一人の議にして太政官にては之を我露西亞に讓るも不可なしと決定せしやに聞はり。驚くは閣下此問題を放拋し玉はんことを。此時伯は尙ほ執て聞かさりしかとも。如何せん。廟議斯くの如くなりしかは。伯の議も亦終に止みて行はれず。今日よりして之を回顧すれは實に遺憾に堪さるなり。而して夫の某氏の建議は到頭交換の端緒となり。柯太の太島は明治八年十一月十六日時の公使榎本武揚に由りてペトロパウロスクに於て千島と交換の條約に調印せられ終に永く之を失ふことゝはなれり。之を柯太に關するの歷史となす。

以上の歷史を顧るときは我國の失策は實に一再のみならさるなり。然れとも是れは事既往に屬し。今さ復た奈何ともす可きなし。然れは如今研究すへき問題は日本は東洋の上に立ちて此交換し得たる千島をは如何に利用し行く可き歟之に由りて幾何の事業を成さゝる可からさる歟と顧るに在り。是に就きては。第一に露西亞は如何の目的を以て柯太と千島とを交換せしもの歟を穿鑿して掛ちさる可からす。余か調べたる意見書あり。其書に云く。

柯太島は實に黑龍江の河口に橫はり。西比利亞の東岸に最も接近せる大島なれは。此島の大露國に屬すると否とは。我東洋策の上に至大の關係を有す。若し此島にして露國の版圖に屬せすんは。露國は既に西比利亞東岸の城塞を失ひたると一般なり。我西比利亞の東洋に於て將來に期する所の勢力も柯太島の露國の管轄を去ると共に消失すへきは勿論なり。

黑龍江口邊の最も強固なるは其の前岸に柯太島の存するを以てなり。若し柯太島にして他國の領に歸もたらんには。黑龍江口邊の防禦地は何の價値をも有せさるなり。故に我露國に於て西比利亞を以て無用の地となさゝらん限りは。此柯太島を我領に

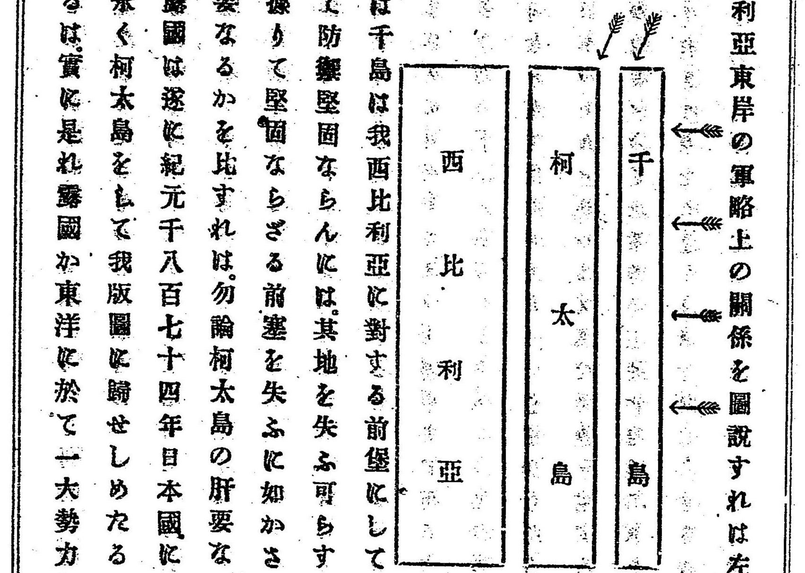
屬して東岸地方の地勢を強固ならしめさる可らす。

本島は固より日露何れの領に屬すへきものなるや判然せさる所少からすと雖も。此地は露國の爲めに最も必要にして日本國の爲めには別に海防上の必要なけれは必す十分の談判を遂けて其目的を達するを得へし。故に我露國は日本國と十分の協議を遂けは必す此島を我領に歸せしむへしと始めより信せしなり。

然るに日本國は別に海防上の必要ありて柯太島を領せんとするにあらすして。只領地なりと始めより信せし島嶼を他國の領に屬せしむるを好まさるに過きさりき。是れ我カムサツカに連續する千島群島(クリルスキイ)を日本國の領に歸せしめ柯太島と之を交換せし所以なり。

千島群島は縱令露國の領に屬するも。我國(露國)の爲めに益もなく害もおき無用の地なるに過きす左れと萬一にも柯太島が我領に屬せさりしならんには。此千島も亦我爲めには至大の効力を有するの島なりしや勿論なり。左れと柯太島が我領に屬する以上は是れ固より無用の領地なるに過きされは之を他國の領に屬せしめはとて更に惜む程の事もさるなり。又必要の時は之を取り回す容易なり。

柯太島と西比利亞東岸の軍略上の關係を圖說すれは左の如し。



斯の如くなれは千島は我西比利亞に對する前堡にして柯太島は其後塞なり。若し前堡の地にして防禦堅固ならんには。其地を失ふ可らすと雖も。若し然らずんば堅固なる後塞に據りて堅固ならざる前塞を失ふに如かさるなり。故に此二島の前後の再塞何れか肝要なるかを比すれは。勿論柯太島の肝要なるや言を俟たさるなり。是に於てか我露國は遂に紀元千八百七十四年日本國に對して千島と柯太島交換の條約を結び。永く柯太島をして我版圖に歸せしめたるものなり。同島をして我領に屬せしめたるは。實に是れ露國か東洋に於て一大勢力を增進せしものと云ふへ

し。蓋し小ありと雖も東洋に一の富源を得ると同時に。西比利亞東岸をも制して最も強固なる位置に立たしめたるものといふ可し。

則ち露西亞人の言ふ所は。柯太を取りしは。西比利亞の防禦の爲にして。殊に黒龍江口の守は柯太の他國に落つるを許さずといふに在り。再言すれば前堡か堅固ならざる時には西比利亞の安全を期す可からず。故に西比利亞の爲めに柯太は是非とも取り置くを必要とすれば柯太を千島と換取したる所の目的なりとす。

然らば日本は千島を柯太と換取せし以來之を如何なる位地に置き。之に如何なる事業を爲したるやは其次に研究すべきの問題となす。而て之に就きては亦太た遺憾とす可き事のみ多き。初め千島を換取するや擇捉以北の諸島にも土人多く住居せしなり。然るに前に柯太を露西亞に讓與す可しと建議したる某氏は復た說をなし。斯く究北の諸島にも日本の土人を置かば。又復た葛藤を生ずるの虞あれば寧ろ之を撤去するに如かずとの政策を執て此諸島の住民を內地に率き來り。夫の諸島をして無人島に歸せしめたり。余は實際此に赴き目擊したるに非さるか故に之を知らずと雖も。夫の政策一たび行はれて擇捉以北は今日に至るまで依然無人島の有樣にして。或は

かれサツカ接近の處には露西亞人の住居せる者ありと傳ふるなり。

斯く千島の歷史現狀を審にしたる上。近時に日本か擧きし所の外交談判を之に當嵌め見れば。極めて面白き事相を見出す可きなり。試に見よ日本は明治七年に臺灣を征討するに當り。副島伯は支那に至り。臺灣人は琉球の漂流民を殺害せしが。此臺灣は貴國の屬地なるや否やと問はれしに。支那政府は之に對し。臺灣は我王化の及はさる所なりと答へたり。由て伯は日本に歸り。支那は臺灣を以て化外の地なりといふ以上は已に支那の屬地に非す。宜しく遠征軍を出して之を征すべしと。是に於て臺灣の役は則ち興りたり。然るに支那は異議を起して曰く。前きに我の答へしは唯王化の及はさる所といひしのみ。之を屬地に非すといはす。臺灣は實に我屬地なりと主張したり。然らは臺灣に於て我國民を殺害したる損害は支那政府之を償はさる可からす。軍を出したる所の費用は支那政府之を拂はさる可からすと。遂に僅の償金を收めて歸るの結果とはなれり。

今若し支那は之と同一の手段を考へ。此我無人島の千島に當嵌めなは則ち如何。擇捉以北は無人島なり。此地には王化果して及へるや否や。若し其れ王化及はされは兵

を出して不可なしとはほ本の臺灣を伐ちたる理由なり。故に我も亦此日本の王化の及ばさる擇捉以北に遠征軍を出すといふを以て支那に主張せられなば。日本は實に之が答辨に苦む可きなり。

倘ほ又一の考ふ可きあり。此臺灣は王化の及ばさる所なるも。其國の屬地と云ふ手段を講め戰ひざりし故に日本より遠征して無名の軍ともならず。日本に償金を取るとをも得。王化の及ばさる地に於て害を被りし時には軍を出しても不可なきの道理を持すべき得たり。若し夫れ今日此議論を以て露西亞は我日本に突込み來りなば果して之れを如何せんとする。抑オコック海近傍に密獵船の來るや非常なり。之か爲め露西亞政府は軍艦を出して絶えず之を捕ふることに從事せり。今ま露政府は我に向ひ露國は絶えず軍艦を派して東海に密獵船を捕ふるも千島群島といふ隱匿所ありで。遂に之を禁過する能はず。貴國に於ては往年支那の王化及ばさるの臺灣に於て貴國の利を害せられたる時。軍を出して蠻民を征討せられたる例あり。之と同じく千島は貴國の王化及ばさる所なれば。露國より軍艦を出して爲めに此群島を保證せんとの談判に會ば。日本たるもの實に之か答辨に苦むこと非常ならんと思ふなり。

是正に日本が千島を睨にせるものは。外より突込まれたる時の防禦策十分に整はさるととを第一に證明せり。

次に日本が東洋に在りて事を爲さんとするに千島群島は如何なる位地なるやを考ふるときは群島の實に一日も忽にす可からさることを知る可きなり。そを如何といふに前已に擧けしか如く露西亞の參謀本部の議論は。前堡即ち千島にして防禦堅固とあらんには其地を失ふ可からすと雖も。若し然らすんは堅固なる後塞即ち柯太に據りて西比利亞を守るを得ついしと。斯かる條件を按して彼は千島と交換し居れり。然らは今ま我れ千島群島を强固にせん乎。此後堡を合して西比利亞の死命を制するを得べきなり。之に就き嘗て久しく日本に在りし露西亞人某一日余に語りて曰く。貴國は遲頃千島と交換せし柯太全島に就き動もすれは最初より所有せし者なりし者の如き感を抱くと雖も。是れ大に事實を誤れり。貴國は初め五十度以南を取らんと欲するの意なりしなり。而るを一旦千島と交換し露西亞は大不利益を被れり。其故如何となれは。日本にも千島守備を堅固ならしめん歟。露西亞の西比利亞は恰も囊中の鼠の如きなり。若し之を信せすは試に地圖を披け。日本海よりの出口は五個所あり。一は

朝鮮と九州の間の海峽とす。而して是は對馬に於て把握するを得るなり。二は下關と
し。三は津輕とす。是れは防禦を盛にすれば出てんとするも能はず。四は北海道と柯太
の間にして。五は單に夏季の間のみなるがニコライスクよりオコツク海へ出る千島
の航路とす。若し貴國が往日の如く柯太のみを取りて居し時ならば。日本と柯太の間
は絕住の權を有す可きも。オコツクより出るの一路を遮せしが。今や貴國は柯太を捨
て方に其衝に出るの千島を取りたれば。恰も小網を捨てゝ大網を張りたるに同しき
なり。此大網を張りたる以上は露西亞たるもの如今爲す可きの地なきなり。見る可し
千島柯太の交換は貴國却て利益を收めたりと。是等は頗る味ふへきの議論と謂ふ可
きなり。
今日此に臨席せられ。水路の事に就きては海內無比の肝付大佐の說を承はるに。夏季
に至れは千島は深霧の起るあり。且つ良港も亦在らされとも築港を經れは軍艦を入
るゝに足るの地ありとす。然れは好し霧は深くとも。此に立派なる軍港を築き。整
然として彼の外邊に備へ。オコツク以東に一步も露西亞を出さゝるの決心を取らは
余輩等る柯太より千島の我國に利あらんかを思考せり。去らは柯太を吝まぬとい

ふ歟。曰く否な。決して然らず。是れも亦露西亞の參謀本部の調ありて。其地は東洋に於
て戰爭あるの日重要の一局面なりと許せり。但た此地は斯くまでに見てあれとも。種
々の事情より軍略上に頗る不利益の點勘からず。そは第一に樺太全島に軍艦でも入
るべき一の良港無きこと即ち是れなり。次には氣候の酷烈にして食物の不十分なる
が爲め。大兵を置きて。五六ケ月乃至七八ケ月の間防禦するの地に非すとせること即
ち是れなり。又其次は道路險惡。且つ若し敵軍北緯五十九度邊に出つれは。島腰を扼し
て南と北とに兩斷せらるゝの虞あり。尙は其一缺點は現今柯太に屯する所の兵は處
々に散在して之を集合するに便ならさること即ち是なり。然れとも柯太の露西亞に
重要なる所は。韃靼海峽の間狹くして。冬季三ケ月餘は堅氷結ひ大雪積り人馬共に柯
太も大陸とに往來するを得ると。海峽の海底も淺く。此に水雷を伏せ。ボコウヒと稱す
る處に砲臺を築き。以てニコライスクを扞衞するを得るとに在り。飜て日本の方より
此島の位地を觀察するときは。此島を以て大陸に嚮ふの梯子ならんと思惟せり。今ま
此の柯太を千島との位置を露西亞に對し東洋政策に對する上より概論すれは。彼の
突出し來る所を嚴然遮斷す可きは千島なり。此點即ち太平洋の一方に對しては千島

却せ樺太よりも重要なり然れども我より進みて大陸を指さんとする時は柯太は實に我足纏にして此點より見る時は柯太は又千島よりも重要なるものと謂はざる可からず。

[illegible]

此處は日本人が一番の決心を要する所なり若し日本人にして全然無効に歸せしむるを得ざるときは場合に依りては他の柯太交換の目的をして之を成すは唯だ我千島を堅守するの決心如何に在るのみ若し其れ彼の所謂前堡の守を強固ならしめは後堡の柯太を合せて彼の死命を制し後の柯太交換の「若しも前堡が強くなかりしならば」と云ふ條件を打消して柯太の直をして半に墜落せしむ可し啻に半に墜落せしむるのみならず或は全く直なしに歸せしむ可きなり。

[illegible]

然るに斯の如き重要なる千島群島を日本人は如何に眺めつゝある歟前述せし如く其既に住居せし人民は撤去せしめ擇捉以北を擧げて無人島の境に委したるに非ずや余は強ち攻撃せんと欲して之を言ふに非ざるも斯くの如き重要の千島海に軍艦の常備せるもの亦これ無きに非ずや聞くか如くなれは今夏には軍艦派遣の事あ

りと是れ太た喜ふ可きも我海軍省たるものは尚ほ一層勉めさる可からず。獨り海軍省のみならず我日本國民なるもの最も大に勉めさる可からず。夫の千島探檢費の如きも何れの處が此に於ては之を消滅せしめたり。是れ果して誰の罪ぞ。則ち是れ日本國民の罪なり畢竟事の此に到る所以のものは日本國民が外に對するの觀念薄きに坐するなり。夫の千島群島は實に天の我國に與ふる所の好位地なり。然るに之を十分用ゆる能はさるのみならず其探究費すら出さずといふは國民の決心堅固ならさるを以てなり。嗚呼是れ果して誰の罪ぞ即ち四千萬國民の罪なり。

諸君之を遍鑑せよ。曩に松平石見守か露西亞より歸朝せしに際し當時の幕府をして內治き云ふ觀念より離れて外國に對する所の事は之を果行し置かさる可からすと感考せしめ此方より直に委員を出して柯太の境界を談判せしめなは四十九度五十度に於て國界を定むるを得たりしならん少くも四十八度以南は今日日本の有なりしや疑なし然るに幕府は諸侯就藩國內大擾。柯太を顧るの日に非すとして之を委棄せしの結果は遂に今日柯太失墜の原因とはなりしなり。目下の現狀は議員鄉に歸り亦內治に忙しきの時なり。此際余は深く諸侯就藩當時の覆轍を履まさらんことを

望むなり。

余は實に今日よりして幕末の政府に人なかりしを慨するなり若し夫れ今代の日本人にして鑑戒奮勵する徹りせば。次世の日本人の吾人を看ること吾人の幕末に於けるが其跡を一にす可し。

嗚呼東洋の大勢上千島は一日も忽にす可からず。今代の日本人にして之を忽にせば後世子孫に對し果して何の面目あるや。内治の爭に外國あるを忘れなば其結果は。十年十五年二十年三十五年の後に至りて果して如何と思惟するや必らずや復た余の如き者出つるありて今代に對し痛論するものあらん。日本人今日の狀態にては如何して北日本をして東洋の大勢上覇權を取るを得せしむ可きや。列國の權力平衡を維持することを得せしむ可きや。而るを人々の深く此に注意せさるは即ち此國を成せる日本國民に對外の思想なく。精神足らさるの致す所ならんと思ふなり。是れ余か天下後世の爲めに斯くの如き問題を提出して諸君に一言する所以なり。

備考

明治八年十一月十六日締結せられたる千島柯太交換條約に關する日露兩國委員の談判の概要を擧けて參看に資す

◎明治七年(千八百七十四年)八月廿九日露京聖彼得堡外務省中亞細亞局に於て第一回の談判を開く。彼我兩國の委員は左の如し

日本全權公使	榎本中將
露國亞細亞局長	スウレモーホフ
同　副長男爵	オスアンテーサン
同　筆記者	ウイルーツキー
日本書記官	市川文吉

◎同年九月廿二日疆界劃定に就き第二回の談判を開く、其大要は左の如し。

露國は望むラプルース海峽を以て界と爲すことを。

日本は望むヤマミヤ海峽を以て界と爲すことを。

日本(榎本)は望む柯太島上に於て天然的一疆界を建つることを。

露國は拒む島上に於て界を劃するは是れ即ち紛擾を釀すものにして其害は雜居よ

りも甚し。

榎本中將は該島に關する交渉の沿革より說きて曰く。初めフヨチャチン氏長崎に於て筒井肥前守と劃界一件の談判を始めし時に當りては。露國は未たラペルース海峽を以て界と爲すの定見あらさりき。次てムラビヨウ氏來り重ねて劃界談判を爲すに及ひて始めて專ら全島併呑の意見を執り。爾來今日に至るまて依然たり。之に反し日本に於ては肥前守はホロコタン五十度の處を以て界を建てんことを主張せしも談判協はす。次に小出大和守はクシュンナイ建界の談判を爲せりと雖も露西亞復た之を承諾せすと。

因て中將は日本の希望を陳へて曰く。之を要するに武揚は敢て前日(筒井。小出)の論を執拗する者に非すと雖も。亦唯た島上自然の山河地勢に就きて彼我兩國の界を劃せんことを望むなりと。即ち

露國は全島全領を以て談判の基礎となし。日本(榎本)は島上劃界を以て談判の基礎となせりと云々。

第二 巨文島の占領に對する日本の政策 (十月十七日於東邦協會演說)

余は謹み此に一言せさる可からさるものあり。外交上の歷史と現外交上の政治といふ事及ひ外交上の秘密といふ事の區別即ち是れなり。余は政談の嫌疑なく之を討究し得るや否や考ふ。即ち史談として之を討究するに於ては毫も其の恐れあらさるなり。何となれは目下の外交的政治の現狀に論及せすして數年前に在りたる巨文島の歷史を講するは決して政談には非されはなり。今日當時の事を處分したる人物現存し居るの故を以て之を政談とは言ふ可からす。目下の問題を議論するとは言ふ可からす。若し其れ之を以て政談なりとする時は舊幕の覺れたる事跡は當時の諸侯か現存する間は論す可からすと云ふの結果を來す可し。天下寧ろ此理あらんや。余の考を以てすれは哀し當時の事を處分したる人物現存するも事の已に結局に至りたるものは致毫も差支これ無きなりと。畢竟斯の如き問題を充分討究し置くときは其結果は他日斯くの如き問題か復たひ太平洋上に起りたらん時太に國民の決心幷に外交家の注意を取るの資料たるの利益あり。殊に東洋に於て今後一事件の起りし時。平素講究の事實に徵し前事已に斯くの如くなれは此問題も亦斯くせさる可からすと云ふ外交上東洋の牽先者たり指南車たる責任を始めて善く

盡すことを得へし。是れ余か本題を提出したる第一の理由なり。

次に外交上の秘密と秘密に非さるとの分界は何れの邊に於て定む可きやを究め置かさる可からす抑〻外交の秘密と云ふは例へは此に一の談判ありて其の談判は未だ決局に至らす。其間は即ち秘密なり。然れとも談判一たひ定まり。條約已に成る以上は是れ決して外交上の秘密と云ふものに非す。外例を採らんか。亞米利加に於ける國務卿か毎年の報告書を見よ。其年内に於て談判の定まりたる事件は公使の往復書より談判の筆記に至るまて。一々之を印行するに非すや。英國も亦「ブリューブック」と稱し外交上の結果は之を毎年國會に呈出するに非すや。苟も事の一たひ定まりたる以上は已に秘密の圏套内に在らさる事項は宜しく之を世人に知らしめ。當時の外交官の措置の當否巧拙等を充分研究し。總て事實上より外交の事項を論議し去らさる可からす。否らされは千言萬語盛な虚論に歸して。終には外交問題の方針を過つの結果に至る可し。是を以て吾人は斯かる問題を取りて事實上からヤシ〳〵論じて。將來の出來事に啓沃するは實に今日の急務なりと云ふ可し。是れ余か本題を提出したる第二の理由なりとす。故に本題は勿論公法上より講究せさる可から

すと雖も併なから政略上より之を討尋せさる可からさるの結果に歸するなり。

今一つ本題は。政治上の考を離れて討議する能はさるものあり。今日の萬國公法なるものは果して一定不變のものなる乎。否な決して然らす。公法の上には立法部あるに非す。司法部あるに非す。公法其ものも亦制裁あるに非す。或場合には何人も公法を作り得へく。何國も公法を作り得へし。是れ即ち今日の所謂萬國公法なり。試に萬國公法の歴史を見よ。或は學者にして出て公法の條款を作りし例もあり。或は新造の國にして公法の條款を作りし例もあり。然れは則ち日本なるものは太平洋上に萬國公法新款を作りて公法の不充分なる所を改良し。或は不足なる所を增加するの位置に在り。是故に日本か萬國公法に對して議論をする時には。西洋人の立て置ける萬國公法の所不足なる所を吾人日本人自から之を作るの決心なかる可からさるなり。吾人日本人は既に今の萬國公法を定木にして事を討議すると云ふか如きに滿足して居る能はす。我より已に萬國公法を改良し。太平洋上に起る問題に就ては新條款を作出するの決心を以て論する以上は余は政治上の考を此間に有して講究せさる可らすと思

考せり。

是れより應に本題に入るへし。抑〻此巨文島は朝鮮の南海に在る所の一の小島なりと雖も。曾て久しく本邦にも駐在せし英公使パークスか此島は他日東洋の一要地なりと前言せし所の處なりき。然れとも爾來十數年何れの國も幸にして手を着けさりしか一千八百八十五年中央亞細亞の境界問題起り一時英露平和の談判は殆と調はす。將に干戈に訴へて之を結着せんとするの場合に際し。翌千八百八十五年英國の東洋艦隊は突然巨文島を占領して。砲臺を築きたりし。先つ事實の點は此に止め。是れより先つ討究す可し。是に就き余は二樣に分ちて之を論す可し。第一は即ち英國か巨文島を占領したるに就き日本は喙を容れて故障することを得る歟否や公法上には已に決定したる明文あるか如何といふことを吟味するに在り。當時巨文島を占領したる英國の意は露西亞か浦鹽斯徳より南出し來るに當らんと欲するに在りしや疑なし。而して此結果か我日本に如何なる影響を與へしやと顧れは我國は萬國公法上より故障を言ひ得るたけの事情あるを見るなり。其故如何。第一公法上に於ては何れの國も同一の權利を有せさるは無く。已に同一の權利を有するか故に何れの國も亦他

國に對するの義務を有せり。即ち萬國なるものゝ存立する以上は萬國相互の國と國との間に取る可き義務なるものあるを公認したるは即ち萬國公法の骨子なり。若し其れ初めより此義務無ければ萬國公法は成立するを得さるなり。因て今此義務なるものは如何と吟味すれは自國の利益になるか故に勝手氣儘に他國の利益を損害し、他國の利益を横奪す可からすといふに在り。此れは是れ損害し横奪せんとする者の一方より之をいふなり。若し其の損害横奪せらるゝ者の一方より之を言へは我か他國に對して義務を盡すものは即ち正當に自國を防禦し。自國を保し行くの基にして。是を公法上確に公認したる條款となす。再言すれは正當防禦か一國の法律に於て吾人相互の間に公許せらるゝ如く。自持自主の權利も亦萬國の間に公認せらるゝ所なり。故に巨文島の占領に對し日本は正當防禦として斷然之に容喙し得るの權利あり。已に容喙し得るの理由ある乎と云ふことは第二の問題とある可し。吾人は今ま之れに對しまか〳〵の理由ありと云ふ事を公法上より割出さゝる可からさるあり。

日本は諸君の知れる如く亞細亞の東岸に在りて。日本海と云ふ海峽を北面一帯に有

するの國なり。我已に日本海と云ふ名稱を負へる海峽を帶ひたる以上は日本海の日本海たる實を握らさる可からさるなり。徒らに虛名を有するも將た何の補かあらんや。實とは何そや。我れ實に我日本海を蹂躙せられさるたけの備をなすと云ふことなり。下の關にても敦賀にても北の隅より南の端まて暴力を以て我に向ひ來る者を殲滅し去るたけの備をなし。一朝我國の利益を侵害し來る者あれは。何時にても之に對して相當の處分を爲さゝる可からす。今まて其れ巨文島は日本海に對して如何なる關係を有する乎。諸君の知れる如く實に峽の南口。對馬に對する處に在り。故に一旦巨文島を他國に占領せらるゝ時は我對馬の價値は殆と半に減せらる可し。其故如何。日本海の南口と渤海灣に對しては對馬は第一の要鎭に在り。尙ほ之れより一歩を進むれは日本海及ひ渤海灣のみならず。支那の南東黃海にまて對するの要鎭なり。然るに今ま日本海の南口に瀕したる巨文島を他國に占領せらるゝ時は。爰し今の日本海は對馬を以て尙ほ要鎭とするを得るも彼れ巨文島に砲臺を築き分營を置きたる以上は。對馬の要は僅に對馬と九州との間の利益を保護するに止まりて。對馬と朝鮮との間に對しては以前たけの權利を掌握する能はす。是れ豈對馬の價値をして其半に低下

せしむるものに非すや。加之日本海に對し日本は宜しく其全權を掌握すへしと云ふの條款は巨文島の占領に由りて非常の侵害を被むるものに非すや且つ其れ巨文島は日本海のみならす。日本海を出て支那と日本との中間なる渤海黃海の要路に當れるに非すや。是に由りて之を觀れは其占領は日本の九州より上海の間に利益を保護するにも亦大妨害を與ふるものなり。

尙ほ又今ま一つ講究し置かさる可からさる事は。公法上の問題なるものは時の遷移に依り或は物の發明等に依つて頗る變化し來るものなる事是なり。十九世紀の時世即ち蒸氣力發暢の世紀に於て此島の如く必要途に當れる場所を占領せらるゝは一層重大なる問題なりと知らさる可からす。之を歷史に稽ふるに航路に當る島嶼の占領といふ事はナポレオン一世か英國に對する政略より起源せり。故に英國は其の平和條約か維也納に於て調印せられし時。ヘリゴランド島。マルタ島。喜望峰。マルタヤス島を英國は領取せり。是れ其航路を斷たさらんことを欲するか爲なり。(其後英國はヘリゴランド。マルタヤスを還せしと雖もマルタと喜望峰は今に至るまて之を保有せり。其後英國は又た紅海の峽口あるペルム島を占領せり。夫のスエス運河の問題は是

よりして而して起れり。蓋し英國にして若しペルム島もスエズ運河も他國に一任し置くときは印度と本國との途を横斷せらるゝなり。今日の蒸氣を以て盛に運送を事とするに際し此航路を斷たるゝとすれは。英國の生活なるものは其安全を期す可からず。故に英國はペルム島を爭ふに於ても。スエズ運河を爭ふに於ても常に自から正當防禦の問題なることを口實とせさるは無し。是等の問題にして尙ほ且つ正當防禦といふを得れは。日本か日本海或は支那海の今日の航路上より見るも。又他日日本海及ひ支那海の貿易或は航海か盛大に赴くの曉を豫見するも。余は本題に對し正當防禦の資格を以て充分に喙を容るゝことを得るものなりと信して疑はさるなり。

今ま一つ公法上に於て。人の土地を占領したり。或は局外中立若くは友國の土地に踏込んて之を占領したり。之を許すは如何なる場合に於てする乎と云ふことを講究するの必要を見る。之に就きては古來其類例も寡らすと雖も。大凡自家の利益か斯く斯くの場合に至れは如何するも見込あらすと云ふ時には亦踏込て他の土地を占領するを得るなり。更に反對の一方より見るときは自分の利益を保護する爲めに他人の物を取るも妨けなくは。自分の利益を害さるゝに對して之に故障を言ふことを得る

は固より論なきなり。以上自家の利益を保護するか爲めには他人の土地を占領するを得へしと云ふ條款は直ちに巨文島占領問題に適用す可し。夫れ戰時には勿論他人の島嶼を占領することと自在なりとすれは。巨文島占領の場合は果して如何なりしか。英國と露國は當時殆と戰端を開かんとするの際なり。英國の方より之を見れは自國の利益を保護する爲め英國か太平洋上に於て巨文島を占領すると云ふことは勿論公法上之を許して敢て不可なかる可し。然れとも之に就きて日本は此島の占領せらるゝをみたけそれたけ利益を侵害せらるゝを見れは。喙を容るゝことを得へきなり。是に於てか討論問題は乃ち茲に起るなり。故に巨文島占領問題に就きては。此島の占領か日本の利益を害したるもの乎否らさる乎と云ふことを第一に證據立てされは之に對して喙を容るゝことを得るや否なやを決す可からす。余思ふに我利益を侵害されたるは通商航路の點よりしても勿論之を證據立てゝ故障するを得。又日本海の南口を殺かれたる點よりしても勿論之を證據立てゝ故障するを得るあり。此に至りて始めて東洋の大勢上より巨文島を占領せられては日本の一大不利益なることを論斷し行かさる可からす。否らされは即ち巨文島か果して幾何日本の國利を害したる乎。

害せさりしかと云ふ斷決を下すこと能はさるなり。

余は太平洋の局面より見て、巨文島の占領は均しく大に日本の利益を害せられたる者ありと云ふ感情を抱けり。是れより此の點に就て論究す可し。第一東洋に於て國を立つるものは、日本と支那と朝鮮となす。而して朝鮮をして獨立せしめたるは實に日本なり。始めて獨立國として條約を締結し其後他の各國をして之に倣はしめ、朝鮮をして世界の上に獨立國として成立せしめたるものも日本なり去れは朝鮮國に對し兄國たる者は日本なり。然るに今兄國として其弟國の土地を兄國に案内無しに他國より占領するを傍觀して默々然たるものは即ち日本自から其地位を自棄するものと謂はさる可からさるなり。余の考を以てすれは當時東洋に於て日本か主權を握り、太平洋上の利益を我利益とするの威力を而も東洋に於ける問題上に揮はさりしは實に非常の國損を取りたるものなり故に今ま之に故障を容るゝの權あるや無きやと云ふことに立ち歸り來て、當時日本の措置は善かりし乎將た惡しかりし乎と云ふことを政略上講究し見さる可からす。余は思ふ彼の場合に際し一手を下さゝりしは東洋に於て日本の位地を顧る下したるものなり。苟も日本にして東洋に於て業

を爲さんと欲しなは彼際に突込みて朝鮮の爲めに一臂の力を出さゝる可らさる問題なりしなりと。

尙ほ此問題に就き支那に對する一方より講究し來るときは更に日本の一大失策を見る可し。日本たる者は當時英國に向ひ巨文島の占領は不法なり、露國と已に平和の好に復せし以上は一日も早く貴國は巨文島を棄てさる可からすとの旨を支那に對するの方略として一言し置かさる可からさるの問題なり、抑〻日本は東洋に於て何處までも支那と友國として相待ちて行く可き位地に居れるに非すや。巨文島の占領は正しく我友國の位地か之か爲めに利益を害されたるものなり。何となれは巨文島は日本海に對するよりも寧ろ支那の渤海灣に對して痛切の利害を有すれはなり。或論者は巨文島は支那を衝く時の第一の足掛地なりとまて論したる程にて、支那よりして之を見れは其占領は獨り對馬の價値を減するの比に非れはなり。是故に支那は當時現に之に對して故障を入れ居れり。其後と雖も支那は朝鮮に對する自己の位地上より、又自己の國利上よりして巨文島の事件に就て非常に英國に突き込みしなり。然るに日本は即ち如何。漠然として聞かさるなり。卒然として支那を見れは太た遲鈍な

るか如しと雖も、其實決して否らず。此巨文島の問題に就ては、之を太平洋の大勢上に利用して熟練なる外交の手際を顯したるを見る。其手際は即ち如何。初め英國は露國に對するの方略として巨文島を占領せしかとも、之を維持するには第一に財用を要すること極めて多く、第二に香港と巨文島と二ヶ所に艦隊を分置するは軍略上策の得たるものに非ず。第三に日本か加奈陀との商賣上之か爲め充分の目的を達する能はず。第四に巨文島占領の目的は元と露西亞に對する策より出てたれは他に此島占領の目的に償する策ありて之と代ゆるを得れは英國は即ち滿足す可し。是を以て支那の請求に對し英國は巨文島を棄つ可きを答へたり。然れとも英國は之を棄つるに如何なる條約を以てせし乎。英國は則ち支那に向ひ巨文島を明渡すに就きて何の條約を以てせん乎を突込しに、支那は之に聽して曰く、露西亞をして他日巨文島に手を下さゝる可しとの保證を與へしむ可しと。是に於て支那は露西亞に談判し、終に「他日巨文島及其海岸を露西亞は決して占領せさる可し」との保證を取り、乃ち之を英國に示し、貴國の希望する如く斯の通りの書付を取りたれは巨文島は速に棄てらる可しと英國始めて之に同意し、更に支那に向ひて云く、然らは將來此太平洋の問題は英清

互に同盟して露西亞に當らんは如何にと。此相談終に成立して英國と支那とは密着なる聯合をなすを得たり。即ち是れより商賣上或は政治上に此聯合か東洋の表面に生出し來れり。英國は勿論支那も亦此の如く此問題を利用して、國位國利を上進するに意らず。而して日本は一言も喙を其間に容るゝなく默視傍觀以て其機を棄つ。余思へらく是れ東洋の大勢上實に日本近來の一大失策なりと。

尙ほ諸君之を思へ。若し日本か巨文島の事に喙を容れて之を朝鮮に返さゝる可からさることを主張せしならは、英國と支那と聯合せし其一半の利益は日本と支那との間に成立し行くへかりしなり。若し此時に支那と事を共にせしならは其結果として日本と支那と密着の交誼は更に一層進み居りしや疑なし。然るに慮此處に出てさりしは亦是れ實に大變な遣り損ひありしなり。若し其れ當時假令ひ日本か支那と共に英國より巨文島を奪回す可しと相談しなは、其相談せしのみを以て、尙ほ支那と共に東洋の局面を興起するの結果を來せしならん。今一度太平洋の大勢上彼の占領か日本に害を貽すと云ふの點に復りて之を觀るも、日本一たひ言を出し置かは將來日本海及ひ太平洋の南より來る航路に就て我國は對馬に於て充分の目的を達するを得

へかりしなり。然れは巨文島の事は已に過去に屬し。今日は左ほと痛切の感なかるへきも他日に於て大に考ふへきものには非さるかと思はる。考ふるに日本海の航路及ひ商業は將來大に隆盛に赴くに相違なし。現に露西亞の陸軍參謀士官か草したるものには。太平洋及亞細亞の利害得失上佛蘭西。獨逸。英吉利。露西亞の利益は他に非す。今後は一に日本海への一面に集る可し云々と。唯た此一點より之を觀ても日本は此日本海の主權を把持せさる可からさるに非すや。故に日本海の主權を一分他國に占取せらるゝは即ち太平洋の大勢上。日本の位地に一分の損なり。二分占取せらるゝは即ち二分の損となす。日本たるもの宜しく深く是等の邊に注意し。常に自國の利を損せさる樣。正當防禦の途を講すへし。昨年英國の宰相か演說せし一節中頗る面白き譬あり。其言に曰く國と國との交際は毫も一個人と一個人の交際に異なるとあらすと。今ま巨文島の占領は恰も一個人が利益を害せられたるに同し。故に日本は害せられたる利益を取返へす上に於て之に喙を容るゝことは。公法上に於て充分出來。又政畧上に於ては之に喙を容れさる可からす。抑此問題は今日に於て此研究の結果を收むるものに非す。然れとも今日斯かる問題を充分研究し置くときは。他日斯くの如き事件突

起する時に際し。直ちに諸君の決心を見るを得へし。斯かる問題を事實上より研究し置かされは一旦緩急右に迷ひ左に惑ふの恐なきを必せす。

或論者は本題を戰時及び平時の二面より觀察し戰時に於ては朝鮮と同盟し居らさる以上は日本は故障を言ひ得られす。又平時に於ては均勢上或は不正の所爲に抵抗する場合の外故障し能はすと斷定せられたり。余は論者に向ひ敢て一言を呈せん。凡そ公法を讀むに方りて局外中立の場合を研究する時には大躰の規則を胸中に記臆し然る後小個條に移るを要す。大躰の規則を度外にし。單に小個條に渉りて研究し。之を事實に應用するときは大なる謬妄に陷るを免かれさるなり。報告には漏れたるも確に余の前會に言ひ置きたる如く公法上大躰の規則に於て苟くも國を建つる以上は互に公法を遵守すへき義務あり。若し否らされは公法は一日も行はる可らさるなり然るに公法の大躰に「パット」を云ふ一字を置くは。必竟「セルフプレセルベーション」即ち一國に於ける正當防禦―一國を維持する所の權利は公法に從はさる可らすと云へる義務よりも一層重きものなりと大躰上に於て許したる次第あり。此く大躰の規則を一定し置き。而して後戰時には如何平時には如何と細目に渉り行くものなれ

は今此の占領事件に就ても大躰に着眼して立論し然る後に細目の規則に移るを要するなり。苟も否らさらんか大局の議論謬妄に陷るへし是れ公法を讀む者の注意せさる可らさる所なり。

前にも述へたる如く余か發題の精神は東洋の大勢上より討究するに在り故に本題を論するに方りては公法とは言語上に止まり。其の精神は亞細亞の大勢上日本は如何にすへきやの討議に外ならさるなり。之に就て余は前會に言殘したる意見を是より說起さん。

余は前に於て巨文島の占領に對し。日本は公法上勿論故障し得へしと言ひたり。而して又當時之れに故障せさりしは政策上大なる失策たることを言ひたり。今日は一層廣く歩を進めて斯の如き場合に處して國を維持するには。斯く爲し得へしとの理由を歷史上より着實に證明せんと考ふるなり。抑巨文島を一千八百八十五年英國か占領したる際日本は之に對し一言半句の故障を言はさりしは畢竟言ひ能はさるか爲め歟或は他に事情ありしにあらさる歟を一考せさる可らす。外交上に於ては單に一方のみを見て事を處す可きにあらす必らずや一方を見ると共に他の一方を併せ觀て而して後に政策の當否を判斷せさる可らさるあり。當時日本か此の占領に容喙せさりしは何故そと問ふに恰も條約改正の談判最中に在りて日本の要請に對し英國か稍意向を動かしたる際ありしを以て。此の際巨文島の占領に故障を言出すときは之れよりして英國か後ろ向になりはせさるやとの心配の爲めに容喙を控へたるは是れ當時の當局者なりしならんと考ふ果して余の所見の如くならは條約改正の議論に後ろ向かるゝを恐れて。巨文島の占領に容喙せさりしものと判斷を下さゝる可らさるなり。然るに此事は條約改正の問題と比較すへきものにあらす。勿論條約改正は焦眉の問題なりとするも。其事業は後日に至りても出來へきものなり。之に反して巨文島の占領に故障せさる一事は其の禍十九世紀に止らすして或は二十世紀。二十一世紀にも及ふ永久の問題なり。今其の所以を說かんに。是れ實に我國の大失策にして。若し又將來之れと同一の場合に遭遇せは。日本人たるものは如何なる方針を取て之に當るへき歟の決心も自ら此一事より出て來るへきものなり。世或は之を以て朝鮮近海の一小島を英國か一時占領したりと見るものあらんと雖も。之れ決して然らさるなり。夫れ巨文島小なりと雖も朝鮮版圖の一

部なり。若し朝鮮の版圖の一部を占領するを許したりとせんか。則ち朝鮮版圖の全部を許したると同一の理なり。其の一部を占領するに方り日本は默して故障を言はさるときは若し朝鮮全部を占領するときは如何。試に其時に至り日本より故障するとせんか。何故に一部の占領には干渉せさりしかと英國より反問せらるゝことあらは如何。若し一部を占領することを承諾するならは。何故に全部を占領することを承諾せさる歟。地理上。航海上。國防上より觀て巨文島は殆と朝鮮の半に匹敵する所を占領するに相當せり。然るに之を默々に附し去りなから。今にして隙を容るゝは是れ入らさるお世話なりと英國よりは言ひ得へき理なり。故に日本は斯の如き場合を見ることを決して冷淡なる可きにあらさるなり。

此に由て之を觀れは。一部の占領に際して故障を爲し置かさるときは大躰の占領に際して不都合なるを以て此場合の「アッサムプション」に於て日本の故障をなさゝりしは大失策と言はさるを得さるなり。今ま若し朝鮮を他國に奪はるると假定し。日本の蒙る影響如何と考るに。其結果は實に日本の獨立「セルフ、プレセルベーション」を失はしむるに至る可し。試に思へ。日本か大陸に向つて手を出さんと欲せんか。何れの處

より手を出すと云はゝ。其向ふ所は露西亞にあるも支那にあるも先つ朝鮮を經由せさる可らす。又彼方より日本に來るにも方りても亦然り。左れは先年伊藤大使が支那に赴き天津に於て談判したるは則ち朝鮮の問題にあらすや。當時清の南國か尚か故障を斯くまでを爭ひたる事と顧れは則ち朝鮮は何れようするも得失の繫る所極めて重大の地なるを以ての故にあらさらんや。斯の如き要地決して輕視すへきにあらさるなり。之を歐羅巴に徵するに。彼の白耳義と云へる小國は恰も朝鮮と同一の地位に在る者なるかゆえ「ナポレオン」が之を屬外中立の國とせる政略の由て生したる目的は何れにありやと云に。佛國か英國を攻擊するときには必らす白耳義に出てて英國に來るへき順路に當れはなり。「ワーテルロー」の戰爭の如き「ナポレオン」は弱小なる白耳義の一國を蹂躙せんとの目的にて來りしにはあらす。曾て印度を取られしとして失敗し露西亞に向ひて失敗し。間接の手段にては到底英國を害むること能はさるを以て。直接に英國を征討するの目的を以て「ワーテルロー」に來り。將に英國に入らんとしたるに外ならす。則ち途を白耳義に假りたるなり。之を以て英國は「サセックス、オフ、ウエリントン」をして聯合兵を以て當らしめ。白耳義の「ワーテルロー」にて「ナポレオン」

を打破りたり。斯の如く英國より太陸に向ふも。太陸より英國に向ふも。先つ白耳義を取らさる可らさるの要地なるを以て。維也納の會議に於て。佛國の占奪したる部分まても取返して之を和蘭に付し。英と佛との間に介立する所の國を作りしなり。然るに其後和蘭と「ザーランド」と相協はす一方は商業國。他方は製造國。一方は新教國。他方は舊教國なるを以て。其間和熟せすして漸く亂れ來り。內亂起りしかは。接近したる歐羅巴の三大強國は之を坐視せす。英の「ロード。パーマーストン」は瞻顧せすして干渉を試み。佛國も又之に干渉し。遂に和蘭より白耳義を裂て之を局外中立國となしたるなり。試に今佛國が白耳義を取るとせんか。英國は決して默視するものにあらさるなり。而して朝鮮は白耳義の如く日本は英佛の如き關係ありとし。或る一國か朝鮮を取るに方りて。日本たるものは之を默視して止むへき歟。將た之れに對し十分の故障をなすへき歟。余は曰はんとす。直に故障せさる可らすと。而して其曰實とする所は。日本將來の存亡に關す。則ち日本の「セルフ、プレゼルベーション」の權利を害するか故に故障せさるを得すと。言ひ得るなと固より疑無きなり。

東邦協會の發會式に於て。日本は東道の主人なり。東邦協會の目的は東道の主人たるの實を擧くる爲めに勉強するものなりと聞けり。然るに東道の主人と單に之を空誦するのみにては何の用をもなさゝるなり。且つ余の前に於て陳へたる如く。宜しく東道の主人たるの實を擧けさる可らさるなり。而して巨文島占領の影響の直接に關係する所日本海にありて日本海たるの實は之れか爲めに一空に屬するなり。又東洋の大勢上日本か東道の主人たるの實を擧けんとする以上は。此等の事に喙を容れすして他國に取らせたるは。是れ其實を擧くるの所爲と云ふ可らすして。東道の主人は一の虛名のみ。故に曰く。當時巨文島の占領に故障せさりしは日本の大失策なりと。

日本か斯く失策したるに拘はらす。眼を轉して支那は之に對して如何なる擧動をなしたる歟。既に前會にも述へたる如く。故障をなしたることは諸君の知らるゝ如し。而して尙ほ一言之れに附加すへきことあり。是れ余か架空の說にあらす。其姓名は公言するを憚れとも證人となるものあるなり。巨文島占領の當時の長崎縣知事なとは之を知るならん。支那は此報に接するや。丁汝昌をして軍艦を率ゐ。長崎に來らしめ。英の艦隊指令長官に對し。此占領の擧動は實に不屆至極なりと談判したるに。指令長官は

本國の命に出でたるものなれは我等は是非の返答をなすことを能はすと答へしと云ふ語るに丁汝昌の一言の故障の結果は則ち先日申しおたる如く英國をして一たび占領じたる巨文島を捨てゝ終に英國と支那との間に政治上及び商賣上の聯合を來たさしむるに至れり嗚呼日本たるものは當時英國に對し巨文島の占領は許すことを能はずと斷乎たる照會に及はさる可らさるの必要ありしなり假令ひ英國にして之を容れさりしにせよ是れたけの手續をなし置かさりしは千古の遺憾と謂はさる可からす誠に將來英露の衝突より英國再ひ巨文島を占領するの場合ありと假定せよ日本が之に故障を試るは最も困難なるへし何となれは我假令之に故障を容れん歟英國は乃ち之に答へ先般拙者か之を占領したる時何故故障し給はさりしやとの一言を以す可けれはなり則ち一千八百八十五年日本が一言の談判を試みさりしは返すゝゝも將來外交の局に當る者に不利益なる場合を殘したるものと云はさるを得さるなり。

外交歷史上に於て討究すへき事あり凡そ外交上の事は空理空論の能くする所にあらす故に余か此の問題を出したるは着々事實上の議論をなし將來同一の場合生したる時國民の決心をなす準備を取るの目的に外ならす而して此問題よりして講究する紀振出支那の哥老會謀叛事件には日本は如何なる政策に出つへきやと云ふことは巨文島占領問題より推して考ふれは直ち自から其意見定まる可き筈なり既に述たる如く巨文島を英國より取返さゝる可らすと日本か言ひ出したるならは將來の大勢上に利益あるのみならす支那と日本との關係か如何になるやと云ふ所より一歩を進めて今日哥老會事件に之を適用するを得へし則ち全く此場合に當て嵌るものなり凡そ斯の如き問題はは其の問題より起る所の利益のみを望むへきにあらすそれよりして他の種々の場合則ち今回哥老會の場合にも應用して得らるへき利益をも望まさる可らさるか故に此の問題を提出したるなり而して巨文島事件も前後二回に渉りおれは柯太交換事件等を討論するときは露西亞に對し日本は將來如何なる政策を取らさる可らさる歟の問題に大なる參考となるへし又臺灣事件の如きも深く之を討究すれは他日日本は南洋及支那英國に對し如何なる政策を取らさる可らさるやの問題に十分の參考とならん試に一例を擧れは巨文島占領の場合に支那は故障したるか爲め今日に於ては支那と英國との間